

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	家電量販店（経営者）	・年末需要と現行のエコポイント制度の最終月が重なり、テレビを中心に売上の増加が期待される。
	やや良くなる	スーパー（店長）	・9月前半までは高温で推移していたが、後半から気温が例年並みに下がってきたため、衣料品、防寒関連、鍋関連といった気温低下に伴い動き出す商品がようやく動き出したことから、今後の景気は良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・暑さの影響もあったが、来客数も販売量も好調であり、消費の低迷を感じないことから、今後についてはやや良くなる。
		家電量販店（地区統括部長）	・エコポイント制度により、年末にかけてテレビの最需要期が間違いなく生じるため、期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・函館～仁川便では、搭乗率が高いことから機材を大型化し、座席数を増加させる予定であることから、今後についてはやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見ると、国内旅行は10月が前年比93%、11月が前年比75%と勢いが無いが、海外旅行は10月が前年比119%、11月が前年比139%と、久しぶりにかなり期待できそうな勢いが感じられる。
		美容室（経営者）	・春から夏にかけては先行きに対する不安が大きかったが、あまり状況が悪くならなかったことから、いくらか消費意欲が高まっており、今後についてはやや良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・天候がどうなるかにもよるが、客が慎重な買い方であることから、季節物の商品をすぐには買わない。また、秋冬物に関してはファーの価格高騰なども言われているため、決して良くなるとは思えない。
		商店街（代表者）	・傾向としては変わらないが、客の気持ちとして、景気が悪くなるのではないかという考えが奥にあるため、今後も変わらないまま推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今月は、たばこの値上げに伴う駆け込み需要があったため、前年並みの売上でとどまったが、実態としては非常に良くなかった。駆け込み需要がなければ前年を8%程度下回っていたと思われ、こうした状況がしばらく続いていることから、今後も変わらないまま推移する。
		百貨店（売場主任）	・10月は暖かい日が続くものの、11～12月は非常に寒くなるとの長期予報から、ジャケット・コート・防寒具等の冬物商材の動きに期待があるものの、全体的に客単価の低下が見込まれ、巣ごもり消費という状況も考慮すると、先行きは一部不透明である。
		百貨店（売場主任）	・3～4月は買上客数が前年を上回ったものの、5月以降は前年割れが続いている。9月は残暑の影響があるため、判断が難しいが、その要因を差し引くと、前年割れだったと思われることから、今後も変わらないまま推移する。
		百貨店（販売促進担当）	・来客数は伸びているものの、買上客数の増加にはつながっておらず、購買意欲が鈍化していると感じられることから、今後も変わらないまま推移する。
		スーパー（役員）	・たばこの駆け込み需要の反動で、10月からの数か月は全体の売上が多少厳しくなる。ただし、これは一過性の動きであり、景況感がこれ以上悪くなることはない。
		衣料品専門店（店長）	・客との会話のなかで、先行きが非常に暗いとの話をよく聞くため、今後の景気が良くなるには大変な状況にある。
		家電量販店（店員）	・エコポイント制度の効果で12月までは薄型テレビ、冷蔵庫などがよく売れる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今後、客に夏バテの反動の症状などが出てこない限り、低迷したままの状態推移する。
高級レストラン（スタッフ）		・各地で食に関するイベントが盛り上がっていることから、観光客の流れは良いが、単価の低い物から売れていく状況であるため、景気の回復は当分見込めない。	
旅行代理店（従業員）	・円高が続けば、海外旅行の好調は維持されることになる。一方、中国からの海外客の動向には注意が必要である。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店(従業員)	・乗客数はある程度の水準を維持しているが、単価が低いレベルにとどまっているため、好転の兆しは見えない。
		タクシー運転手	・電話注文や乗客数の増える要素が思い当たらない。
		観光名所(役員)	・これまで乗客数の増加を支えてきた海外客の動向に、円高進行などのマイナス材料の影響が懸念される。また、国内の景気回復にも力強さが感じられないため、先行きに明るい期待が持てない。
		その他レジャー施設(職員)	・売上増加に向けて、サービス向上策を検討しており、実際に実施予定もあるが、数か月中での効果は見込めないため、変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・周りの商店や仕入先の状況を聞いても、売上の増加や客単価の上昇に関しては日々厳しい状況になっていることから、今後はやや悪くなる。
		商店街(代表者)	・最近の中国問題は客に大きなインパクトを与え、政治に対する不安感を増幅させている。また、デフレ傾向も変わることがないため、百貨店や専門店が中心の商店街では、衣料品を中心に前年の売上を維持するには厳しい状況が続く。
		商店街(代表者)	・前年と比較すると、仕入金額が25%程度減少していることから、景気が上向きとは言えず、今後についてはやや悪くなる。
		商店街(代表者)	・例年、11～12月中旬まではイベント期間を除き来街者の増加は見込めない。前年もそうであったが、年末賞与が出るまでは買い控えする傾向にある上、年末年始の生活必需品のみを購入する客が増えてきていることから、今後についてはやや悪くなる。
		一般小売店[土産](経営者)	・乗客数も客単価も落ちたままであり、良くなる材料は1つも見いだせないことから、政府の景気対策に対する強い表明がない限り、景気は今よりも更に悪くなる。
		百貨店(販売促進担当)	・尖閣問題の波及により、中国旅行客が減少することが懸念される。また、ようやく気温が下がってきたが、今後は本州の秋冬物の実売期と重なるため、商品も集めにくくなる。
		スーパー(店長)	・今後も円高傾向が続くことになれば、輸出が打撃を受け、企業収益が圧迫されるため、更なるデフレが進行する。
		スーパー(店長)	・たばこ増税の反動、競合店のオープンから、今後の売上は苦戦傾向になる。
		スーパー(企画担当)	・残暑の影響で秋物商材への切替えに難しさがある。また、たばこの売上が9月は大幅増となったため、10月以降の反動減が見込まれるほか、政治不安や円高株安の持続などが重なり、年末にかけて消費が相当冷え込むことになる。
		スーパー(役員)	・たばこ値上がり前の特需の反動で、年末までたばこの売上が前年の半分以上となる。また、猛暑の影響で、農産物、水産物が高値傾向にあり、売りにくく、買いにくい状況となっていることから、今後についてはやや悪くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・たばこまとめ買いの駆け込み需要の反動が発生し、客の購買力が低下するため、今後は客単価低下の流れに戻る。
		乗用車販売店(従業員)	・エコカー購入時の補助金制度が終わったため、今後の販売量は少なくなる。
		高級レストラン(スタッフ)	・年末を控えて、今後の乗客数は減少傾向になる。
		観光型ホテル(スタッフ)	・団体旅行・個人旅行とも、秋からの観光商品の現時点の予約状況は、前年や前月と比べて10ポイントほど悪い。円高や中国との関係で不協和音が出てくることで、順調であった中国客の入込にも不安が感じられるなど、今後の上向き基調は見込めない。
		タクシー運転手	・市内ではタクシーの減車が進んでおり、当社も12月までに10%の減車を予定しているが、1台当たりの売上は10%も伸びないため、減車した分、会社の売上が減少することになる。
		タクシー運転手	・これまで少しずつではあるが、景気は回復していると判断してきたが、9月後半からの落ち込みをみると、天候の影響なのか、景気の影響なのか判断がつかないため、この先2～3か月後の景気はやや悪くなる。
		観光名所(職員)	・北海道観光の開散期に入ったことに加えて、国内景気の動向及び中国との今後の状況等にも不安要素があるため、楽観視できない状況にある。入込客の増加の要因は見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・客による値下げ圧力は依然として強い。所得も下向きであることから、デフレ基調はこれからもかなりの長期間続くことになる。
	悪くなる	乗用車販売店（営業担当）	・過去1年半にわたったエコカー補助金の恩恵もなくなり、需要を先取りした反動が出てくることから、年内は厳しい状態が続く。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者） その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・技術者の調達が難しくなっていることから、今後についてはやや良くなる。 ・出遅れていた鉄骨加工の中型案件の施工が始まるため、今後については期待できる。
	変わらない	家具製造業（経営者）	・国内には良くなる理由が見つからないが、経済環境が落ち着きを見せつつあるため、当面は今の状況が続く。
		金属製品製造業（役員）	・景気回復の明るい兆しが今のところ見当たらず、一般消費者の購入意欲がなくなってきていると感じるため、今後も厳しいまま変わらない。
		建設業（従業員）	・これから冬にかけて着工する建設工事は、着工期間が定められている補助金対象工事がある程度で、他は全く期待できない。
		輸送業（支店長）	・秋の需要がある程度期待できるため、まずまずと見ているが、問題は円高である。円高の影響がどの程度出るのかにもよるが、多少は影響が出るとみられるため、今後2～3か月は現状の水準のまま推移する。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・回復の打開策となるような要因が想像できないため、今後も変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）	・年末商戦期を迎え、円高や株安、エコカー補助金の終了、たばこの値上げ等の影響により、国内景況感の改善見通しはないため、今後についてはやや悪くなる。
		輸送業（営業担当）	・大豆、米、長いも以外の農産物は軒並み大幅に収穫量が減少していることから、今後の保管輸送に大きな影響が出ることになる。
		通信業（営業担当）	・補正予算の話が出ているが、それ以外に景況感を押し上げる要素が見当たらない。また、最近の日中関係の悪化から、北海道で期待されている観光収入への影響が懸念されるため、今後の景況感もう一押しが入らず、やや悪くなるリスクを感じている。
		金融業（企画担当）	・土木建設業界は引き続き厳しい。政策支援効果も徐々に薄れており、新車販売は落ち込む。観光関連は尖閣諸島問題の影響で、好調に伸びている中国人観光客の減少が懸念される。
		司法書士	・中国問題の影響が懸念される。補正予算についても成立が不透明であり、新規投資等ができる環境にはない。
悪くなる	食料品製造業（役員）	・大きな売上を上げている商品で、この先、販売終了となる案件が数件あるが、それを埋める案件がなかなか見えてこないため、今後については悪くなる。	
	金属製品製造業（経営者）	・円高や株安、中国をはじめとした国際問題など、不安材料しかなく、政治による解決も期待できないため、今後は悪くなる。	
	建設業（経営者）	・手持ち工事が完成してくることに加えて、官・民間問わず工事の絶対量が少ないことから、稼動が下がるのはもちろんのこと、利益面でも非常に厳しくなる。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共工事の発注額がこれまで以上に減少することが見込まれ、更に民間工事も伸びが見込まれないことから、今後については悪くなる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・飲食店や小売業の秋以降の商戦を見越した求人の増加や、建設関連の追い込み時期に向けての求人の増加が見込まれる。全般的に極端な求人増はないまでも、求人意欲に関してはこれまでと比べて一段アップすることになる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・下期の求人が始まる時期ではあるが、大きな変化がみられない。また、求職者も職種を選ぶ傾向があり、なかなか採用までに至らないことから、今後も変わらないまま推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人は増加しているが、基幹産業の農業の収穫時期と重なったものであるため、短期で終息することになり、今後市場の流れは変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・全体の求人件数は前年を上回って推移しているが、伸び率は小さく、前々年の水準まで回復するにはまだ時間がかかる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・劇的に良くなる要素は見当たらないものの、同様に悪化する要素もないため、今後、しばらくは前年をやや上回って推移する。
		職業安定所（職員）	・全体の求人数は上向いているが、景気を占う製造業からの求人は4月以降前年を下回っており、力強さがいないことから、今後も変わらないまま推移する。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・販売関係では、まだ人材の需要があり、年末に向けても高まる傾向にあるが、販売関連の会社に業績を聞くと、前年より悪いようである。それ以外の業種の企業は人材の手控え感が一層強くなっており、以前の人材不足時には派遣を活用していた会社も、アルバイト・パートでまかない、経費圧縮で業績悪化を何とかしのいでいる。これらのことから、これから冬に向かい、企業の業績がますます低迷し、雇用への影響が強まる懸念される。
		職業安定所（職員）	・景気対策効果の息切れ、中国との領有権問題、欧米経済の悪化懸念など、企業経営に対してのマイナス要素が山積みとなっているため、今後について楽観した予想ができない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・大学への求人件数は横ばいで推移している。回復の兆しがみられる一部業界の動きも首都圏からの求人にとどまっており、北海道内からの求人は緩やかな減少傾向にある。今後も年末に向けて、求人件数、更には採用数の減少の流れは続き、未内定者の指導に大きな影響を与えることになる。
	悪くなる	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：（財）東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・9月20日以降、気温が一気に冷え込み、今後の秋物商品に動きが出てくるのが期待される。ただし、暑い状態から一気に冷え込んだことで外出が面倒になり、来街者が減るのではないかと懸念している。
		百貨店（売場担当）	・残暑の影響で今まで秋物を買って控えていた客の来店が予想される。比較的暑い時期から、秋冬のトレンドへの変化はうかがえるので、気温の低下にあわせて盛り上がるのが期待される。
		スーパー（営業担当）	・猛暑から一転して気温が平年化し、季節商材の動きが良くなっている。加えて、米は豊作の見込みで、産地周辺での消費の上向きが予想される。
		衣料品専門店（経営者）	・天候要因により秋物衣料は出遅れ気味であるが、気温が急激に下がってきたので、単価の高い防寒衣料の動きに期待が持てる。
		衣料品専門店（店長）	・ファッションのスタイルが変わったことに加え、業界で行っている下取りセールの影響もあり、古いものを新しいものに替えるニーズが高まっており、例年以上にフォーマルの買換えが増えている。この先、このようなニーズに変化がなければ、スーツの買換え需要期にあたり、景況は良くなると予想される。
		衣料品専門店（店長）	・秋は短くなる、12月以降は寒くなるといった予報も出ており、今月後半の秋冬物商品の動きから、単価の高いアウターコートに期待が持てる。
		家電量販店（店長）	・エコポイントが延長されることになり、駆け込み需要が期待される。
		家電量販店（店長） 乗用車販売店（経営者）	・年末に向けエコポイントによる需要増が期待される。 ・新車の発売が10月に予定されており、ある程度の販売量は見込める。また、自社オリジナルの施策を展開中であり、多少の動きは期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・商談や受注の話は周りから聞こえてくるものの、利益の面で厳しいようである。しかし、金額はわずかでも金が回転している状態が続けば利益は残ることになるので、この状態が続くことを期待する。
		その他専門店〔靴〕（経営者）	・例年並みの気温に戻り、今よりは若干、商品も動く予想される。
		一般レストラン（経営者）	・1月から悪い状況が続くなか、10月からは若干ではあるが予約の動きも見られることから、例年ほどではないが、来客数の増加が期待される。
		スナック（経営者）	・忘年会シーズンに向け、人の流れは多少出てくるのが予想され、売上も上向くことが期待される。
		その他飲食〔弁当〕（スタッフ）	・12月の新幹線の延伸開業による集客増加が期待される。
		旅行代理店（店長）	・10、11月の国内個人旅行の先行受注で若干の回復が見られる。また海外旅行は、12月までの先行受注でみると前年同期比150%と大きく上回っており、国内海外共に申込状況は回復してきている。
	変わらない	商店街（代表者）	・一部にシャッターの開きそうなところがあり期待されるところだが、核となる大型店は苦戦しており、周辺小売店への影響拡大が懸念される。
		商店街（代表者）	・現在の底打ち状況から回復する要因が見当たらない。
		百貨店（企画担当）	・長期化する円高が気がかりであり、製造業の海外シフトなど課題や問題が山積しているなかで、今後の政府の対応に期待したい。
		百貨店（営業担当）	・夏の中元商戦が比較的好調だったことから、歳暮商戦に関しても大きな落ち込みはないと予想される。歳暮商戦が成功すれば、景気は現状より良くなる。
		百貨店（経営者）	・残暑の影響のみならず、客の生活防衛意識が更に強まっているため、回復の見通しがたない。
		百貨店（経営者）	・明確な景気刺激策がない限り、円高と株価低迷の状態は続く可能性が高い。デフレ改善策もないことから、消費者の購買行動も低価格志向が続く。
		百貨店（販促担当）	・気温が低下したにもかかわらず、定価商品の動き出しが鈍く、低価格志向からなかなか抜け出せない状況が続く。
		百貨店（経営者）	・早い冬の到来となれば、売上の回復に期待は持てるが、そうでなければ回復は見込めない。
		スーパー（経営者）	・円高がデフレを加速させていることに加え、経費削減は限界に近いところまでできており、景気が上向く要因は見当たらない。
		スーパー（店長）	・季節感を打ち出せないまま急激に季節が変わり、一気に冬に突入しそうな様相である。これから暖房費がかさむ時期に差し掛かることもあり、消費が上向く気配は見られない。
		スーパー（店長）	・競合店も低価格化を強めていて、客が店舗間を買い回りする傾向が見られることから、1品単価が前年を下回る状況は続く。
		スーパー（店長）	・競合店との価格競争が激化しているため、現在の状況は3か月先も変わらない。
		スーパー（店長）	・食品は、天候要因から売れる商品が前期と全く異なっており、今後も野菜、果物等の農産物の収穫量や水産物の漁獲量によって変動することが予想される。
		スーパー（総務担当）	・当社では、最低賃金や社会保険料の引上げ等により人件費コストも増加しており、収益環境は厳しい状況が続く。こうしたなかで、10月はたばこの特需もなく、気温も平年並みに戻るため、食品の売上の前年比は6月以前の水準に戻ると予想されるが、子ども手当の支給月にあたることから、消費が多少でも上向くことを期待する。
		衣料品専門店（経営者）	・景気回復への具体策がない政権に期待できず、先行き不透明な状況が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・現状から今後も景気回復は見込めない。
		衣料品専門店（総務担当）	・景気はリーマンショック前の水準に戻ってきているといわれるが、一部の業種以外ではそのような実感はなく、厳しい状況は続く。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金による需要の先食いで、今後、販売量が低迷することが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（経営者）	・最近では仏壇もより小さいものが好まれる傾向にあるため、大型のものが売れなくなっており、売上が低迷している。そのような傾向は今後も続く見通しである。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・景気を刺激するような施策が期待できない。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	・景気対策などの改善要素が見当たらず、消費者の生活防衛意識が高まるばかりであるため、対応策は講じているものの、ただちに数字に結び付くとはいえず、年内はこの状況が続くと予想される。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・衣料品の工場が多い中国との問題が長引けば、商品の入荷に影響が出ることは必至であり、商品の安定供給や値段の維持についても今までのようにはいかなることが懸念される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・冬場の需要期に向かい、販売価格の値上げが必要であるが、価格形成に失敗すると業界全体の落ち込みが顕著になる。エコカー購入補助金の影響で新車販売が好調だったことから、それに伴う冬場のタイヤ販売に期待しているが、追加の景気対策がどのようになるかで業界の景気が大きく左右される。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・灯油価格は値上げ基調になっているが、市況はいまだに安定せず、週末のガソリン価格はかなり安くなるため、先行きが懸念される。
		一般レストラン（経営者）	・景気が良くなる要素が見当たらない。
		観光型ホテル（経営者）	・秋の観光シーズンに向けた予約状況は、団体客が多少目に付くものの、10月は前年並み、それ以外は多少下回っている。
		観光型旅館（経営者）	・秋の紅葉シーズンに向けて集客の期待はあるが、客もインターネットなどで一番きれいな時期を調べて直前に予約するようになっており、10月末前後の20日間以外は、予約が大きく落ち込むようになってきている。現状の様子では前年並みに回復する見込みは薄く、売上は前年を下回ることが予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・国内経済が非常に厳しいなかで、それに追い打ちをかけるように発生した中国との問題は、国益はもちろん、経済活動においても大きな影響があるため、早急かつ具体的に国民第一の政策が打ち出されることを期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・広告宣伝費をかけてディナーショー等の企画商品の告知を例年以上に早めているが、反応は鈍く、当面、大きな変化は見込めない。
		旅行代理店（従業員）	・中国との間で尖閣諸島の問題が出てきたこともあり予断を許さない状況となっているが、海外旅行商品は販売量の伸びが期待できる。
		タクシー運転手	・客が減少しているのに車の台数は変わらないため、厳しい状況は続く。
		通信会社（営業担当）	・景気回復の要因が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・政府や自治体による具体的な景気対策が出てこないため、現在の状態が続く。
		観光名所（職員）	・予約状況を見ると極端な落ち込みにはならないが、伸びも期待できないため、現在の状況が続くことが予想される。
		遊園地（経営者）	・秋の後半に向けてイベントの展開を予定しているが、前年を上回るだけの好材料は見当たらない。
		設計事務所（経営者）	・仕事が増えていく要素がどこにも見当たらない。
		住宅販売会社（経営者）	・受注済み物件の工期のほとんどが年明け着工となっているため、しばらくは現在の状況が続く。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・需要期が終わり低迷期に入るため、今以上の景気回復は見込めない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・劇的な変化でもない限り年内は上昇が見込めず、厳しい状況が続く。
		商店街（代表者）	・新政権には具体的な景気浮揚策を期待しているが、あまり見えてこない。この状態が続くと厳しい冬商戦になることが懸念される。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・売り出しをしても経費に見合わず、早急に対策を考えなければならぬ状況が続く。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の来店回数が減っており、悪い状況が続くことが懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・国内、国外共に不安要因が多く、消費者は消費意欲を高める楽観的な気持ちを持ってない。
		一般小売店〔雑貨〕 (企画担当)	・円高の影響が徐々に出てくる。政治がリーダーシップを取れない状況のなかで、個人の所得は非常に厳しくなりつつあり、個人消費は冷え込むことが予想される。
		百貨店(売場主任)	・今後大型催事が続くので衝動買いを期待したいところだが、客は必要な物以外のものには手を出さず、謙虚な買い方になることが予想される。
		百貨店(広報担当)	・現在進行している円高や株安が消費の冷え込みを助長する。
		スーパー(店長)	・農業が盛んな地域特性から、米の作柄の状況によって、食料品などの消費金額の減少につながる懸念される。
		コンビニ(経営者)	・9月のたばこの売上占有率は、28～30%(通常は20%程度)であったが、今後は需要先食いの反動が懸念される。
		コンビニ(経営者)	・10月以降、たばこの値上げが始まれば売上は減少する。
		コンビニ(エリア担当)	・増税前の駆け込み需要の反動でたばこの売上が落ちるのは確実だが、たばこの購入を目的とする客と一緒に買っていた缶コーヒー等の需要も落ち込み、この先3か月くらいの売上は、たばこを除いても非常に厳しくなることが予想される。
		コンビニ(エリア担当)	・猛暑の反動等による来客数の減少が大きな不安材料となっているなかで、たばこ以外の一般商品の動きは良好とは言えず、良くなる兆しもない。天候要因や10月からのたばこの値上げを前に、動きが見えにくいというのが正直なところであるが、社会情勢の先行き不透明感もマイナス要因となる。
		コンビニ(エリア担当)	・たばこの売上増がけん引してきた景況は落ち込む。
		コンビニ(エリア担当)	・増税に伴い、消費者のたばこの買い控えが予想される。
		コンビニ(店長)	・円高の進行やエコカー購入補助金の終了、たばこの値上がりといった暗い話ばかりで、明るい材料が全くなり、来客数も減少することが予想される。
		衣料品専門店(店長)	・景気の先行きに不安を抱いており、ビジネスマンについても買い控えの傾向が強くなると予想される。
		家電量販店(店長)	・依然として低迷している株価の上昇が見込めないことに加え、国の借金が膨れ上がっていることもあり、景気回復の好材料は全くない。
		自動車備品販売店(経営者)	・暖冬の予報どおり降雪が少なければ、冬季の除雪を委託されている建設業者や農業従事者、燃料関連、建機レンタル業者などが大きな影響を受けることが懸念される。
		住関連専門店(経営者)	・例年冬期間は需要が落ちるので、住宅着工減少の影響が急激に出てくることが予想される。また、公共投資の減少もマイナス要因となる。
		住関連専門店(経営者)	・景気の先行きが不透明であるため、客の懐はより一層厳しくなる。催事等を企画する予定はあるが、来月以降も厳しい状態が続くことが予想される。
		一般レストラン(経営者)	・客の話を見ると、どんな職種でも先行き不透明であり、2～3か月先に景気が回復する見通しはない。
		一般レストラン(スタッフ)	・尖閣諸島問題により、中国から物が入らなくなり、商品が値上がりすることが予想される。また、エコカー購入補助金が終了し、消費者の財布のひもが固くなる懸念される。
		一般レストラン(支配人)	・雇用不安が続いていることに加え、思い切った景気浮揚策も打ち出されていないため、今後も厳しい状況は変わらない。
		観光型ホテル(スタッフ)	・販売量、来客数等は、前年実績をクリアできない状況が続く。
		都市型ホテル(経営者)	・近隣ホテルが1店閉店したがその分の客を取り込めておらず、他店に流れたというわけでもないことから、全体的に来客数が減っている。今後も増える見込みがないことから、宿泊部門及び付随しているレストラン部門についても、来客数の減少が予想される。宴会状況も例年と比べ客の動きが6、7ポイントほど悪くなっており、10月以降も同様の見込みとなっている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・新幹線の延伸開業によるシャワー効果が期待されるが、実際には当県への入込客が減少することが懸念される。
		都市型ホテル(スタッフ)	・競合他社の開店の影響で来客数が減っており、売上も前年割れの見通しである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	タクシー運転手	・円高、雇用の不安等、不安な要因を口にする客が非常に多くなっている。また、景気が悪く客が少なくなっているなかで、当月、大手一社が値下げを実行している。このような状況では景気が良くなる見通しはたたない。
		通信会社（営業担当）	・景気が良くなる材料もなく、厳しい状況は続く。
		美容室（経営者）	・現状から、今後、景気が良くなる材料が見当たらない。景気対策自体が打ち出されておらず、判断のしようがない。
		商店街（代表者）	・一般消費は2、3か月前から底打ちの状態、この状態はしばらく続くことが予想される。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・値上げの影響で、来月以降、たばこが全く売れなくなることを予想される。
		スーパー（経営者）	・円高が進んでいるため、流通業の単価は低下する一方である。農家を中心として収入が減っていることに加え、米の不作が見込まれることから、今後、購買力の向上は期待できず、年末に向かって一層厳しくなると予想される。
		スーパー（経営者）	・10月以降、増税によりたばこの買い控えが予想される。また、今年は米の豊作が見込まれるため、価格は下落傾向が続く。
		コンビニ（経営者）	・たばこの売上は、値上げ前の駆け込み需要の反動で、10月以降、少なくとも年内は落ち込む。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金終了後の落ち込みは予想以上である。個人需要の落ち込みは見込んでいたものの、景気の低迷で、安定的な需要として考えていた法人需要にも陰りが出ており、この先数か月の販売量は前年比60～70%前後になる見通しである。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金の効果による駆け込み需要が大きかった分、需要の落ち込みが大きくなることを予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・補助金という名目の値引きがなくなり、具体的な販売促進策もなくなっている。販売条件が厳しくなることから、今後はこれまでのような販売量は期待できない。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー購入補助金終了の影響が出てきており、今後、一層厳しくなることが予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の発表もないことから、大規模な集客は望めない。競合各社との消耗戦になることが予想される。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・いも煮会などでのビール等の需要があるものの、売上の減少は否めない。加えて、たばこの値上げにより来客数もかなり減少することが予想される。
		高級レストラン（経営者）	・すべての業種にわたって朗報がない状態で、自分たちだけが良くなることはない。世の中全体が冷え込んでおり、景気の上向きは期待できない。
		一般レストラン（経営者）	・景気回復のために、一部の特産品や大企業のみを対象とする政策を行っても、地に根付いた文化で生活している人が多い地域ではますます商売が難しくなる。フランチャイズを人口で制限するといった思い切った政策が必要になってきている。
観光型旅館（スタッフ）	・大口募集のキャンセルが発生し、計画の修正が必要となっており、年末まで厳しい状況が続く。		
タクシー運転手	・集客の見込みがなく、良い要素も見当たらない。		
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（経営者）	・現状から、営業収入の増加に期待が持てる。
		広告代理店（経営者）	・新幹線の青森延伸開業に向け、印刷物等の告知物の受注が期待される。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・会社に入出入りする工事業者や商談に訪れる来客の数が増えており、活気が感じられる。このような状況はしばらく続く。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・桃、梨に続きりんごのでもますますで、販売に期待が持てる。
		食料品製造業（経営者）	・現状は3か月前と比べて悪化傾向にあり、景気が良くなる材料が見当たらないことから、今後も厳しい状況が続くと予想される。
		木材木製品製造業（経営者）	・年内は住宅着工も期待できるので、景況に大幅な変化は起きないと予想される。
		建設業（従業員）	・民間設備投資の動きに変化がない限り、現在の状況は変わらない。
		通信業（営業担当）	・目標値からのマイナス分をばん回する要素が見当たらない状況にあり、取引先の反応はこの先も更に厳しくなると予想される。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業担当） 司法書士	・特にこれといった変化要因が見当たらない。 ・深刻な多重債務案件が引き続き多いため、景気回復が期待できる要素は今後も少ない状況が続く。
		公認会計士	・景気の先行きを明るくする材料が見当たらない。公共工事の減少による建設会社の売上減少、消費者の買い控えによる小売関係の売上停滞、企業の設備投資減少の動きが、ここ2～3か月で改善するとは思えない。
		コピーサービス業（経営者）	・企業では経費を抑えようとする様子がうかがえ、小物の売上が予想より伸びていない状況にあるため、必要最低限のものしか購入しないという状況は今後も続く。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・住宅エコポイント及びフラット35Sの延長が決まっているが、この先2～3か月ではまだ需要に結び付かないと予想される。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・同業他社のお話を聞いても、仕事が大幅に減少しているという声が多く、売上の伸びは期待できず、厳しい状況が続く。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・半年先までの受注が不透明で、利益率の低下も著しいことから、現状よりも景気は悪くなる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・政府の景気対策であった、エコカー購入補助金の終了に加え、家電エコポイントも延長後は対象商品が限定されるため、消費意欲は減少傾向に向かい、景気は全体的にやや悪くなるのが予想される。
		建設業（企画担当）	・管内の工事で2～3か月先の案件数が不確定のため、見通しがたたない状態である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・集金先では、リストラされたがなかなか就職先が見つからないといった話を聞いたり、配達員の空きはないかという質問をされたりしている。当店も配達員を補充したいが、人件費が経営を圧迫するので、簡単には雇用に踏み切れない状態にある。消費の伸びが見られない状況が続いており、景気が上向き見通しがたたない。
		経営コンサルタント	・政治の混迷と外交手腕の稚拙さは政権政党への信頼感を失い、じわじわと景気に悪影響を与える。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・秋の需要期を控え、酒類の需要にも期待したいところだが、肝心の秋の味覚、サンマやマツタケなど目玉となる食材が不振で、外食店の需要回復にはマイナス要因となる。
	金属工業協同組合（職員）	・半導体関連の受注量と単価が減少したことに加え、コストダウンの要請もあり、先行きは不透明である。スポット的にヨーロッパ向けの建設機械が10～12月まで増産となっているものの、生産量は総じて減少傾向が続く。	
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・春秋の低温、夏の高温により、米やその他の農作物の生育悪化が懸念される。
		食料品製造業（総務担当）	・需要期ではあるものの、現時点では消費の回復、拡大は不透明である。また、新製品の企画の要望はあるが、コスト面で非常に厳しい状況にあり、対応が難しい。
一般機械器具製造業（経理担当）		・自動車部品については、エコカー購入補助金終了による販売不振に加えて、現状の為替水準が続くことによる、利益の大幅な圧縮が懸念される。	
雇用関連	良くなる やや良くなる	-	-
		人材派遣会社（社員）	・年末、年度末を迎えるにあたり、臨時的な雇用が発生することが見込まれる。ただし、それらはこの春からの採用抑制や契約社員の引き抜きによるオーダー減の反動であり、長期的な回復には結び付かない。
	人材派遣会社（社員）	・住宅業界を中心に営業職の募集が増えつつあり、今後も期待が持てる。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・12月から来年にかけて、自動車関連工場の本格稼働や、エレクトロニクス産業関連企業の工事着工に伴い人の動きが出てくるため、多少は景気が上向くのではと期待している。	
	職業安定所（職員）	・新規求人数と有効求人倍率が2か月連続で増加しており、今後もこの状況が続くことが予想される。	
	職業安定所（職員）	・引き続き、休業などの雇用調整を実施する企業数や実施規模等が減少することが予想される。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣からパート、アルバイトへの雇用形態の変更は見られるが、雇用の総数は増えない。
		人材派遣会社（社員）	・景気回復の判断材料となる求人、雇用の増加は見込めない。
		人材派遣会社（社員）	・自動車関連の製造業を中心に、生産量の伸び悩みが懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・求人数は前年比で増加しているものの、正規雇用の求人は伸びていない。
		職業安定所（職員）	・現状、雇用 zu 若干の改善が見られるものの、今後の動向については予断を許さない状況が続く。
		職業安定所（職員）	・新規求人は増加傾向にあるものの力強さがなく、新卒者向けの求人も低調な状態がしばらく続く。
		職業安定所（職員）	・有効求人数はリーマンショック前と比べて約半分しかなく、有効求職者数が多い状況も依然として続く。また、円高による雇用への影響も懸念される。
	やや悪くなる	アウトソーシング企業（社員）	・公的な仕事は入札になるので、現在の入札制度を見直さない限り、価格の低下が質の低下や社員の意識の低下につながり、ひいては業界全体の縮小につながると懸念される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・業績が回復しない企業が多いなかで、雇用の増加は期待できない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円高など外的な悪化要因が強まっているなか、国内の経済政策は手詰まりとなっており、プラスの要因は見当たらない。
		職業安定所（職員）	・エコカー購入補助金の終了により自動車の売行きが不調になり、各産業にも影響が出てくるのが予想される。
		職業安定所（職員）	・新規求人は増加傾向にあるが、先行きの不透明感から有期雇用が多くなっている。また、製造業では円高の懸念が広がっている。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣社員が単独で労働組合に加入した上で、種々の労働審判を申立てるケースが頻発しており、2～3か月先の業績に悪影響が出るのが懸念される。

### 3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・テレビ等のエコポイント制度対象製品の動きがますます良くなる。
		テーマパーク（職員）	・11月からのイルミネーション営業も開始されることから、新規展示物の好況が続く。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・鉄道会社と観光業界の合同企画が始まり、3か月間当地区の観光にスポットが当たるので、期待している。
		コンビニ（経営者）	・近くのホテルの新規開業と、2か月先のカラオケ店オープンの予定があるので、この影響によりやや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・年末に向かって売り込める商材が出てくるため、その分景気がやや良くなる。
		家電量販店（店長）	・デジタル商品を筆頭に順調に推移する。
		乗用車販売店（経営者）	・ハイブリッドの新車種が発売されるので良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・客単価に変化は見られないものの、個人的な予約客が増えている分、やや良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・紅葉の本格シーズンを迎え、大型の観光キャンペーンも始まることから、客の増加に期待が持てる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・将来的には景気が良くなるとは考えられない厳しい状態が続いているが、2～3か月先はちょうど忘年会、新年会のシーズンに当たるので、景気は悪いながらも少しは動く。
		通信会社（販売担当）	・冬季ボーナスは夏季ボーナスと比較して減少幅が少ないと思われることから、多少の上向きが考えられる。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・2～3か月前と比べて来客数は上向きに転じており、前年度比でも3%くらいの上昇である。また、月極めの駐車契約も前年度比で6%くらい良くなっている。回数券の販売など現金収入に関しても良くなっているため、やや良くなる。
	変わらない	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・今月は運動会、敬老会、お彼岸等の行事が続いていたので、出費がかさんでおり、秋口に向かって財布のひもが締められる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・消費者は衝動買いに走らず慎重で、今年は寒波になりそうだとと言われても、その時にならないと購入には至らない。先の不透明な商売が続くそうである。
		百貨店（営業担当）	・客の様子を見てみると、依然慎重な買い方になっており、余計なものは買わず、よく吟味して買っている。
		百貨店（販売促進担当）	・各商品群とも、前年比のマイナス幅は徐々に小さくなりつつあるが、先行きに対する不安は払しょくされておらず、慎重な購買行動は継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（総務担当）	・10月からたばこが値上がりするため、家計に対する影響がある。食品あるいは、衣料品についても、天候次第だと思われるので、楽観視はできない。
		スーパー（統括）	・円高やデフレ基調が長期化する中で、企業は根本的な体質改善による対応が必要である。現在当社でも取組中ではあるが、現況に追いつけず、まだまだ先行き不透明である。
		衣料品専門店（店長）	・冬のボーナスシーズンではあるが、業績が好調な企業はごくわずかであるために、消費者の購買力は厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・今後、年末に掛けても、基本的に安い車を売るというこのままの状況がずっと続くと思うので、当分の間、良くなる要素はなく、変わらない。
		タクシー運転手	・円高の環境下、製造業の客の減少は否めない。しかし高齢化社会への急速な変化によって、客が増加しており、景気の下降と高齢化による増加とで相殺となる。
		タクシー（経営者）	・夜の動きが悪いので、この先も現状同様、良くない。
		通信会社（経営者）	・ここまで不況が定着すると、2、3か月で景気がどうこうということはない。
		通信会社（局長）	・客の節約傾向は継続している上、個人消費を押し上げる好材料が見当たらない。
		通信会社（総務担当）	・依然として個人消費が低迷しており、節約志向が進んでいる。
		通信会社（営業担当）	・当面の間は、夏場の出費分を取り戻すべく節約傾向が続く、消費が横ばい状態になる。
		遊園地（職員）	・一般家庭の所得減少によるレジャー支出抑制の影響は依然大きいものと予想され、今後についても楽観視はできない。
		ゴルフ場（支配人）	・例年だと、その月に入ってから予約が非常に伸びてくることがあるが、ここ最近はそのような予約が伸びてこない。地場産業と建設業界の不振がこの状況を生んでいる。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] （職員）	・当店は新しい機械の導入や、既存機械のバージョンアップなどの予定も今のところない。現状のなかで創意工夫をしながらやっていけるので、店も客も、大きな変化は考えにくい。
		その他サービス[清掃] （所長）	・量販店やスーパー等が毎週定期的に目玉商品等の広告を出して客集めの努力を行っているが、円高等の状況もあり、景気回復の兆しが見えないため、当分同じ状況が続く。
		設計事務所（所長）	・来月から下期スタートとなるので、ダイレクトメール発送などを利用し、集客を狙う。先月の受注件数は達成しているので、2～3か月安定するよう頑張りたい。
		住宅販売会社（経営者）	・物件は値下げをしているが、客が買い控えをしている様子なので、景気は変わらないか、やや悪くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・分譲地購入見込み客の物件選別は依然として厳しく、よほど気に入った物件でなければ成約には至らない状況が続くと見込まれる。
	やや悪くなる	一般小売店[青果] （店長）	・景気が底冷えしており、野菜の価格が急激に高騰しているため、良くなると思えない。
		百貨店（総務担当）	・天候が不順なので、秋物商品の動きが心配である。10月には冬物が一部入荷するが、暖冬になれば秋冬物の販売が厳しくなりそうである。食料品でカバーするために、新商品の導入を図り、バラのギフト品を増やそうと考えている。また、陶器のギフトが落ち込み、単品セールで活性化を行っているが、やはり固くて壊れない物は思うように動かない。
		百貨店（販売促進担当）	・引き続き円高と中国との問題が今後の懸念材料として残っており、市場にとっての好材料が見当たらない。外需に依存する企業体質が主流の中では、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（経営者）	・完全な店舗過剰状況が続く。
		スーパー（総務担当）	・店舗周辺は工場地帯のため、円高による輸出関連の落ち込みの影響や株安の影響が出る。
		スーパー（経営企画担当）	・10月には、更にもう一店競合店が出店するので、その影響が懸念される。
		コンビニ（経営者）	・たばこの売上が下がると思われるので、どれだけカバーできるかが腕の見せ所である。
		コンビニ（経営者）	・たばこの値上げで来客数がかなり減る。
		コンビニ（経営者）	・たばこ値上げの問題で、買置きが発生しているはずなので、その分の需要が落ち、それに伴ってたばこと一緒に買上げしていた客の来店も落ちてしまう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・気温の低下によるし好品等の購買意欲の減退や、たばこの駆け込み購買後の反動により、売上は低下する。
		コンビニ（店長）	・今回のたばこの値上げで駆け込み需要などがあるものの、たばこを止める人も出てくるので、今後客数は減り、極端に悪くなることはないだろうが、いくらかは悪くなる。
		衣料品専門店（統括）	・祭には参加したいが、新しい衣装はなかなか買えないという客が増えており、非常に経済が冷え込んでいると感じている。例年の動きからすると、これから2～3か月先についても良い状況にはならない。
		衣料品専門店（販売担当）	・財布のひもが固い上に、安心できるような要素もなく、長期予想では真夏から真冬という予報が出ているので、客の様子見もそのまま続く可能性があり、幾分下り坂である。
		乗用車販売店（従業員）	・施策終了で反動が大きく、見通しは厳しい。
		乗用車販売店（管理担当）	・エコカー補助金等の効果により駆け込み需要が増えたが、今後はこれに変わる特典をどのようにPRするかが課題である。消費者の購買意欲をどうにか回復させ、また、円高傾向を早く改善しないと、大企業の収益、財務状況が悪化し、リストラ等が増え、雇用も厳しくなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・ますます厳しくなる地方の自動車業界では、既存客を大事にしながらか、いかに新規客を呼び込めるかが重要になる。
		高級レストラン（店長）	・消費者の節約志向、低価格志向は強く、改善の見込みはない。
		一般レストラン（経営者）	・おそらく前年比で来客数はそれほど変わらないが、売上は上がらない。
		一般レストラン（経営者）	・年末需要まで9月の傾向が続く。
		一般レストラン（経営者）	・他の業種の人の話を聞いても、建築、土木関係の客は仕事が少なく大変な状況で、販売業や流通業でも物が売れずに困っていると聞いている。
		都市型ホテル（経営者）	・自動車産業、工業の町では、これから円高と中国依存により更に空洞化する。
		都市型ホテル（支配人）	・団体等の宿泊、宴会等の予約率が前年より2割程度、落ちており、景気の様子見で予約を控えていることがうかがえる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・10月と12月に新規ホテルがまた開業することに伴い、市内のホテルでも格安の料金設定や特別料金を設けてくるので、単価が大幅に悪化する懸念がある。
		旅行代理店（経営者）	・日中関係の状況が非常に不安定なので、これからもっと悪くなる。
		旅行代理店（副支店長）	・中国の諸問題と万博の終了で中国への集客が落ち込み始めている。国内旅行についても円高が年末年始の旅行や宿泊に大きな影響を与える。
		ゴルフ場（従業員）	・予約数が前年より少ない。
		ゴルフ場（業務担当）	・2、3か月前からずっと前年割れの状況が続いており、引き合いについても単価が低ければ反応があるが、なかなか反応が無い状況である。入場者はあっても、余分な買物はなかなかせず、単価が上がらない状態である。コンペの引き合いはあるが、金額にとらわれることが多くなっているため、今後前年比まで行くかどうか難しい状況になっている。
		競輪場（職員）	・全国展開している記念競輪等の売上減少に歯止めが掛かっていない。
		美容室（経営者）	・これから先、発表会、パーマや着付の講習、と努力して客のニーズを取り込むが、新しいヘアファッションを提案しても客はあまり関心を示さず、低料金のカットアンドブローばかりの客が目につく状況である。
		設計事務所（所長）	・今のところ、景気悪化の要因はあっても、浮上の材料は何も見いだせない。
		住宅販売会社（従業員）	・デフレの一層の進展により、物の価格が低下傾向にある中、別荘のような高額な品物はますます売れにくくなると予想される。
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・今月は増税によるたばこの買いためで売上と客単価が上がったが、今後は一気にたばこが売れなくなり、どんどん売上が下がり、悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・9月前半は残暑とたばこ増税前のまとめ買いで、客数、売上共に大幅増加となったが、気温が下落した中旬以降は客数が前年並みに落ち込んだ。来月はたばこ増税の反動も大きく出ると思われるので、2～3か月後の見通しは大変暗い。
		衣料品専門店（経営者）	・一気に冬物に移行できれば良いのだが、あまり期待は出来ない。
		乗用車販売店（販売担当）	・補助金が終わり、これから明るくなる具体策がないので悪くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金終了の反響が上期決算の9月より顕著に表れており、先行きが全く見えなくなっている。
		スナック（経営者）	・生活防衛をしている中で、外でお酒を飲む余裕のある人はいなくなるかもしれない。
		旅行代理店（副支店長）	・今回の尖閣諸島問題によって、海外から日本への旅行客に関わる業界は相当な打撃を受けることが想像に難くない。
		通信会社（経営者）	・受注だけでなく見積依頼も非常に停滞している状況で、数か月での改善は考えられない。このままでは地方零細企業は生き残れない。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・B級グルメの鳥モツ煮が日本一となったため、県外からの来客も多くなっており、ワインの消費もそれにつれて、増加するものと期待が持てる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品は現状維持で推移するが、建設機械部品は4%くらいの上昇でいく。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国向け建設機械部品の増産計画、ハイブリッドカー用部品の増産計画、また、他社で生産能力オーバーした仕事のスポット応援の対応等があり、現状より仕事量は増加する見込である。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（経営者）	・業界の本場生産地の様子を見に出掛けたところ、現地でも著しく低迷しており、数か月先の様子も予想すらできない状態である。
		金属製品製造業（経営者）	・7～8月と仕事量が3か月前より多くなってきた。3月くらいまでは今の状態が続く。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・勝ち組と負け組に分かれており、良い会社は若干上がってきているが、悪い会社はこれから先も受注量、販売量共に増えない状況であり、この状況は変わらない。
		輸送業（営業担当）	・景気的には良い材料は見付けにくいだが、本来の涼しさが戻ってくることにより、季節商材等の物量が今後は増えてくる。前年並みの物量を確保できそうだが、デフレ経済は続いており、運賃コストの見直し等の締め付けも出ているので、利益は全体的に薄くなっている。
		金融業（役員）	・円の上げ止まり感と景気の底打ち感が数多くの取引先経営者から伝えられている。
		広告代理店（営業担当）	・年末に向けて、唯一消費が活発になる季節だが、それに向けた広告宣伝の予定はなかなか立たず、お金をかけずに集客する方法はないか、とまで聞かれる始末である。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・求人広告は春先よりは増えてきているが、パートの募集が大半で、正社員の募集はほとんど見られない。比較的格安のミニコミ紙の一般広告では、夏までは何とか前年を維持すべく、数千円の細かな集稿が出来たが、今月に入り、その集稿すら難しくなっている。
		社会保険労務士	・円高の影響が出てきていると話す事業所もちらほらあるが、大半の事業所は今の状況がしばらく続くと考えている。
		やや悪くなる	食料品製造業（製造担当）
		化学工業（経営者）	・メイン商品の在庫が減らないため、製造ラインがほとんど動いていない。派生的な仕事で人が遊ばないようにしているが、売上アップにはなかなかつながらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・3年も続けてやっていた仕事が、10月から全量中国生産に変わってしまった。今している国内の仕事がどんどん中国にシフトしていくのかと、これから先行きが心配である。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・国の予算等がはっきりしないため、こちらが当てにしている担当部署は、新規予算の様子見をしているのではと心配している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（経営企画担当）	・観光地において、外国人、特に中国人相手のホテル、旅館で尖閣諸島問題の影響から、多少ではあるがキャンセルが始めている。
		金融業（調査担当）	・エコカー補助金の終了、円高の影響、レアアースの影響がある。
		金融業（総務担当）	・たばこ特需の反動が見込まれる、経費節減で受注の頻度が下がるかもしれない、といった取引先の話がある。
		不動産業（経営者）	・将来性が見えなければ頑張ろう、という気にならない。
		不動産業（営業担当）	・9月時点では場所によってはそこそこ稼動していたが、今後は、円高や補助金施策の終了、たばこの値上げ等、消費者には厳しい状況もあり、購買を通じて企業にとっての厳しい状況にもつながる。ビジネスホテルとしては、企業の状態が厳しくなると経費削減により厳しい状況が続くこととなる。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・情報化投資の抑制傾向は強く、価格も抑えられ、厳しい状況が続く。
	悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・前年にはあった仕事が減ったり、単価が下がったりしている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・周辺地域での景況感はますます厳しくなっていきそうで、同業、異業種の経営者の会合においても悪くなる話ばかりが耳に入る。
		電気機械器具製造業（経営者）	・生産量が落ち始めており、今後の受注もはっきりしない状況なので、非常に不安である。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主力メーカーの国内販売はエコカー補助金に伴って、10月は16%の減産調整に入り、コストダウンの要請もあることから、減収減益傾向となる。今後は、輸出にシフトしていただくが、はっきりと見通しづらい状態になってきている。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・売上が低迷している中、倒産する問屋が出てきており、不安が募る。通常9月は売上が上向く月だが、前年を割り、先行きに不安が残る。
		建設業（総務担当）	・相変わらず同額によるくじ引き状態が続いているので、神頼み以外の何でもない。今後確実に受注につながるものを見付けなければならないが、それがまだ確立出来ていない。
		経営コンサルタント	・一部の下請製造業などの業況で、足踏みから後退気味のところが、内需関連、外需関連共に受注、売上の見通しは一段と厳しくなっている。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（管理担当）	・営業アポイントが増え、契約の可能性が増した。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・営業で得意先を回っているが、どこもあまり仕事が無いようである。
		人材派遣会社（経営者）	・8月までの家電の伸びとは反するところで、秋冬物の暖房器具などが同じように伸びてくる。自動車関連の部品、電機、電子といったところは不透明感があるが同じくらいに推移していく。
		職業安定所（職員）	・円高の影響により海外輸出の鈍化や、エコカー補助金終了に伴い、生産が減速する。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金は、活用人数、活用日数は減少傾向にあるものの、今後の活用相談が出てきている。
		職業安定所（職員）	・円高による業務への影響が出ている企業は今のところ少ないが、今後の展開における深刻化を心配する声も聞かれ、従業員採用に向けての企業側の意欲面は厳しい。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・本年度の就職試験の傾向では、募集人員に満たなくても会社に合わない場合は不採用としている。職種を問わず一定の能力が備わっていなければ就職は非常に厳しい。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（経営者）	・円高の影響で、輸出関係企業は厳しいなか、雇用の面でもより慎重になり、情勢は今後、更に厳しくなる。
		職業安定所（職員）	・派遣求人が減少気味で、製造業の新規派遣契約も取れていないのか、製造関係での派遣大量求人が出ていない。また、製造業事業所からもかなり不安要素があると聞いている。
		職業安定所（職員）	・管内企業の状況を見ると、今現在では円高の影響はさほど出ていないが、これから先は確実に円高の影響で生産が減少すると答えている企業が多く、求人数が減少する傾向にあるので、それに伴い、就職者数も減少する。
		民間職業紹介機関（経営者）	・円高懸念、自動車関連の減速から、先行き不安が回復基調に水を差し、中小企業は残業規制、派遣社員の契約終了を始めている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる		

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（営業統括）	・エコポイントは11年3月末まで延長されたが、12月末にもエコポイントを目的とした駆け込み需要が発生する。ゲーム機では新しい操作端末が発売され、新たな需要を生み出すと期待している。節約消費に疲弊した消費者のプチぜいたくが増加する。
	やや良くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・暑さも落ち着いてきて、7～9月前半に比べて来客数も安定してきているので、多少は持ち直す。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・年末にかけてエコポイントでテレビが売れ、良くなる。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・今のような状態が暮れまでは続く。ただし、売れ筋のテレビが二台目、三台目と小型の物になってきているので、金額は伸びないかもしれない。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・9月までは異常気象のせいで客の動きが少し悪かったが、これからは戻るのではないかと考えている。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・秋祭りがあるため、一時的に販売が増加する。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・これから10～12月は当店の繁忙期なので、少なからず期待はしている。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・9月末に掛けて涼しくなってきたので、客数等が安定してきている。また、10、11月はある程度案件が決まっていることや、9月に決算があって買い渋りをしていた企業があったとしても、10月からは次の期となり、必要なものを買えるようになるので、ある程度プラスになる。
		百貨店（売場主任）	・昨年は買い控えの傾向で、手持ちの物に新規の単品アイテムを合わせていたが、今期は新規のトータルコーディネートを楽しむ動きが目立っている。
		百貨店（広報担当）	・今後も円高や株安の経済的な与件は残るが、気温による外的要因は縮小する。気温が下がったとはいえ、前年よりはまた高いので、短くなってしまった秋の実需のピークと冬の先取りをする客に両面から動員を行って、買上単価をアップさせていこうと考えている。
		スーパー（店長）	・尖閣諸島問題等、中国問題がいろいろあるが、当店に関しては改装効果で順風満帆にしている。
		スーパー（総務担当）	・今、商品のライフサイクルが富士山型から茶筒形、そしてもっとピークが短く、急激に上昇、急激に下降するという変化になっている。それに合わせた商品の陳列で売り場作りをしていけば、客は非常に反応してくれる。また、新規商品への客の反応は良いので、新規商品を次々と販売することで良くなる。
		家電量販店（経営者）	・エコポイントの改定に合わせたマーチャンダイジングと消費者の駆け込み購買で売上の増大が期待できる。
		家電量販店（副店長）	・年末商戦がピークに達し、物の動きが良くなることと、エコポイントの絡みでテレビの売行きが間違いなく上がることから、やや良くなる。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・いよいよ新ハードの発売、年末商戦が始まるため、やや良くなる。
		高級レストラン（副店長）	・秋から冬にかけての宴会予約状況の推移をみると、やや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・周辺には安い飲食店が増えているが、当店はたまにはおいしいものを食べたいという時に行く、しっかりしたものをちゃんとした値段で食べられるような店を心掛けているので、周囲の不景気には関係ないため、2～3か月先は多少良くなる。
旅行代理店（支店長）	・周囲では9月が一番の底のような雰囲気なので、2～3か月先は現状よりは良くなる。具体的には、11月を中心に団体の動きも出てきており、これからは忘年会等のいわゆる安近短で旅行は推移していき、今よりは良くなる。		
タクシー運転手	・羽田空港新国際線開業で、タクシー利用客も増えると期待している。		
通信会社（経営者）	・節約疲れから消費に向かう。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・アナログ停波まで1年を切っており、地上デジタル対策の1つとしてケーブルテレビを選択する人も増加するとみられるので、やや持ち直す。
		観光名所（職員）	・今後は秋山のトップシーズンを迎えるため、来客数の動きが非常に良くなる。天候にも左右されるが、期待している。
		パチンコ店（経営者）	・10月後半～11月後半に掛けてAPECがあり、警察が警備で忙しいため、パチンコ台の検査ができないため台の入替えない。その後の11月後半からは新しい面白い機械が出たり、12月に入って人の心もうきうきしてくるので、今までよりも数字が上がってくれるのではないかと期待している。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（支配人）	・若年層を中心にわずかではあるが消費意欲の改善が見られる。長引く不況の中で消費を抑えてきたことへの限界が見え始めている。
		住宅販売会社（従業員）	・例年、年末、年度末に向かって客の動きが出てくるのだが、今年は猛暑の影響で客の動きが秋にずれ込んでくるのが予想される。相変わらずの低金利、税制優遇があるので、今後2、3か月は、景気が低迷している今月と比べると、やや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・若干、土地の仕入れが上がってきているので、それが2、3か月先には販売できるようになって、その分、販売量が良くなっていく。
	変わらない	商店街（代表者）	・クレジットカードの取扱高は確実に回復しているが、弱々しい数字で、前年の時期より若干良いというぐらいである。中国人観光客減少の件もあるし、不安定な要素が多いのが実情である。
		商店街（代表者）	・非常に難しい問題である。世相が若干良くなっているということで期待はしたいが、何しろ天気に左右されるので天気次第である。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから景気が良くなるような要因も無いので、今のまま変わらない。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・9月後半から天気も安定し、正常に戻り、前年実績に戻りつつある。価格的には低くなっているが、秋物の売行きは良い。今後も現状維持が続く。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月もあまり良くなかった。しばらくはこの状態が続く。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	・相変わらず景気は良くはならないままで変わらない。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・労働者の所得が上がる様子はない。また、当店のように季節品を扱う店は分かりづらいが、こういう天気により、その時々品ぞろえが難しくなっている。景気が変わらないでいて欲しいことに加え、何とか気候も平年どおりにならないと、非常に難しい状態である。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・今月下旬から気温が下がったが、寒い日が多く続けば、お茶の人気は上がってくる。夏が暑すぎた分、今年の冬がどれだけ寒いかが、業界としては大変気になっている。景気は変わらず厳しい状況のままである。
		百貨店（総務担当）	・猛暑の影響で衣料品の売上が伸びなかったが、このところの冷え込みでだいぶ回復してきてはいる。ただし、回復しても、現在の景気とそれほど変わらない。
		百貨店（総務担当）	・株価や外交上の中国との関係も含め、景気が上向き要因が見当たらない。
		百貨店（営業担当）	・長期予報によると今年の冬は寒いということなので、アパレルについては秋物需要がなかった分、冬物に期待が掛かる。一方でお歳暮時期に掛かるため、近年の購買単価、点数の減少傾向を考慮すると全体としては若干の減にとどまる。政策効果のあった自動車や家電製品などの高額品の需要減が予想される中で、身の回り品については大きな減はないと考えるが、他の商業施設との競合は避けられない状況は変わらず、販売単価については下落傾向が続く。
		百貨店（販売促進担当）	・客の今後欲しいものの筆頭にアウターが挙げられており、順調にいけば単価が上がる要素として期待できる。ただし、気候不順などの外的要因が読めないため、最大商機のお歳暮とクリスマスの2大ギフトの強化と、ライフスタイルに応じた提案で考えると、変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・景気が回復する要素が見当たらない。歳末にボーナス支給額が減ったり、支給がない企業が増えれば、不景気感が強まってしまう。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業企画担当）	・厳しい経済情勢を考えると、小売業界としての明るい材料が見当たらない。
		百貨店（営業企画担当）	・天候、気温の影響もあるが、衣料品を中心に苦戦が続く。
		百貨店（営業企画担当）	・景気の先行き不安もあり、消費意欲を上昇させる要因は少ない。コートなどの重衣料も1着買うかどうかというモチベーションの中、早い時期の動きを気温とともに見極めていく。
		スーパー（経営者）	・2、3か月先はこのままの状態が続く。競合店の出店は最も影響が大きい、景気についてもこのまま変わらない状態となる。総菜など良くなっている物もあるが、生鮮食品はあまり良くなく、厳しい。
		スーパー（店長）	・今月はたばこの特需があるのである程度売上は見込めるが、たばこを除いた部分で見ると、点数、単価共に前年割れしているような状況なので、まだまだ厳しい状態は続く。
		スーパー（店長）	・客の買上商品の中で量目的な物は、意識はないようである。おいしいものや良い物を少し、低価格で購入したいという販売動向が見られる。
		スーパー（店長）	・今期に入って第1～3四半期が終わって、会社から与えられた予算がすべて未達ということで、非常に厳しい結果になっている。3か月後の見通しは、やや明るい兆しの中で良い方向に持っていきたいが、過去の回答から考えると、現状のまま変わらない。
		スーパー（仕入担当）	・今年は6月の日照不足、7月の雨、8月の猛暑と異常気象となり、冬は寒さが厳しく雪も多そうなので農作物、水産物への影響が懸念される。
		スーパー（仕入担当）	・天候要因により生鮮物の相場が上がっているが、各企業とも集客のため価格競争の様相を呈している。単価が下がって数量が伸びず、売上自体は伸び切れていない。
		コンビニ（経営者）	・失業者が徐々に増え、店に浮浪的な人が入ってくるものが多くなっている。先行きが心配である。
		コンビニ（経営者）	・客の財布のひもは固い。
		コンビニ（商品開発担当）	・たばこ増税で一時的には良くなるものの、間違いなく反動が来るため、変わらない。
		コンビニ（商品開発担当）	・円高等で可処分所得が抑えられ、結果、商品を冷え込ませてしまつのではないかと考えられるため、変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・連日のニュースで国境問題による国際関係の不安定や為替の円高などで社会不安が心理的に影響し、支出を抑える動きが見られる。
		衣料品専門店（店長）	・非常に気温に左右されやすい業界なので気温に応じてはなってくるが、急激に経済状況が変化しない限り、急激な変化はない。
		衣料品専門店（営業担当）	・天気、気温などで左右される商売のため、今年の夏はとにかく客が出てこなかった。一気に5～8度くらい下がって寒くなり、秋物にも厳しく、冬物で稼ぐしかない状況だが、景気が悪すぎて買物をする雰囲気でもない。
		乗用車販売店（経営者）	・補助金で入替えの先取りをした分、今後は厳しくなる。
		その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・9月になり、気温も下がり、売上は増加傾向にある。ただし、昨今の不況から消費マインドが全開にならない。やはり、失業率や年金、所得改善といったマインド向上に向けた安心できる社会保障の提案が急務である。
		高級レストラン（支配人）	・2～3年前と比べ、宴会の件数はほとんど変わらないが、大型の会合が極端に減少している。企業も必要以上に接待や交際費などに経費を使わなくなっており、この先しばらく売上の回復は難しい状況である。
		一般レストラン（経営者）	・中国問題、円高、食材高騰、不安材料を挙げれば切りがない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼成約件数は伸びているが、参加人数が減少しているのので、売上としては同じくらいである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・結婚式の予約状況は依然として厳しく、最近伸びが少し弱まっており、好転の兆しはみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル(スタッフ)	・新聞、テレビなどで毎日のように景気悪化と報道されているが、この先消費者があまりにも景気悪化を気にすると、年末に掛けて買い控え等が起きるのではないかと、不安を感じている。クリスマスケーキやおせち料理の販売に早期予約特典を付ける、クリスマスディナーにお得感のあるメニューを用意するなど、料金は前年並みで集客を図りたい。
		旅行代理店(経営者)	・今はインターネットの普及で、当社のような旅行代理店業者を通さず、個々の客がインターネットを通じて直接ホテルに予約をするようなケースが増えてきているので、商売がやりにくい。
		旅行代理店(従業員)	・中国の尖閣諸島問題で日中関係が緊張しているため、今後の旅行に対する影響が懸念される。
		旅行代理店(従業員)	・円高対策は持続しない感じで、引き続き経済環境は好転する気配が見えない。あわせて中国問題は観光業にとっても痛手である。
		タクシー(団体役員)	・我々の交通圏ではタクシー適正台数に削減できていない。年末に向けて多少解消されると思うが、全体的な景気対策が無い限り、タクシー需要に結び付かない。
		通信会社(総務担当)	・しっかりとした経済対策を打ち出さない限り、先行きの不安感を持っている人が多く、財布の口は固く締められたまま、変わらない。
		通信会社(営業担当)	・しばらくは戸建の落ち込み分を集合住宅での契約数でカバーしていく状況が続く。
		通信会社(営業担当)	・見込顧客が先行きに不安を感じ、消費に消極的であるように感じる。
		通信会社(営業担当)	・年末商戦の施策は他社からの切替加入がメインとなるが、加入特典などに大きな経費を掛けざるを得ず、収支としては苦しい状況が予想される。
		通信会社(支店長)	・今後説明型の商品が増えることにより、販売店の淘汰が加速してくる。
		ゴルフ練習場(従業員)	・練習場の高額な前売り券の販売が不振で、客が買い控えをしているような感がある。景気はあまり良くない。
		競馬場(職員)	・同業他場も同様に売上が悪化しており、良くなる気配がない。ただ、1人当たりの購買金額は前年比同レベルとなっており、これ以上の下落はなく、現在の状況がしばらく続いていくものと思われる。
		その他レジャー施設 [ホール](支配人)	・エコポイントも終息し、市場では既に秋冬物のバーゲンをしている。円高は多少落ち着いたものの、新たに発生した中国問題で、レアメタルの輸入停止だけでなく、旅行中止や多方面に広がりを見せ、経済への影響が出始めている。先行きは現状維持が精一杯である。
		設計事務所(職員)	・さらに良くなることに期待したいが、このまま伸び続けるには社会全体の動きも影響する。
		住宅販売会社(従業員)	・変わる理由が見当たらない。
		住宅販売会社(従業員)	・集客状況があまり変わらず横ばいであるため、大きな状況変化がなければ先行きも変わらない。
		その他住宅[住宅資材](営業)	・円高の問題で輸出関係向けが落ち込んでくると、少し景気は悪くなってくると思うが、ここ2~3か月はまだあまり変わらない。
	やや悪くなる	商店街(代表者)	・今月に入って特に客の購買意欲が減退しており、買物を控えようという意識が強い。今後景気が良くなるという期待感が全くなく、消費者が自己防衛に入っている。
		一般小売店[茶](経営者)	・久しぶりに商店街に来た客から、ずいぶん店がなくなって寂しくなったと言われている。
		一般小売店[家電](経営者)	・まず商品の売行きが悪い。また、それ以上に単価が下がってきているため、台数を売っても前年より良くなることは見込めない。
		百貨店(企画担当)	・消費動向にブレーキが掛かっている状況が急速に改善される要素はなく、逆に実生活への影響が徐々に出てくる懸念がある。
		百貨店(広報担当)	・画期的な景気浮揚策も発表されておらず、デフレ傾向は止まらず、今後もしばらくはどうしようもない。今後、何らかの販売促進策で来客数は戻っても、単価の下落傾向は止まらず、生活必需品が主力でない小売業は苦しい状況が続くそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・アパレル各社は、秋物が売れない（資金が回収できない）ことから冬物生産量を減らざるを得なくなり、冬本番に商品が足りず、小売業のアパレル部門は苦戦が予想される。
		百貨店（営業担当）	・秋物の動きが予測を大幅に割ることから、今後の商品展開に大きく問題が生じる。在庫の負担も厳しく、新規商品の売れ筋を追求していくのも限界がある。
		百貨店（営業担当）	・株安、円高の傾向は引き続き継続しており、高級婦人服、宝飾、時計、美術等の高額商品の動きは鈍く、加えて、中国、ロシアとの領土問題もぼつ発しており、経済情勢は予断を許さない状況にある。
		百貨店（店長）	・円高、雇用問題等、景気対策が見えない中、日本経済をけん引している中国との国際問題が悪化している状態で、良くなることはない。
		百貨店（販売管理担当）	・株価下落等の経済不安により、特に、高額品の購買意欲低下が顕著に表れてきている。
		スーパー（ネット宅配担当）	・円高が現状のまま推移した場合、大多数の企業の売上、特に輸出関連は大きな影響を受け、全体の消費にも影響が出て来る。小売業も輸入商品の価格が値下げ基調になることが予想され、消費そのものの影響以外に単価の下落から売上減となる。
		コンビニ（経営者）	・いろいろな国内外の問題を見ると、今後の景気はさらに悪くなるような気配を感じている。
		コンビニ（経営者）	・今月はたばこの需要がとても大きく、来月からは大体3分の1に減るのではないかと予想している。それぞれのし好に合わせて、たばこをたくさん買う客もいれば、本数を減らしたりやめる客もいる。当店はたばこの売上が全体の25%を占めており、影響が大きい。
		コンビニ（エリア担当）	・円高による企業業績の悪化が、景気に悪影響を及ぼす。
		衣料品専門店（経営者）	・メーカー筋から中国製品の入荷が遅れていると連絡が来ている。客も気分が落ちているようなので、おしゃれな商品の購買になかなかつながらない。
		乗用車販売店（経営者）	・整備の売上は順調に上がっているが、販売は補助金が終わった途端、9月から5割減となっている。
		乗用車販売店（販売担当）	・エコカー補助金の完全終了により、急激に来客数も少なくなり、客も車検整備がほとんどで、買換えは減少しつつある。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金制度が打ち切りになり、減税があっても効果なしである。例年の半以下の販売台数となっている。修理の依頼はあるが販売については見積すらない、危機的状況である。
		乗用車販売店（渉外担当）	・9月以前の新車受注残があり、9月実績は高い水準で終わる。エコカー補助金終了後の新車受注は3割落ち、10月以降の新車実績については、2～3か月は悪い水準で推移する。
		乗用車販売店（販売担当）	・トラックの環境助成金、乗用車の補助金も終わり、現状、車関係では良い話が一切無い。トラック関係はコンクリート及び鉄等がメインであり、その他の輸送量も大きく増えていない。よって環境は以前よりやや悪く、景気も良くなく、助成金が無くなりユーザーの購買意欲が減っているため、今後については悪くなっていく。
		住関連専門店（統括）	・景気があまり良くなく、収入も安定しないため、買い控えはまだまだ続く。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・競合店の出店が決まっているため、同じパイの取り合いになってしまう。最近売れている店の近くに狙って出店されるため、客から見て差別化が確立されていないと非常に厳しい。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・今月オープンした新店が伸び悩んでいるため、今後の新店もあまり見込めない。そのため、売上は伸びるとは思えない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・猛暑の影響で秋物衣料が壊滅的打撃を受けており、秋物は在庫処分を迫られることになる見込みである。消費者の購買意欲次第だが、景気に対する先行き不透明感が払しょくされておらず、厳しい状況が続く。
		一般レストラン（店長）	・2～3か月先は年末になるが、今の状況でいくともう少し悪くなり、宴会も入らないような状況になる。
		都市型ホテル（支配人）	・先々の販売量も前年比で悪化している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・10月以降の国内団体航空運賃が昨年より値上がりしており、既に受注している案件のキャンセルも相次いでいる。
		通信会社（経営者）	・主力のテレビ加入についての反応、申込が少なくなってきた。今後も同様な傾向が続く。
		通信会社（管理担当）	・完全デジタル移行の来年7月までは、現在のトレンドが続く。
		その他レジャー施設（経営企画担当）	・政治が経済の足を引っ張っており、不安要因が多い。円高が何とかあるかと思ったら、中国問題で旅行客などインバウンドへの悪影響が予想される状態であるため、先行きはやや悪くなる。
		設計事務所（経営者）	・行政が設計の入札価格を低く設定しているため、当社では仕事をできないと辞退することが非常に多くなっている。低価格の入札が多く、競争も激しいため、当社のような社員を抱える事務所は先が見えず、先行きは非常に不安定である。
		設計事務所（所長）	・単発的な物件が決まったが、先行きの継続及び見通しができていない。また、当社の業務は世の中が良くならない限り良くなることは考えられない。
		設計事務所（所長）	・不景気が続いており、特に、建設関係は厳しい。明るい展望は全くない。
		設計事務所（所長）	・現況でもますます厳しくなっており、ほとんど仕事が無い。マンション1つをとっても地域差が非常に広がっている。都心部はそこそこ仕事があるが、低価格競争に歯止めが掛からなくなっている状況である。厳しい状況はますます強くなっていく。特に、新築物は非常に少ない。
	悪くなる	コンビニ（経営者）	・たばこまとめ買いの反動で、客足が店頭から遠のくのではないかと危惧している。
		コンビニ（経営者）	・猛暑の時期が過ぎ、たばこの駆け込み需要が終わることや、政情不安、国際不安等で一般的な景気も大変悪くなると思われる。過中にある商売としてはやはり相当悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客はより安い物を求めている傾向にあり、経済政策が遅れていることなど、様々な社会情勢の中で、購買意欲は一段と薄れている。
		衣料品専門店（経営者）	・長期予報などで秋物が完全に跳んでしまっている。秋物商材の格下と冬物商材の販売時期の設定が読みにくい。最近では天候に大きく左右されることと、客単価の低下が不安である。
		衣料品専門店（店長）	・衣料品は輸入品が多いために為替のメリットはあるものの、消費を促進するような力強さは無く、逆に不安を増やす材料にしかっていない。
		乗用車販売店（店長）	・依然として止まらぬ円高とイラン油田の撤退で石油の安定調達に懸念の声も聞かれる。ましてや中国との国交の悪化で自動車業界にとって痛い存在のレアメタルの話があり、これからも非常に厳しい状況となる。
		乗用車販売店（総務担当）	・エコカー補助金の終了により、来客、販売量が激減し、お先真っ暗である。何とかこれを打開しなければ、死活問題につながる。今後、電気自動車の売行きがどうなるか、政府の景気回復対策及びマスコミにより活性化を図ってほしい気持ちで一杯である。
	その他サービス [ 保険代理店 ]（経営者）	・景気回復が全く期待できず、ますます顧客の購買意欲は減退する。	
企業動向関連	良くなる		
		やや良くなる	
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・印鑑の注文で、通常1～2本のところが7本入るなど、法人、個人ともやや上向いている。
		広告代理店（従業員）	・周辺の同業者で廃業が出るなど、環境は依然厳しいが、新しい取引先が増えたため、当社はやや良くなる。
		その他サービス業 [ 情報サービス ]（従業員）	・ここところ若干の下降傾向が続いていたが、地上デジタル放送への更改に絡めて通信設備も更改や導入の検討が増えきており、今後、通信分野の景気上昇のポイントとなる。
	食料品製造業（経営者）	・良くなるような要素が見当たらない。	
	食料品製造業（経営者）	・良くなりそうな気はしないが、今はかなり底という感覚もある。	
	繊維工業（従業員）	・市場ははまだ熟してはならず、ファッションに興味はあるものの経済が安定しない分、収入が伸びず、安価な衣料品で我慢するという傾向にある。	
	出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・同業他社も同じように苦戦している。少ない発注を取り合うような形では、業界の景気は良くならない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（従業員）	・建築関係は相変わらず物流が悪く、今後も良くなる兆しはない。辛うじて中国向けの商品のオーダーが入っている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・景気が良くなる要素は全体を見ても見当たらない。補正予算が組まれての影響がどのくらい出るのか、若干なりとも期待できるのはそこだけである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注量が増えず、仕事量が少ない。一時は十何人が従業員がいたが、今は7人で何とかやり繰りをしている状態である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・国内市場のパイは大きくならないのでこのままだと仕事量は徐々に減少していく。急に売上は増えないが、将来魅力ある新商品を発売すれば、まだ何とか受注量を確保できると考えている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・当社はトラックの関係だが、それでもエコカーの恩恵があったので、それがなくなった反動と円高の影響を受けている。円高も世界中が介入してくれればよいが、日本単独では止まらない。メーカーは儲かるが、外注や下請ではリーマンショック後1年くらい仕事がない状況が続いていたので、まだそこから立ち直っていない。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・得意先もこつこつと仕事をして、それがつながって注文が入るなど、楽ではない状況下で日々頑張っているということであり、大きく変化があるという情報は入っていない。
		建設業（経理担当）	・住宅関係の減税やエコポイント、また期間限定の割引をうたったキャンペーン等を広告に入れるなどしているが、全く反応がない。暮れを迎えても年が明けないと、この動きは変わりそうにない。
		建設業（営業担当）	・円高の影響や、エコポイントの終了にて電機メーカーや自動車産業からの仕事が一時期より減ってきている。
		輸送業（所長）	・今のところ特に営業案件もなく、年末というくらいであまり期待していない。また、取引先ではまだ安い業者がいれば変えるような雰囲気があり、いつ取引がなくなるかといった不安もある。
		通信業（広報担当）	・当面は一進一退の状況が続く。
		金融業（役員）	・エコカー購入補助金の終了や季節的な要因の猛暑が一段落し、特需が無くなったことにより需要が減少し、景気の低迷は今後もしばらく続く。
		不動産業（総務担当）	・円高対策や政治が不安定なことから、持ち直しつつあると思っていた景気が停滞気味になってきている。新規テナントは少しずつ成約に結び付いているが、賃料を大幅に下げた上、フリーレントを付けるという完全な借り手市場になっており、利益水準は今後さらに落ち込むものと考えている。
		広告代理店（経営者）	・価格照会は多少あるが、照会があっても依頼が来る可能性は高いとは言えない。最近までは仕事の話自体がなかったが、話が出てきたからと喜んでいない。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない。
		経営コンサルタント	・10月から年度下期を迎える会社では、半期計画の確認を行っている。年末年始に売上のピークを迎える商業、サービス系の企業でも、控えめな月次数値が多い。発表された厚生年金、損保、自動車保険などの値上げにより、消費者の財布のひもは、当分緩むことはないと感じている経営者が多いようである。
		経営コンサルタント	・景気が好転するような効果的な施策などが見当たらない。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・しばらくはこれといって好材料がない。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・年末に向けて明るい材料が全く見当たらないので、3か月後もこのようなやや悪い状態が続く。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・下期の設備投資に対し、取引先が消極的である。
		やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（所長）
プラスチック製品製造業（経営者）	・医療品容器と化粧品容器の新企画の案件が立ち消えになってしまい、この先年末にかけて機械の稼働率の影響が出てきそうである。代替りの仕事を探しているが、なかなか穴埋めは難しい状況である。		
金属製品製造業（経営者）	・見積から受注まで時間が掛かるようになっている。近隣の自動車部品メーカーは注文数が減ってきているようであり、やや悪くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・円高による国内生産の減少、中国経済の不安などから、やや悪くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・当社は現在、自動車関係の仕事がほとんどである。自動車部品を作っている関係上、円高がこれ以上進行すると、外国にシェアを奪われるという危険がある。現実にそういうものもあり、先が非常に不安である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・客先からの受注情報の3か月見通しが、1～2割弱減の見込みである。
		金融業（渉外・預金担当）	・取引先の様子だけでなく、実際に当社で何らかの販促行動を起こしても、あまり反響がない。
		金融業（支店長）	・自動車や電機関連部品下請業者は、円高の進行に警戒感を持っており、更なる業況悪化を懸念する。
		金融業（支店長）	・取引先の法人の倒産件数については、中小企業金融円滑化法ができてから少なくなっている。しかし、個人客の住宅ローン等の破たん、または自己破産が増えており、個人の収入が減っている。今後そういうことが続くと、景気は全体的に悪くなっていく。
		不動産業（経営者）	・古い物件の入居対策が課題である。
		税理士	・自分の企業は自分で守らねばならず、無駄な出費を極力避ける傾向はますます顕著になる。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・顧客工場等の稼働率が落ちてきている。先行きに対する懸念が大きく、低迷状態がしばらく続きそうである。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・中国との新規ビジネスが、現在の日中関係の影響を受ける可能性がある。
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・円高の継続でやや悪くなる。	
	悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・この先が見通せないので経費の節約で頑張り、苦しい経営が続きそうである。雇用の維持をするのも難しくなりそうだが、営業活動に力を入れて受注確保に努める。給料を下げてでも雇用の維持に全力を尽くすしかない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景気の良くなる要素が何も発生しておらず、今後どうなっていくか全く先が見えない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・確実にマイナス方向に歩み始め、さらなる新規受注でも価格が追い付かない。
建設業（経営者）		・円高が進みつつあるので、景気は低迷する。先が全く見えない。景気対策も進んでいるようには見えず、会社の延命処置をしているだけにしか見えない。	
輸送業（経営者）		・客の様子を見ていて、この先、決して良くなるわけがない。せめてなってもらいたいという気持ちはあるが、全く望み薄である。	
輸送業（経営者）		・年末をこれから迎えるが、消費者の財布のひもが固く、衝動買いが少なくなっていると聞いている。景気の厳しさが長く続いており、消費者の警戒心が強くなっているということも事実である。	
		輸送業（総務担当）	・後半の計画は、前半の落ち込み分を取り戻す数量にはほど遠く、厳しい状況は当分続く見込みである。公共事業が活発になってくれれば業績は少しは上向きになると予想するが、車両の減車、人員の削減などの策を具体的に考えなければならない。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・長期的な採用は横ばいだが、年末商戦に向けて短期的な販売等の採用数が増えてくることが期待できる。
		職業安定所（職員）	・若干の雇用拡大が直接景気の回復に結び付くことは考えにくい。新成長戦略が閣議決定され、新卒者及び卒業後3年以内の既卒者の雇用対策に重点を置くこととなり、徐々に雇用は拡大していく。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・各企業とも事務系派遣に関しては積極採用の見込みは少ない現状が続く。また、労働者派遣法改正の動きによっては、人材派遣業界全体に更なる大きな影響が出てくる。
		人材派遣会社（支店長）	・先々の景気見通しが予断を許さないため、求人数にも影響してくる。
		人材派遣会社（支店長）	・一部の企業で派遣の増員が見込まれる業種がある一方、経費節減のために派遣を絞り込む企業もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（業務担当）	・10月は少し落ち着くと考えているが、11月からまた年末の繁忙期に入るので、このままやや良い状態で推移する。ただし、企業からの要望は急な案件が多いため、募集費用がかさみ、ここ最近の値引き合戦で利幅は大変薄いため、利益は増えない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中小企業の採用意欲が回復しない限り、人材市場が活発化することは考えにくい。大手企業の採用枠は例年通りに推移するものと予測され、採用広報に予算を掛ける企業は少ない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・お盆明けの求人件数の増加は9月も続いている。そのため応募数の分散も起こり、採用に結び付かないケースが出ている。採用意欲はあるものの、依然として採用コストは掛けたくない企業も多く存在しており、年末に掛けて採用活動が弱くなる時期に入ると募集件数も減る傾向にある。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・現在商談中の企業に関して、年末での出稿予定が増えているため、変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・百貨店、スーパーなどの大型店、中小規模の専門店、一般企業に元気がなく、求人数及び職種の数はいずれも低調に推移する状況は今後も変わらない。ただし、医療関連や美容、各種講師など有資格の求人は堅調である。
		職業安定所（所長）	・一般新規求人数は増加傾向にあるものの、新規高卒求人が減少している。企業の採用意欲はいまだ様子見段階を抜け出していない。今後、政府の雇用対策は一定の効果が見込まれるが、経済対策はどうか。円高、中国問題の影響も懸念される。
		職業安定所（職員）	・一部の事業所においては、受注量の増加から休業規模を縮小する事業所、一時的に休業を実施しない事業所が見られるようになってきているものの、大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・相談件数は例年9月ごろになると少なくなる状況にあるが、それが依然として高い数字であるため、今後、雇用状況が改善するとは思わない。
		職業安定所（職員）	・製造業を中心に若干ながらも求人数が増えてきてはいる。しかしながらパート求人が多く、正社員の求人にまでは至っていない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・現在の諸状況から、決して現時点も将来の見通しもあまり良いわけではないが、現実的に皆かなり努力しており、そういった意味では現時点を維持しようとしている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業活動の停滞感が強く、採用意欲が盛り上がらない。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・採用未定企業の募集開始企業数は上昇傾向にない。
		学校〔専門学校〕（教務担当）	・来春卒業予定の学生に対する求人が来ない。問い合わせると、今年度は採用無しという回答が例年になく多い。理由は、仕事の受注が無いためであり、この状況は変わらない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・新卒者雇用対策、雇用創出で、中小企業等が求人募集をどれくらい出すかまだ分からない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・輸出関連企業（自動車、電機、機械）の業績下ぶれを懸念している。円高が続けば、業績を下支えしている輸出が減るため、業績を圧迫する可能性がある。生産調整が入れば国内の雇用にも影響をきたす恐れがあるため、やや悪くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・お盆明け、9月に掛けてが年間で一番増える時なので、その傾向として今月はやや良いが、年末に近づくにつれてだんだん落ちてくる。募集費用が半分になった所もあったが、大体募集を出す所は分かっているため、出さなくても「求人していますか」と応募者から問い合わせがある。募集を出さなくても済むという状況が発生してきており、その分で減る分も相当あると予測できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・求人数は増加しているが、求人側が採用について依然慎重に考え、国内経済の動向を様子見している傾向もある。
	悪くなる		

### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連	良くなる	一般小売店〔土産〕 （経営者）	・高速道路の無料化社会実験や料金引下げによる効果が今後も続く。存続が危ぶまれたフェリーの延命策も前向きに検討されている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・残暑も終わりこれから寒くなっていくため、季節商品の売れ行きは改善する。
		百貨店（販売担当）	・今月は予想外に落ち込みが大きかったが、11～12月になれば客の意識も完全に冬ものに切り替わり、クリスマスのギフト需要などによる売上の上昇が期待できる。
		スーパー（営業担当）	・客数が伸長しており、徐々に回復基調に向かっている。
		スーパー（販売担当）	・冬のボーナスによって購買意欲が高まる。
		家電量販店（店員）	・家電の新製品が出てくることに伴い、客単価が向上する。
		乗用車販売店（経営者）	・冬季に向けてスタッドレスタイヤの購入が期待される。
		その他飲食〔仕出し〕 （経営者）	・秋、冬は弁当需要が増える傾向がある。おせちなどの受注時期も控えて少しは持ち直す。
		タクシー運転手	・今があまりにも悪すぎるので、10月以降は少しは需要が戻ると期待している。
		タクシー運転手	・毎年11月の後半から12月にかけては忘年会シーズンとなり、タクシーは一年で一番忙しい時期を迎える。
		通信会社（サービス担当）	・映像サービスのエリアが今後拡大しつつあるので、地デジ対策に、インターネット通信網を使ったテレビサービスの申込が増えることが見込まれ、若干良くなる。
		美容室（経営者）	・秋分の日ごろから涼しくなり来客数も増えてきた。2～3か月先は正月にかかるため、夏に来店しなかった客が9月末から10月、11月と増える。
		その他サービス〔介護サービス〕 （職員）	・暑さもようやく一段落し、移動用具のレンタル出荷量が年末まで見込める。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕 （経営者）	・しばらく停滞していた問い合わせが9月下旬から活発化してきた。今後は若干好転する。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気低迷に加えて円高になるなど、売上増を期待できる要素がない。
		商店街（代表者）	・このところ、1～2か月の間で良くなったり悪くなったりを繰り返しているため、その傾向は年末に向けても続く。
		商店街（代表者）	・相変わらず必要以外のものは購入しない傾向は続いている。
		商店街（代表者）	・猛暑によりエアコンは好調でしたが、冷蔵庫や洗濯機の動きが悪い。テレビも販売台数は好調であるが、単価の下落が激しい。売れているものは小型のものがほとんどで、収益向上にはなかなか至らない。
		一般小売店〔結納品〕 （経営者）	・現状のままで良くなる要素が見つからない。
		一般小売店〔電気屋〕 （経営者）	・季節的要因で販売量は増えるが、販売単価が下がっているため、全体としては変わらない。
		一般小売店〔薬局〕 （経営者）	・天候不順、地元経済の不景気、安い商品しか買わない客の節約志向など、景気が上向き要素がない。
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・飲食店への来店、接待、個人利用とも回復する要素がない。
		一般小売店〔生花〕 （経営者）	・良くなる要素が見つからない。
		一般小売店〔自然食品〕 （経営者）	・安心・安全な食品への志向はあるものの、余裕がないと購買意欲が失われてしまっている。どうしても必要としている人だけしか関心を示さない。
		一般小売店〔果物〕 （店員）	・向こう3か月程度では状況は改善しない。
		百貨店（売場主任）	・通年通りのイベントをしても客の反応は今一つである。購買を見極める厳しい目は依然として続いている。
		百貨店（経理担当）	・販売量、来客数など総じて振るわない。
		スーパー（経営者）	・現状の悪い状況はこの先も変わらず続いていく。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・一部の企業を除いて、利益が向上せず、消費景気が盛り上がり低調に推移する。企業は経費削減を中心に努力しているため、給料、ボーナスは上がらず、消費に回らない。
		スーパー（経営者）	・価格の安定について不安がある。
		スーパー（店長）	・たばこの値上げによって、今のところ仮需要が発生しているが、10月以降については反動が予想される。野菜関係の価格が下がれば、もう少し全体的に消費が上向く。
		スーパー（店長）	・第3のビールが圧倒的に売れるように、日常商品については節約志向が定着しており、この傾向は変わらない。保存・買い置きできる商品については、特売の時以外はほとんど売れない。
		スーパー（店長）	・たばこの値上げ後の落ち込みが予測され、向こう3か月～半年はやや悪くなるが、会社全体の販促変更効果もあるため、横ばいに推移する。
		スーパー（店員）	・ここ3か月来客数が徐々に減っている。商品の動きも安いものだけしか動かない。競合店を見ても来客数が減っている。
		スーパー（店員）	・相場動向も野菜関係の価格も下がるという情報はなく、この状況は年内続く。
		スーパー（販売促進担当）	・客の動向を見ると価格中心の買物が多く、依然として財布のひもが固い状態にある。競合相手を見ても、同様に目玉価格商品の購入が多く見受けられる。
		コンビニ（店長）	・3か月先もあまり変わらない。ボーナスシーズンは今年の6月と同様にあまり期待できない。
		衣料品専門店（経営者）	・天気予報で今年の冬は寒くなると予報されているが、暦がずれてきている。正価販売できる時期が短くなってきている。
		衣料品専門店（経理担当）	・今年の6月以降、総販売量の前年割れが継続している。当社を取り巻く状況も、百貨店、ショッピングセンター、チェーンストアなど各種協会の示す指標と差がなくなっている。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・秋は短くなりそうで、秋物は売上ダウンが予想される。今後どれだけ気温が下がって消費者の購買意欲が高まるかにもよるが、景気の改善は期待できない。
		乗用車販売店（経営者）	・年内は悪いままの状態が続くと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・楽観できる材料が特に見当たらない。中古車業界全体的に不振で、中古車は売れていない。エコカー減税は別として、特に明るい話題が業界にない。
		乗用車販売店（従業員）	・今より悪くなることはないが、年内は悪い状態が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金終了後のメーカーによる対策や、特別仕様車を中心とした車両の魅力を高めた施策を打っており、それらの効果が発現する。
		住関連専門店（営業担当）	・建設業界全体、住宅関係では若干持ち直してきているものの、大規模な新築工事、企業関係の設備投資は減少している。ただ住宅エコポイントの延長については、リフォームが今後も活発化するため、業界全体では幾分良くなる。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・状況が変わる要素が見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・良くなる要素が見当たらない。
		一般レストラン（スタッフ）	・特に客の注文量が増えている様子がない。この傾向は変わらないため今後の景気回復が期待できない。
		スナック（経営者）	・景気の低迷、円高など先行き明るい材料に乏しく、全体的にとても閉塞感がある。客の懐事情もあまり良くないため、周辺の店も閉店時間を早めたり、閉店するところも目立ってきている。当分の間良くならない。
		観光型ホテル（販売担当）	・今のところ、秋口から秋季期間の個人客は順調に受注しているが、従前から行なっている企業のシリーズものの本数が目減りしてくると予想される。個人客が増えても、1本あたり100人規模の受注が減ることによる衝撃の方が大きい。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数の動向から状況は今後も変わらない。
		都市型ホテル（支配人）	・良い材料が見当たらない。10月は従来ハイシーズンであるが、宿泊予約の出足が鈍い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経理担当）	・今後の日中間の外交問題によって、中国人旅行者数が制約を受ける。
		旅行代理店（経営者）	・これ以上円高の状況が加速しなければ良いが、先が全く不透明であるため、まだまだ厳しい状況が続く。
		旅行代理店（経営者）	・年内は回復が難しい様子である。
		タクシー運転手	・盆明けの出費を抑える時期も過ぎ、本来なら需要が戻ってくる時期であるが、依然として戻ってきていない。駅の乗車回転率、ホテルでの回転率などもまだ著しく悪い状態である。無線配車依頼も前年同月比に比べ激減している。この先2～3か月で好転する要因が見当たらない。
		タクシー運転手	・夜の街なかの飲食店、飲み屋街の人手が少ない。客に聞くとう店は閑散としていて、帰りたいたいときに帰りにくい状況となっているため、新たなお客と入れ違いで帰るようにしているという話も聞く。それだけ繁華街に出る人が少なく、無駄な出費を抑える節約の癖がついているのではないかと思われる。
		ゴルフ場（企画担当）	・11～12月の予約数は前年同期比で悪化している。今年は季節を問わず、前年同期比でやや悪い状態で推移してきた。向こう2～3か月はゴルフシーズンを迎えるが特に良くなる気配は見当たらない。
		美顔美容室（経営者）	・ホームケアセットのキャンペーンが12月末まで続く。これまでに購入した客が、2～3か月先にもう1セット購入すると見込んでいる。
		美容室（経営者）	・客の中には、年末にかけてボーナスなどの収入があると思うが、あまり使う方には動かない。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・予測をやや下回りながらも、同じバランスで推移している。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅エコポイントの延長が発表されたが、景気回復による効果が発現するには時間がかかる。
		住宅販売会社（従業員）	・現状が悪すぎるという状態である。企業の決算期に合わせた転勤、住み替えの需要も減っている状態で、新築賃貸住宅の需要も見込めず、見通しが立たない。
	やや悪くなる	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・新年に向けた年末の贈答品であるカレンダーは、10～12月の今年の受注状況は前年同期比減と見込まれ、マイナス傾向に進んでいる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・相変わらず円高、株安状態が続いており、景気対策の具体的内容、方向が定まっていない状態に見えるため、客の積極的な購買行動はまだ期待できない。今年中は景気の悪化が続く。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・政治が混迷しており、先行き不安なことが多過ぎる。経済対策も充分に行われない状況であり、景気が良くなる要素が見当たらない。
		百貨店（売場主任）	・今年の夏は猛暑で外を出歩くより、涼しい百貨店の中を歩いている客が多かった。秋は行楽シーズンで外へ行くと郊外のショッピングモールなどで買物をする傾向になるため、駅近くの百貨店では売上が少し減る。プロ野球に絡むセールが始まると多少は売上が増えるものの、安い商品が売れるだけで正価販売商品はなかなか売れない厳しい状況が続く。
		百貨店（企画担当）	・6月、8月は前年並みの売上に戻ったが、7月、9月は前年を大きく下回った。1か月ごとに売上が良い月と悪い月が交互にきており、今後も同様の動きになる。
		百貨店（営業企画担当）	・国内の経済不安により、消費が冷え込む。ただし、前年が大幅に落ち込んだため、前年ほどの落ち込みはない。
		百貨店（販売担当）	・秋物の動きは天候による変動がない。
		スーパー（店員）	・中国からの野菜の輸入がストップもしくは値段が高騰している傾向が見られる。もし今後日中間関係が悪化するようなことがあれば、さらに輸入野菜が高騰する。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこの値上げ前の駆け込み特需からの反動により、10月以降は売上が減少する。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ値上げに伴う買い溜めと禁煙者の増加により、たばこの売上が大きくダウンするとともに、買い合わせされていた缶コーヒーなどが売れなくなる。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこ値上げ前の駆け込み特需の反動や円高の悪影響が懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・2番底、3番底が見えてきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・たばこの値上がりや消費税が上がる不安感からお金を使わないと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数は先食いした影響もあり、来客数、販売台数、客の様子から、季節とともに冬の時代に入ってしまうような状況である。ただし、工場への在庫数は活発で、目標をクリアしている。新車販売台数がかなり落ち込むが、メーカーからのテコ入れもあって、しばらくは悪いながらも利益を確保できる。
		乗用車販売店（従業員）	・2～3か月後までは、エコカー補助金が終了したことによる影響が残り、どこが底かは分からない。
		乗用車販売店（総務担当）	・エコカー補助金の終了に伴い、反動が3か月ほど続く。
		観光型ホテル（経営者）	・11～12月は、宿泊、会食とも前年実績を上回っていない。製造業の業績が良くなるとサービス業の景気は好転しない。
		都市型ホテル（経営者）	・回復力が弱まり、円高など諸情勢から先行き不透明である。
		都市型ホテル（営業担当）	・エコカー補助金廃止に伴う今後の動向が不透明なため、製造業を中心に自粛傾向にある。
		旅行代理店（経営者）	・いろいろな商品販売を試しているが、販売増の糸口がまだ見つけられない。
		旅行代理店（経営者）	・生産現場の海外移転とそれに伴う本社機能の移転など様々な動きが起き始めており、このような状況を大きく変えることがない限り、徐々に経済環境は悪化していく。
		旅行代理店（従業員）	・収入が増えないと、なかなかレジャー費は増えない。今年は特にレジャー費に回る金額が多くない。
		旅行代理店（従業員）	・ローコストキャリアの日本進出によって、航空料金の競争激化が始まり、日本の航空会社もその分野に移行していくという段階に突入した。収入率の低下に拍車がかかりそうであり、業界の先行きは視界不良である。
		通信会社（企画担当）	・業界が拡大方向から、限られた市場でパイを争い合う状況に変化してきており、さらに競争が激化する。
		理美容室（経営者）	・客の話では、仕事は増えてきたが給料は上がらないとのことであり、景気は良くならない。
		設計事務所（経営者）	・小さな設計案件にまでコンペ形式を採用するというケースが増えており、コンペ経費が負担となっている。今後も傾向は強まる。
		住宅販売会社（企画担当）	・来客数が非常に少ない。3か月後はかなり落ち込む。
	悪くなる	百貨店（販売担当）	・輸出産業が盛んな地域であるため円高が景気を左右する。年末にかけてはかなり厳しい状況となり、当然ボーナスにも反映されて消費意欲も低下する。
		百貨店（経営企画担当）	・企業の第2四半期決算発表を受けて、円高による輸出産業への影響が顕在化し、消費マインドがさらに低下する。
		コンビニ（店長）	・今月はたばこ値上げ前の駆け込み特需で売上が増加したが、来月以降の売上げはほとんど見込めない。
		コンビニ（企画担当）	・たばこ値上げ前の駆け込み特需以外に、プラスとなる要因に乏しい。
		コンビニ（エリア担当）	・今月はたばこ値上げ前の駆け込み特需があって一見すると売上は好調に見えるがたばこ以外の商品は動いていない。むしろ前年より減少しており、根本的にコンビニの景気は良くない。来月以降、たばこが値上がりするとますます来客数が減る。
		コンビニ（店長）	・今の状況を見ていると、来店頻度、売上単価が上がるとは考えられない。むしろ悪くなる。
		コンビニ（店長）	・たばこ値上げ前の駆け込み特需による反動で、今後1～2か月は売上が大きく落ち込む。
		コンビニ（商品開発担当）	・たばこ値上げ前の駆け込み特需による反動が、10月以降、かつて経験したことのないレベルで襲ってくる。2～3か月は売上に影響する。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー補助金に関する駆け込み受注の反動もあり、年内は相当厳しくなり、販売が見込める要素がない。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・景気不透明な社会情勢が変わらないなかで、個人消費や所得が減っている限り、売上の大きな回復は望めない。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約客数など先行きをみる指標は下降している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者） テーマパーク（職員） 美容室（経営者） 理容室（経営者） 住宅販売会社（経営者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような職種も明るい見通しがなく、景気の良くなる要素が感じられない。</li> <li>・ゴールデンウィークや夏休み期間など人が動くべき時期は節約していないようであるが、それ以外の平時は出費を抑え気味にしているため、今後はさらに景気が悪くなる。</li> <li>・円高の影響もあり景気は悪い。そのなかで景気が良くなる要素が全くない。</li> <li>・これまでの状況を見る限り、景気は悪くなくても、良くなるようなことはない。</li> <li>・客に購入意欲はあるが、頭金が少なく、収入も減っている。また、金融機関の融資額も減っているため、総合的に購入できない状況にある。この状況は今後も続く。</li> </ul>
企業動向関連	良くなる やや良くなる	窯業・土石製品製造業（経営者） 電気機械器具製造業（営業担当） 輸送用機械器具製造業（品質管理担当） 輸送業（エリア担当） 会計事務所（社会保険労務士）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、秋口から年末に掛けて着工件数が増加しているが、さらに今年は食器、タイル及び衛生陶器業界の先行指数となる住宅着工件数が約5%増加している。</li> <li>・円高がこれ以上続くとは思えない。今後本格的な財政出動があれば、良い方向に向かう。</li> <li>・取引先企業の新機種の立ち上がりが本格的に始まり、それによる設備投資の増加に伴って多少改善する。</li> <li>・引き続きアジア圏の経済発展が期待される。</li> <li>・一番厳しかった建設業が、少しずつ仕事が増えてきている。他の業種は、売上は伸びてきているので、今後はいかに利益に結び付けられるかが課題である。</li> </ul>
	変わらない	化学工業（企画担当） 窯業・土石製品製造業（社員） 金属製品製造業（従業員） 一般機械器具製造業（経理担当） 一般機械器具製造業（営業担当） 電気機械器具製造業（経営者） 建設業（営業担当） 輸送業（エリア担当） 輸送業（エリア担当） 輸送業（エリア担当） 通信業（営業担当） 通信会社（法人営業担当） 金融業（企画担当） 不動産業（開発担当） 不動産業（管理担当） 広告代理店（制作担当） 新聞販売店〔広告〕（店主）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長引く円高、株安の影響を受け、景気は足踏み状態になる。</li> <li>・取引先と話していると、「年内は現在の水準で移行する」と言った声を聞く。しかし、自動車関係は生産調整に入っており、予断を許さない状況にある。</li> <li>・プロジェクトなど、仕事量が増えそうな情報が聞こえてこない。あるとしても、首都圏に限定される。</li> <li>・受注量の微増傾向は今後も続きそうであるとの情報もあり、下期後半に期待したい。</li> <li>・引き合いの件数は増加しそうであるが、このまま円高が続けば価格競争力がなくなり、受注できなくなるか利益がでない状況になる。</li> <li>・車載電子部品の減産影響以外は大きな変化は見込まれない。</li> <li>・どこの企業も様々なことを試している。新しいやり方、新しい考え方で立ち向かわないと現状のままでは厳しくなる。</li> <li>・ここ半年くらいの傾向であるが、国内の荷物量が増える兆しがなく、むしろどんどん減ってきている。将来もこのような流れになり、急な景気回復はありえない。</li> <li>・エコカー補助金の効果も薄れるが、何といても販売価格が上がってこない。なかなか利益を出せる単価になってこない。</li> <li>・一部を除いて荷の動きはとても悪い状況であるが、トラック・トレーラで運搬するパラセメントの依頼が出てきたので、これ以上悪くはならない。</li> <li>・政治問題は一段落したが、円高問題等いろいろ外的環境の厳しさもあり、景気は変わらない。</li> <li>・良くなる要素が見当たらない。</li> <li>・エコカー補助金終了によって自動車販売は落ち込み、不動産の動きも低迷している。特に個人は消費に慎重であり、個人消費が回復してこないと景気は良くならない。</li> <li>・首都圏では高額マンションが販売好調と聞かすが、当該地域においては竣工前に完売する物件は限られており、明るい兆しが見られない。</li> <li>・今後、円高などが2割以上進めば、家賃の質下げ交渉、事務所の借り換えが生じる可能性もあるが、今はすべての面で落ち着いているので、しばらくは変わらない。</li> <li>・依然として状況は厳しく回復の兆しはまだあまり見られない。</li> <li>・来年度から小学生の教材に新聞が使われるが、これが新聞増紙に繋がるかどうかはわからない。その他に新聞販売を増やす材料が見つからない。</li> </ul>

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・営業活動を活発に行っているが、取引先においてもこれといった決め手がなく、受注に結び付いていない。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	・多少受注量が増えてきたが、単純にこのまま増えていくとは思えず、しばらく増減を続けていくであろう。
		食料品製造業（企画担当）	・販売価格は下落傾向にある。売れているのは低価格帯の商品が多く、購買意欲の回復がみられない。この傾向は当分続くと思込まれるが、円高による消費者心理の萎縮が懸念される。
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・取引先からの新規案件が少ない状況である。既存の製品が受注できれば良い方である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・円高、株安、それに伴って受注量の減少、値下げの要求が始まっている。
		印刷業（営業担当）	・自分の会社、周りの会社の状況を聞くと、現状維持も難しくまだ下がる気配である。一部では景気は上向きだとの話もあるが、周りでは全くそのような実感はない。
		化学工業（人事担当）	・現在の円高、海外情勢の不安定さ、政治を考えると、景気が上向く要因が見当たらない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・円高の影響で下期の見通しは厳しい。
		電気機械器具製造業（経営者）	・円高の影響により、海外店など大企業の海外シフトがまだまだこれから活発となるため、国内での生産、受注量、単価が厳しくなる。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・エコカー補助金の終了、円高による輸出量減によって仕事量が減り、労働時間短縮を行う職場が一部で発生する見込みである。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円高要因で輸出が減る一方、鋼材の値上げを業者から求められており、それを価格転嫁できない状況にある。
		建設業（経営者）	・自動車産業が中心の当地区においては、補助金の打ち切り、円高などマイナス要因が多く、やや下振れすると予想している。
		輸送業（経営者）	・円高の継続・進行を予測しての製造業の工場海外移転計画が次々と発表され、国内の二次下請けメーカーの生産予定が下方修正されている。
		輸送業（従業員）	・原油をはじめ原材料価格が高騰しているが、価格転嫁が難しく、円高と相まって輸出関連のメーカーは特に厳しい状況にある。物流関連企業は、燃料高に輸送量の減少でダンピングが心配される。
		金融業（従業員）	・エコカー補助金が終わり、今後は車の販売不振が予想され、景気も良くない方向へ向かう。
		金融業（法人営業担当）	・円高、株安に加えて、エコカー補助金の終了などにより、先行きの景気に悲観的な見方が広がっている。景気低迷に伴い、消費者のマインドは低下し、とりわけ非製造業の業績悪化が予想される。
		会計事務所（職員）	・特に中小企業において設備投資をする企業がほとんどない。また設備投資を予定している企業もないようであり、設備投資をしていく景気ではないとほとんどの経営者は言っている。
悪くなる	鉄鋼業（経営者）	・円高、中国の生産の落ち込み、国内景気刺激策など全く景気上昇要因がない。各社の生産計画も10月は軒並み前年比20%ほど減少となっている。	
	金属製品製造業（経営者）	・引き合いの減少が顕著に現れている。	
	不動産業（経営者）	・遊興費、外食費など贅沢財に近いものの動きが少なく、それらを取り巻く不動産業、動産業、業種にかかわらず低迷し、デフレ傾向が強まる。	
	経営コンサルタント	・雇用問題が大きな影を落としている。政府も地方自治体も雇用に対して本格的になっておらず、真面目に働いても住宅ローンが払えない、家賃も払えない状況になっている。消費の低迷、住宅投資の手控え傾向になっており、マイナスの悪循環に陥っている。	
	公認会計士	・自動車関連の操業度が下がる見通しであり、波及効果が大い。中国とのビジネスに不信感が広がっている。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・今後も研究開発ニーズは継続して増加傾向にある。
	職業安定所（所長）	・緩やかながらも求人数の増加傾向が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・当地区の求人はほとんどない。大都市圏では求人の動きが少し出てきたが、地方に回るのはまだまだ先のことになる。IT関係はほとんど求人がないが、通信関係は改善が見られる。
		人材派遣会社（社員）	・優秀な人材の中途採用は今後も活発ではあるがその分新卒採用や経験の乏しい人材採用は手控ええられる。
		人材派遣会社（社員）	・近隣での新規オープンなど同業者間での客の取り合いで、しばらく求人数も減少したままの厳しい状況になる。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣先の顧客開拓及び、業務の拡販は停滞しつつある。それにも増して求職者数が増大しておりその需要と供給のアンバランスが保たれていないし、またそれを望めない。
		人材派遣会社（支店長）	・派遣から業務委託への流れが当地区でも浸透しつつある。導入まである程度の時間を要するケースが多いが、直近で緊急雇用対策費用の追加など公共関連の動きが活発化するため、売上水準は変わらない状況が続く。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・エコカー補助金等の終了で製造系の雇用面で、見通しが立たなくなっている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新聞の求人広告は底ばいのみままで、地元の主要産業である自動車産業を取り巻く状況を見ても、まだ回復傾向とは言い難い。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・2011年春卒業する学生を対象とした就職ガイダンスは前年比55%で終了する。学生にとっては超氷河期の就職環境が続いている。2012年対象の新卒募集も始まったが、現時点での動きは前年以上に低調である。
		職業安定所（職員）	・求人数は増加しているものの、前年比で見ると常用求人よりもパート求人のほうが増加率が高い状況にあり、大きく改善するところまでには至っていない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・大学生の採用状況に改善が見られず、むしろ悪化を示す数字も見受けられ、雇用という観点からは、まだ底からの脱却感が無い。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・5月以降見送っていた平成23年度新卒採用会社説明会を、今月より再度開催したところ、エントリー件数では春実施の際の最大数を上回った。その中の数名から「内定取り消し」を被ったなどの状況を聞いた。雇用回復を実感するには至らない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人の正社員求人割合をみると、前年同月比で8か月連続の低下となっており、企業が先行きに慎重になってきている。
		職業安定所（職員）	・新規の求人数が、特に製造業を中心になかなか伸びない。円高がすぐに回復するとは思えず、今年の末にかけて若干悪くなる。
		職業安定所（職員）	・ここ2か月あまり、求人数は増加傾向にあったが若干増減率が緩やかな状況になっている。企業はエコカー補助金の終了などにより不透明感が更に強まったため、求人の出し渋りなど慎重に対応している。
		職業安定所（職員）	・「解雇による」又は「期間満了」を退職理由とした退職が増えている。求人もパート求人が増えており、正社員求人はどんどん減少し、採用抑制が続いている。
		職業安定所（職員）	・円高の影響が既に出てきている企業もあるが、10月以降にならないと影響は出ないという企業が多い。エコカー補助金終了による影響も相まって、2～3か月先には影響が出る企業が増える。
		民間職業紹介機関（支社長）	・大幅な景気下降はないかもしれないが、日本の景気が良くなる要素が見つからない。新規求人票は入ってきているものの、採用の目線が厳しくなりつつある。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・円高などによる企業の採用意欲が低下しており、この傾向は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	アウトソーシング企業 (エリア担当)	・エコカー補助金の終了に伴い、生産が全般的に2～3割程減少する見込みである。年末に若干の持ち直しが見られそうであるが、まだ不確定である。

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（売場担当） タクシー運転手 通信会社（営業担当） 住宅販売会社（従業員）	・急激な気温低下に伴う冬物の動きが活発になる。 ・暑い時期もようやく終わり、今まで極力外出を控えていた人も秋の行楽シーズンで外出するようになると聞いている。夏場が悪かった分、良くなることを期待している。 ・新スマートフォンの発売で、今まで興味を持たなかった客も振り向いてくれそうである。 ・現在、2か月先の契約ストックがみえている状況であり、今後2～3か月間は安定して契約が進むと思われる。金利の低下が需要を掘り起こしている状況である。
	変わらない	商店街（代表者） 商店街（代表者） 一般小売店〔精肉〕（店長） 一般小売店〔書籍〕（従業員） 百貨店（営業担当） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（店長） コンビニ（経営者） コンビニ（店舗管理） 衣料品専門店（経営者） 衣料品専門店（総括） 家電量販店（経営者） 家電量販店（店長） 家電量販店（店長） 自動車備品販売店（従業員） 住関連専門店（店長） その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・金沢の商圈にますます大きく差をつけられそうである。 ・景気刺激策もすでに一定の効果を残し、新たな展開がみえていない。これから一気に寒くなれば、秋物を飛ばして冬物へと移行してしまい、在庫調整が難しくなるだろう。 ・良くなる外的要因も悪くなる外的要因も見当たらない。客の様子をみても樂觀視したり、悲觀的になっている様子もない。 ・消費者に購買意欲が感じられない。 ・レザーやファーなどトレンドを感じる秋冬物については、関心を持ち、買上につながる場合があるのは固定客ばかりで、それ以外のフリー客は買上に結びついていない。また、秋物自体の動きが顕著になっていないため、厳しい秋冬商戦が予測される。 ・たばこの値上げに伴う前倒し需要は、10月に反動が来るため加味しないが、良くなるも悪くなるも変わる要素が見当たらない。この状況は年末まで継続する見込みである。 ・厳冬と予測され暖房商材の需要が高まると見られる。消費スタイルは最低必要限度の物が中心になり、景気には若干影響するも動向は大きく変わらない。 ・たばこの値上げもあり、景気が良くなる要因が何もない。 ・この数か月間の来客数などの数値状況の推移をみると一向に改善が見られない。 ・競合店の開店から間もなく1年を迎えるが、売上の上がりそうな要素も下がりそうな要素もない。 ・プラスに転じる要因も見当たらず、猛暑も起爆剤とはならなかった。 ・暑さは収まってきたが、客の購買意欲は慎重姿勢が続くものと予想される。 ・景気が上昇すると考えられるプラス要因が見つからない。 ・6月からの猛暑と家電エコポイント特需によるもの以外はいい材料がなく、これからも大きな変化はみられない。 ・家電エコポイントについて、省エネ効果の低い商品が対象から外れ、駆け込み購入が予想されるが、単価面で前年より大幅に価格が下落しているため、売上は前年と同じ程度と予想している。 ・テレビの販売量で助かっているが、いつまでも続かないであろう。総売上は変わっていない。 ・新車販売台数の減少が予測され、趣向品、カーナビゲーションなどの高額商品の動きが鈍くなっている。 ・特別変わるようには思えない。「現状でいかに利益を出していくか」これしか考えていない。売上が上がる見込みを立てられないのが現状である。 ・現在の景況が急激に変化するとは思わない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・これ以上悪くなって欲しくないという願望だけがある。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・収入源の増加が期待できないため、客の財布のひもの固さに変化はなく、先が見えないことには変わらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・秋の観光シーズンと忘年会シーズンを控えるが、大型の受注は例年の85%ほどと厳しい状況が続く予定である。2年前と比べると商品の低価格化もあり売上も85%前後から伸ばせない。ぜいたくな食事を売っているため、今後の業態転換も含め正念場である。
		スナック（経営者）	・先々もこのままではお手上げ状況である。客の入りも株価や社会の変動次第で影響されると感じている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊、レストラン利用客の低迷が続いており、婚礼件数も低迷したままである。回復感がなく、厳しい状況が続く見通しである。
		旅行代理店（従業員）	・企業は全体的にいまだに閉塞感がぬぐいきれず、海外需要を中心に回復にはまだしばらく時間がかかると予想している。個人旅行消費の活発化にわずかな期待を寄せている。
		タクシー運転手	・忙しくなるという要因が見当たらない。
		通信会社（職員）	・夏の商戦が、前年に比べやや良かったため、冬の商戦にも期待したいところであるが、政治的に外交・防衛問題、経済的に円高問題などが足かせとなり、思うほどの上昇が期待できないため、結果的には横ばいで推移するであろう。
		通信会社（社員）	・政局は落ち着いたものの、中国との関係など周辺環境状況に不安定要素が多く、期待感を持っていない状態である。
		通信会社（役員）	・地上アナログ放送の終了期限である23年7月が迫るなか、アナログテレビのデジタル置換えも今年度の年末商戦がピークになると予想され、ケーブルテレビアナログ契約のデジタル切替も引き続き順調に推移すると予想している。
		住宅販売会社（従業員）	・政治が安定しないことや、消費税に関する議論もあいまいなせいか、今後とも動きが変わらないと感じる。
	やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・取引先を訪問しても、家具などを購入する、オフィスなどを整備するといった話が聞かれない。
		百貨店（売場主任）	・ようやく気温も低下し、秋物商材に動きが見られるが、客の商品選定基準、価値観の変化は変わらず、消費に対する引き締め感は続くと思われる。
		百貨店（営業担当）	・ファッション関係は依然低迷しており、かつカジュアル志向の強い汎用性の高い商材が受けており、単価が落ちている要因の一つである。また、暮らし関連、食品関連でも厳しくなり、プチぜいたく、プチ消費といった行動も最近では見られなくなっており、財布のひもが固くなっている。
		スーパー（店長）	・店舗が空港や高速道路に近いこともあって、通常から中国人観光客が多い。今後の日中関係の展開しだいでは影響が大きく、悪くなる可能性がある。
		スーパー（総務担当）	・厚生年金保険料の料率アップ、たばこの値上げなどが家計に影響して、消費がさらに低迷する。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金等の景気浮揚策で需要喚起の成果はみられたものの、反動はすでに表れている。車種や需要層に顕著な格差があり、より細かな対応が求められる。
		乗用車販売店（経営者）	・販売台数が期待できない期間が2～3か月ぐらい続くと予測される。
		乗用車販売店（経理担当）	・自動車販売業界は政策により、作られた又は守られた需要であったため、かなり先食い販売で推移してきた。今後は現在の景気動向並びに消費動向に大きく左右されると考えられるので、厳しい状況に直面すると推測できる。
		一般レストラン（スタッフ）	・たばこの値上げによるまとめ買いでサラリーマンのランチ代節約が目立っている。豊作だった米の安売り、スーパーの円高還元セールなどで外食より内食に向かう傾向にある。
		観光型旅館（経営者）	・秋から冬にかけて宿泊予約数は前年並みに推移している。消費単価が低下している現状を考えると売上は前年を下回ると思われる。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は秋の行楽シーズンの10、11月でまだ前年同月比92～85%で推移している。団体予約の減少が大きな原因である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・中国からの旅行客の減少が予想され、宿泊を中心に厳しくなる見込みである。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・予約によれば、今後2～3か月は団体、募集ツアーが中心となる。個人、海外からの観光客と比較すると1人当たりの消費単価が低いことから良くなることはない。
		競輪場（職員）	・購入単価の上昇を見込める要因が見当たらず、下落傾向にある。
		住宅販売会社（経営者）	・季節がら工事量が減ることが確実であるにもかかわらず、受注が増えそうにない。
		住宅販売会社（従業員）	・リフォームの受注が下降気味である。住宅版エコポイント延長により割安感、お買い得感が継続すれば横ばいか少し上向きにならないかと期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・個人消費がまだまだ改善されず、円高など今後の経済の状況も不透明である。また、抜本的な景気対策が示されない状況であり、楽観視できない環境が続くと予想される。
悪くなる	コンビニ（経営者）	・たばこ特需の反動が非常に大きい。売上は、3か月前のレベルかそれ以下にまでに低下するのではないかと予想している。	
	コンビニ（店長）	・たばこの売上が9月比5割以上減少すると予想している。たばこ以外の商品の売れ行きも引き続き悪いと思われる。たばこの売上が極端に下がり、たばこ以外でも売上は9月同様伸び悩むものと感じている。	
	衣料品専門店（経営者）	・7月ごろには9、10月には上向きの波が来ると思っていたが、現在では、低調、最悪、先行き真っ暗といった表現が一番似合う。膨らんだ桜のつぼみが雪に埋まったような感じである。	
	旅行代理店（従業員）	・中国との関係悪化を懸念している。また、格安航空会社の台頭により海外志向が増加する半面、国内旅行の空洞化も懸念事項である。デフレが一段と進むと考える。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・良くなってもらわないと当社の存続も危ぶまれる程である。設備投資は必ず出てくると考えている。
		輸送業（配車担当）	・少しずつではあるが荷動きが良くなっている。軽油価格も下落し経費も削減できる。
		通信業（営業担当）	・通信設備への投資が徐々に回復してきたようである。
	変わらない	食料品製造業（企画担当）	・同業者の中では売上高が2けたの落ち込みとも聞いており、当社も例外ではない。昨今の先行き不透明感がぬぐえない限り、またデフレの影響下にて食料品がすべてに安価になっており、廉価品を好む消費者の選択肢が広がる限り、食料品業界の商品についての消費の低迷は現在と同様に続く。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・主である住宅建材向けは、3か月先、6か月先ではまだ伸びる要素が見えていない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・受注の引き合い状況から考えて大きく変化しない。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・客は新製品を出して世界に向けて発信しているが、円高状況から考えると、この後受注が順調に取れるかどうかは不透明である。
		精密機械器具製造業（経営者）	・年末から年明けにかけての受注量は、前月の読みに比べ多少上乘せされて続く予定である。
		金融業（融資担当）	・ここ数か月は現状の景況感が続く。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・ここ数か月は前年同月比100%を少し下回る。折込チラシを入れるような店舗の出店もないので競争がなくこの市場は落ち着いている。
		司法書士	・会社の解散、営業所閉鎖、事業廃止の手続き依頼が増えている。
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・円高や国内消費の頭打ち感から、今後の受注において数量及び単価に悪影響を与える懸念があり、先行き不安が続く。
		金属製品製造業（経営者）	・受注の入り具合をみると現状よりやや悪い。
		輸送業（配車担当）	・80円前半の円高などにより輸出産業にかかわる物量が減少し、また、家電エコポイントの縮小・終了が近くなり、今後大きな需要増加は見込まれない。
不動産業（経営者）		・法人、個人ともに活発な動きが見られなくなっている。	
税理士（所長）		・労働者の所得が上昇傾向になることは期待できず、エコカー補助金などの施策も終わり自動車販売も一段落するため、個人消費が上向くことは難しい。輸出関連は、円高で輸出が厳しい状況が続き、このような外的環境が改善されない限り、大きなプラスにはならない。中小企業は経営については消極的にならざるを得ない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	繊維工業（経営者）	・円高やエコカー補助金終了などの影響で、今後、非衣料分野で生産減少につながっていく。
		建設業（経営者）	・資金繰りのために施工能力の無い業者が一般競争入札に参加してダンピングまがいの低価格で受注を狙い、それに対抗してまともな業者も低価格で応札するという、建設産業崩壊の負のスパイラルが加速していく。
		建設業（総務担当）	・民間の工事発注量が低水準で推移しており、特に受注価格競争面では更にエスカレートし、ますます厳しい状況が続くと見込まれる。
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・このところ雇用調整助成金の計画提出件数が減少している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・期間限定の求人は発生しても、スキルを持った即戦力の人材を要求されるため、求職者の人選が厳しい状況である。見通しは暗い。
		人材派遣会社（社員）	・新たな雇用の場が創出されないため、新規の求人数が少ない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は増加傾向にあるものの、円高が雇用に及ぼす影響が懸念される。
		民間職業紹介機関（経営者）	・円高の及ぼす影響が不透明であり、回復しかけた雇用が元に戻る可能性もある。
	学校〔大学〕（就職担当）	・今後の学生の就職内定については不透明である。	
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・9月の反動で今後求人数が減っていく。	
悪くなる	-	-	

#### 7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・猛暑の影響で8、9月は売上、来客数が底の状態であったため、後は上向きしかない。ただし、商店街にとっては上向きかどうかが死活問題となる。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・これから秋にかけて行楽シーズンが到来する。これ以上景気が悪くなる要素もないため、少しは良くなっていく。
		百貨店（売場主任）	・天候にもよるが、最近は各種商品の早期受注会が好調なことから、秋冬物の実需期には富裕層を中心に高額品が動き出す。
		百貨店（売場主任）	・気候の推移が通常に戻れば、現状よりも改善に向かう。ただし、人口減少や経済情勢の不安、物欲の低下、オーバーコストといった構造的な問題が解決されない限り、売上が根本的に良くなることはない。いずれにしても外的要因頼みであり、限られたパイをどれだけ奪えるかがポイントとなる。
		百貨店（営業担当）	・夏物衣料の動きが低調であったため、これから予定されている秋物衣料の特別催事には期待が持てる。新ブランドも含めた展開となることもあり、婦人物を中心に動きが出てくる。
		百貨店（マネージャー）	・可処分所得が短期間で急減しなければ、円高を背景にした輸入価格の下落が消費にはプラスに作用する。
		スーパー（店長）	・9月後半から気温の低下が進んでいるため、秋物衣料や食品の鍋物商材、住関連の寝装品といった季節商材の動きが活発化し、客単価もアップする。
		スーパー（企画）	・今年の冬は気温が低く、寒さも厳しくなると予想されているため、このまま気温が下がり続ければ、季節商品の動きも活発となる。特に冬は1品単価も上がるため、全体的に良くなる見込みが高い。
		スーパー（社員）	・競合店の出店などで商圈の状況が変化した地域は苦戦が続いているものの、既存店では売上の伸びている店舗が多いため、先行きはやや良くなる。この傾向は春から続いているため、食品に限っては良くなっている実感がある。
住関連専門店（店員）	・気温が下がり、秋冬商品が売れ始める。		
高級レストラン（スタッフ）	・メニューの見直しやワインイベントのパンフレットへの広告掲載といった、新規客へのアプローチによる効果が出てくる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
変わらない		一般レストラン（経営者）	・景気が急激に回復する見込みは薄いが、宴会シーズンが始まるため、戦略次第では良くなる。	
		通信会社（社員）	・年末までは、地上デジタル放送関連の特需が続く。	
		観光名所（経理担当）	・盛夏並みの残暑が遅くまで続いたことで、例年のような来客はみられなかったが、月半ばの3連休ごろから客が増えてきている。平日も以前に比べて来客数が増え、客単価もわずかに上がっている。10月は街中で様々なイベントや行事が予定されているため、集客面で効果が出る。	
			パチンコ店（店員）	・来客数が増えているわけではないものの、店に長時間滞在する客が増えているため、先行きはやや良くなる。
			商店街（代表者）	・今は景気が底の状態であり、良くなる要素も見当たらない。経済改革も進んでいないため、客の消費意欲も高まらない。
			商店街（代表者）	・客単価の下落が止まらないため、まだまだ安心できない。
			一般小売店〔花〕（経営者）	・景気回復の動きがなく、個人消費は更に落ち込んでいるほか、企業の経費削減の動きが進んでいる。クリスマス、正月商品の販売で売上は維持できるものの、それを景気回復とは呼べない。
			一般小売店〔時計〕（経営者）	・若い客は仕事などの収入面で厳しく、年配の客は年金の収入に不安がある。どの世代も安心できない要素があるため、厳しい状況は今後も変わらない。
			一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・今回のたばこの値上げなどで、お金を使う場所が変化すれば、食品の売上にもかなりの影響が出る。これ以上悪くなると思いたくはないが、今までどおりの商売は成り立たなくなる。
			一般小売店〔衣服〕（経営者）	・冬に向けて衣料品の売れるシーズンとなるが、ここ数か月の低調な販売量や来客数、客の様子をみていると、決して楽観はできない。
			一般小売店〔野菜〕（店長）	・今の状況では、上向くことは不可能である。
			百貨店（売場主任）	・為替介入が行われたものの、円高による企業業績の先行き不安は消えていない。株価の低迷や給与の減少もあり、消費の回復する要素は見当たらない。
			百貨店（売場主任）	・状況は今よりも若干良くなる可能性はあるが、大きく変わることはない。
			百貨店（企画担当）	・秋冬物の動きに期待しているが、大きく好転するような商材は見当たらない。ただし、近隣にファストファッションの大型店がオープンするため、集客効果が出てくる。
			百貨店（企画担当）	・冷え込みが進めば衣料品の動きは良くなるものの、今のところヒット商品は見当たらない。
			百貨店（営業担当）	・ここ2、3年は買い控えていた富裕客も、徐々に高額ブランド品などを買いはじめた。ただし、無駄な買物はやめておくといった声も聞かれるため、消費全体が良くなるまでには至らない。
			百貨店（店長）	・政治も含めて、先行き不透明感が強まっている。
			百貨店（婦人服）	・円高や株安、対中外交などの不安が押しよせられ、企業業績が好転しない限り、良くなることはない。
			百貨店（サービス担当）	・秋本番となり、北海道の物産展や正月のおせち商品の受付が始まる。年末にかけて忙しくなるものの、中国との外交問題で中国からの観光客は減少する。
			百貨店（売場担当）	・ニューミセス、ミセス層の業績は前年並みが微増となっているが、今までのけん引役であったヤング層は低迷している。婦人服全体としては2、3か月前と同じく、前年実績付近を行ったり来たりの状況が続いており、なかなか前年を上回ることはできない。今後も現在のような状況が続く。
		スーパー（経営者）	・近隣には競合店が多いため、客はその日によって様々な店を買い回っており、今後もこのような動きが続く。	
		スーパー（経営者）	・サラリーマンの給与所得の減少が報じられるなど、消費者は更に節約志向を強めるため、良くなる要素が見当たらない。	
		スーパー（店長）	・先行き不安が押しよせられておらず、売上が拡大する要素は少ない。ただし、平城遷都1300年記念のプレミアム付き商品券が10月1日に発売されるため、一時的には良くなる。	
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店予定を含めた経営環境には大きな変化がない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経理担当）	・高速道路料金が一部無料となり、行楽などの外出が増えている。秋の本格的な行楽シーズンが始まれば、休日の売上が意外に伸び悩む恐れもある。
		スーパー（広報担当）	・今月はたばこ増税前の特需もあり、実力以上に売上が増えている。10月以降の反動減が懸念されるものの、急激な気温の変化で季節衣料に動きが出てきているため、全体として大きな変化はない。
		スーパー（管理担当）	・短期間で好転する材料に乏しい。
		スーパー（販売担当）	・客の間では、必要な物を必要な量しか買わない傾向が非常に強まっているため、今後も厳しい状況が続く。特にそう菜などの日持ちしない物は、店員に分量を変えてもらってでも、本当に必要な量だけを買う客が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	・これから気温が大幅に下がれば秋物商品も動くが、秋物が売れないまま冬物商戦に移る心配もある。
		家電量販店（店員）	・まだまだ世の中は不景気で、来店してもすべての客が商品を買うわけではない。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終わって新車の販売が芳しくないほか、車検や修理の受注もあまり良くないため、見通しは厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・円高が進んでも外車の価格は変わらないため、販売は伸びない。客は様々な面で敏感になっているなど、良くなる要素が見当たらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・少しずつ販売単価が下がってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・上向き要素は今のところ何もない。
		住関連専門店（店長）	・エコポイント制度やエコカー減税といった、特定業界のみを対象とした消費促進策では景気の底上げにつながらない。当業界では景気対策の恩恵が全く感じられず、客は買物に慎重なままである。今後も企業努力で対応するしかないため、先行きの見通しは厳しい。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・暑い時期が終わって夏物商品の動きは鈍くなるものの、日々の気温の差が大きいため、風邪薬やインフルエンザ関連の動きが出てくる。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・今の厳しい状況が今後も続く。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・来年の春夏商材は12月以降に中国から在庫予定であるが、尖閣諸島問題で在庫が遅れる懸念も出ている。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・今年の流行はファーを使った商品であるため、ジュエリーよりも低価格品の多い毛皮に人気が集まる。
		一般レストラン（経営者）	・現状のような政治、経済情勢では、消費については今以上に追い風が吹くことはない。
		観光型ホテル（経営者）	・今後もしばらくは厳しい価格交渉が続く。値下げによる売上減を宿泊客の増加ではとてもカバーし切れない。
		観光型ホテル（経営者）	・各種イベントや婚礼の増えるシーズンとなり、売上は伸びるものの、猛暑で傷んだ箇所の修繕費などで収益は苦しくなる。
		観光型ホテル（経営者）	・近隣の大きなイベントによって例年よりも良い実績が続いているが、本当に良いのかどうかは不安であり、先行きは不透明である。
		観光型旅館（経営者）	・今年度に入ってゴールデン・ウィークや夏休みは利用客が増えたものの、平均すると減少気味となっている。今後も景気の動向次第では、年末にかけて低調な状況が続く。
		観光型旅館（団体役員）	・宿泊単価は前年の水準を何とか維持しているが、客1人当たりの消費金額は減少しているため、今後も厳しい状況が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門は予約の伸びが足踏み状態となっているが、最終的には前年をやや上回ると予想しているほか、宴会部門も好調に予約が伸びている。
		都市型ホテル（マネージャー）	・秋の観光シーズンを迎え、宿泊部門には若干期待できるものの、宴会部門の予約状況に大きな変化はない。特にオンシーズンとなるブライダルの落ち込みが激しいため、ホテル全体では厳しい状況が続く。
		都市型ホテル（営業担当）	・客室の予約は間際になって動くため、売上の予測が立てにくい。10月の一般宴会は、企業からの予約が間際になって伸びているなど、企業の自粛ムードが和らぐ期待もあるが、全体的な予約状況は依然として悪い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・客がインターネットやテレビ関係の商品に流れている感がある。経済全体の閉そく感も強いので、今後も厳しい状況が続く。
		旅行代理店（広報担当）	・今年の年末年始の日並びは長期の旅行に向いておらず、今の状況が良くなることはない。客の間にも閉そく感があるため、状況は大きく変わらない。
		タクシー運転手	・飲み会などがあっても、電車のある時間に帰る傾向が続いており、何人かでタクシーチケットを利用して乗り合いすることもある。財布のひもを固く締め、必要最小限しか利用しない状況は今後も続く。
		タクシー会社（経営者）	・タクシー業界は、今後も底の状態が続く。
		通信会社（経営者）	・通信会社による代理店向け施策は下半期も変更されないため、大きな改善は起こらない。
		通信会社（経営者）	・特に変化の兆しが見当たらない。
		観光名所（経理担当）	・集客イベントを行っても来客数は一進一退で、客単価の低下もあり売上は低調である。商業施設もテナントの入れ替わりが激しく、状況は安定しない。しばらくはこの厳しい状況が続く。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設]（企画担当）	・景気対策が発表され、円高対策にも見通しが立ってくれば、国内の観光市場はもう少し活性化する。一方、海外からの観光客の増加は今後も続く。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・10月後半に無料体験サービスを行うため、その結果次第で生徒数に変化が出る。
		その他サービス[マッサージ]（スタッフ）	・オイルマッサージでは客が服を脱ぐため、暖かい季節になると来客数が増える。今年は夏の間も客が増えず、今も少ないままであるため、見通しは厳しい。
		住宅販売会社（経営者）	・秋の需要期にもかかわらず目立った動きがないため、見通しは厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・政治不信、円高傾向の継続で不安要素の解消が進んでいないなど、良くなる要素がない。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅の取得を推進する税制や金利の低下はこれ以上望めず、好調になる要素がない。
		住宅販売会社（総務担当）	・住宅版エコポイントの延長などが決まれば動きも出てくるが、すぐには現状維持の状態から抜け出せない。
		その他住宅[展示場]（従業員）	・政府から恒久的な新築住宅の需要喚起策が打ち出されない限り、現状維持が精一杯である。
	やや悪くなる	一般小売店[衣服]（経営者）	・悪くなる要素ばかりで不安な日々が続いている。秋物商品の生産、仕入れを大幅に控えているものの、売れ残りの出る不安がある。
		一般小売店[衣服]（経営者）	・景気の良くなる要素が見当たらない。
		一般小売店[菓子]（営業担当）	・依然として回復の兆しはない。当社の商品はぜいたく品やし好品であるため、今後もなかなか回復しない。
		百貨店（売場主任）	・雇用不安や収入減に歯止めが掛からない限り、小売業ではパイの奪い合いが続く。雇用を生み出す企業を国がバックアップするなど、何らかの対策を講じない限り、明るい展望は開けない。
		スーパー（経営者）	・現在の売上は1品単価の変化に左右されているが、生鮮品の動きをみると、多少高額でも値ごろであれば購入は減らない。ただし、価格で他社との差別化を図らざるを得ず、工場生産の商品は相変わらず特売が続いている。したがって、生鮮品の単価が落ち始めれば、売上も減少傾向に逆戻りする。
		スーパー（店長）	・エコカー補助金の終了による悪影響が出てくるほか、円高傾向も続くと予想される。中国の尖閣諸島問題による政治不安も、消費に悪影響を及ぼす。
		スーパー（店長）	・たばこ関連の特需の反動もあって来月は苦戦するほか、今年は残暑で秋需要が飛んでしまう。その一方、冬の冷え込みが早い予想もあるため、衣料品や住関連は若干良くなる。全体としては、当面弱含みの動きが続く。
		コンビニ（経営者）	・たばこの売上が全体の20%を占めているため、10月以降の売上が落ち込む。
		コンビニ（経営者）	・10月1日からのたばこ増税を機に禁煙するという客が多いため、来店動機の減少に伴う来客数の減少が進む。
		コンビニ（店長）	・たばこのまとめ買いによる反動で、2、3か月は売上減が避けられない。たばこ購入のための来店も減るため、しばらくは来客数、客単価、販売量のすべてに悪影響が出る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		コンビニ（店員）	・10月からのたばこの値上げにより、乗客数、売上にかんがりの影響が出る。		
		コンビニ（広告担当）	・たばこ増税で禁煙、節煙が増えるほか、たばこの関連買いがあつた商品の販売減も大きいため、売上のダウンは避けられない。さらに、猛暑で青果品や鮮魚の収穫量が減り、品質も下がっているため買い控えが出る。		
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・客との話題では、給料やボーナスの減少に関する内容が多いため、先行きはやや悪くなる。		
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度の延長に関する告知が少ない。今年の3月と同様に、終了時期を勘違いした客が12月に集中するため、来年1月の需要はある程度落ち着く。		
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終了したため、これから中古車の需要が増える期待はあるものの、先行きは不透明である。		
		一般レストラン（経営者）	・近隣の新築マンションの入居が始まったものの、期待したほど入居者数が多いとはいえず、忘年会シーズンはあまり来客数が伸びない。		
		一般レストラン（スタッフ）	・8、9月の好調は猛暑による部分が大きい。スーパーや百貨店はそれほど良くなかったことをみても、消費全体は上向いていない。猛暑後に景気が落ち込むという不安は、依然として解消されていない。		
		一般レストラン（経理担当）	・経済や政策面の問題があり、先行きの見通しが全く立たない。客の消費意欲も低下しており、生活防衛のためにお金は使わないという姿勢が顕著となっている。		
		その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・たばこ増税の影響が出てくるほか、接待費も削減されているため、来客数の減少が進む。		
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・単価の低い売れ筋商品でもあまり売れない状況であるため、先行きの見通しは厳しい。		
		都市型ホテル（支配人）	・円高の影響もあり、輸出の伸びはかなり鈍化しつつある。輸入や海外旅行の大幅な増加にも期待できない。景気対策の実施や、中国との早期の関係修復に期待しているが、現状は回復の兆しが全くない。		
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊では中国からの観光客の動きが不安要素となっているほか、ビジネス客の上向き材料も見当たらない。宴会も既存客による開催取りやめが目立つことから、先行きは大幅なマイナスとなる。		
		タクシー運転手	・現在の状況から判断すると、まだまだ景気は悪化していく。		
		テーマパーク（職員）	・実効性のある景気対策が政府から示されていない。自分自身を含め、周囲では不況が当たり前ようになりつつある。		
		競輪場（職員）	・客の所得が増えるような政策もなく、売上の伸びる要素がない。		
		競輪場（職員）	・世界景気の鈍化や物価の上昇、賃金の抑制、外交面の不安、円の急騰といった不安要素が多く、景気が上向きような兆しはない。		
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・直近の調査で企業の業況判断は改善したものの、為替介入などの政策効果の息切れや外交問題の迷走で先行きが不透明になっており、景気に悪影響が出てくる。		
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・プロ野球のシーズンが終了し、今後は企業イベントといった集客力の小さなイベントが中心となる。		
		住宅販売会社（経営者）	・不動産需要の伸びる要素が見当たらない。		
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・円高で企業業績が圧迫されるため、徐々に個人消費にも悪影響が出始める。住宅購入意欲は様々な支援策によって堅調に推移しているが、今後は減速感が出てくる。		
		悪くなる		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・たばこが大幅に値上げされる10月以降は、今まで以上の落ち込みとなる。
				衣料品専門店（経営者）	・当店で買物する客は投資などでそれなりに収益を得ている人が多く、収益の悪化と共に来店頻度が減少するため、先行きの見通しは厳しい。
				乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金の終了後は、極端に来客数が減っている。10月以降の状況は全く予測不可能であるが、現状から推測するとかなり悪くなることは間違いない。
その他専門店〔宝石〕（経営者）	・株安や円高のほか、政治に対する不信感が不安材料となっている。				
その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・景気全体がまだ下げ止まっていないため、先行きの見通しは厳しい。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者） 出版・印刷・同関連産業（情報企画担当） その他製造業〔履物〕（団体職員） 広告代理店（営業担当） 広告代理店（営業担当）	・既存の事業は更に悪化しているものの、新事業は売上、利益共に伸びている。 ・国や地方の政策のなかで、保育所の増設や学校の耐震化工事に期待している企業がある。現に多くの工事が進んでおり、環境やシックハウスに対応した商品を提供している企業は業績が伸びている。販促もそれらの業界に関する売上は好調であるため、先行きはやや良くなる。 ・業界内では中国生産をやめて国内に回帰する動きもあるため、先行きはやや良くなる。 ・製造業と、それに関わる派遣会社の広告が増えつつあるほか、問い合わせも全般的に増えているため、先行きはやや良くなる。 ・気温が下がれば秋冬物が動き出す。例年は10月からの動き出しとなるため、先行きはやや良くなる。
	変わらない	食料品製造業（経理担当） 家具及び木材木製品製造業（営業担当） 化学工業（経営者） 化学工業（企画担当） プラスチック製品製造業（経営者） 窯業・土石製品製造業（経営者） 一般機械器具製造業（経営者） 電気機械器具製造業（経営者） 電気機械器具製造業（経営者） 電気機械器具製造業（宣伝担当） 電気機械器具製造業（営業担当） 建設業（経営者） 建設業（経営者） 輸送業（営業担当） 輸送業（営業所長） 金融業（支店長） 新聞販売店〔広告〕（店主） 広告代理店（営業担当） 経営コンサルタント 経営コンサルタント 司法書士	・客の買い控えが続いており、回復は困難である。 ・配達量に変化がないため、今後も状況に大きな変化はない。 ・業績も前年に比べれば良くなっているが、更に良くなるまでの力強さはない。 ・パーム油の国際相場が大豆を上回る高騰をみせているほか、大豆も中国で不作となったため、今後は値上がりが進む。年末の需要期への影響が不透明で、不安な状況となっている。 ・回復基調は続いているが、勢いはない。今後は対中関係の悪化による影響が懸念されるものの、全体的には現状維持となる。 ・仕入れ先や販売先をみても、良くなる材料が見当たらない。 ・引き合いが順調に来ているため、今後数か月は今の好調が続く。 ・円高が今後更に進む可能性があり、取引先はインドネシアやベトナムを重要視し始めている。ただし、設備は引き続き国内で調達する。 ・外部環境に懸念すべき動きが増えているため、先行きが不安である。また、円高が進み過ぎているため、最近では価格提示の際に、当社の負担により1ドル92円で換算している。 ・エコポイント制度やアナログ放送終了前の年末商戦となるため、好調な荷動きが期待できる。ただし、需要を先食いすることへの懸念もあるため、良くなるとは言い難い状況が続く。 ・引き合いや受注件数がなかなか増えないため、今後も厳しい状況が続く。 ・景気回復の兆しがみられない状態で、積極的に設備投資をする会社は少ない。政府の早急な景気対策がなければ上向くことはない。 ・年末にかけて多少の需要はあるとしても、受注単価の低下傾向は止まらない。 ・家電部品大手による生産が回復しつつある。9～11月は増産予定で荷物量が増えるため、少しは回復に向かう。 ・新規案件は条件が厳しいなど、先行きの見通しが立たない。 ・今後は中小企業の業績が更に悪くなるため、新築物件に対する消費者の買い控えの動きも顕著になってくる。 ・底ばいの状態で、折込広告も自動車や不動産といった定番業種が減ったままであり、上向く気配がない。 ・現状は広告出稿に対して前向きな業界が見当たらない。 ・様々な懸念材料が一段落した状態ではあるものの、顧客企業の経営者からは積極姿勢には変わらないとの声が聞かれる。 ・顧客企業の状況に回復の動きがみられない。 ・事件数の少ない状態が続いており、良くなる要素もないため、今後も厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
やや悪くなる		コピーサービス業（従業員）	・中国との関係悪化は何とか回避できたものの、今後の中国人観光客の動きや、中国からの輸入に対する影響は深刻なものとなる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・上向き気配が感じられない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・引き合いや見積り依頼などの非常に少ない状況が続く。
		食料品製造業（従業員）	・気温が徐々に下がっており、食品には良い状況になりつつあるが、中国問題などで政治不安が広がり、消費者の購買意欲が低下する。原材料の安定供給に支障をきたす可能性もあり、良くなる要素はない。
		繊維工業（団体職員）	・タオル産地として最需要期を迎えるが、綿糸価格の高騰や円高による景気の低迷もあり、見通しは非常に厳しい。
		繊維工業（総務担当）	・販売量の増加を求めるあまりに価格の低下を招き、利益が圧迫されているなど、今後の見通しは厳しい。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・円高の影響を受ける取引先もあり、値下げの依頼が増えているため、今後はやや悪くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・米国からの自動車部品の調達が日本から欧州へ変わってきているなど、先行きの見通しは厳しい。
		金属製品製造業（総務担当）	・建設関係の需要が先細っており、政府の補正予算で追加景気対策が組まなければますます厳しくなる。
		金属製品製造業（管理担当）	・中小企業向けの休業補償制度を利用しながら経費削減を進めているため、制度が終了すると経営がますます厳しくなる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・景気の雲行きが怪しいため、年末にかけて顧客の間に様子見の動きが広がる。今後は販売が伸びにくくなるほか、品切れとなっている部品もあるため、第3四半期の動きは前年並みにとどまる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・これから円高による悪影響が出てくる。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・APECの開催に伴う警備体制の強化で、警察の内部が人手不足となるため、警察の認可が必要な業種では新規設備の導入が停滞する。
その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・原料の綿糸価格が9月後半から一段と上昇し、特に中国メーカーの出荷額が大幅に上がっているため、先行きは非常に不透明である。工場が綿糸を手当てできずに納期遅れが頻発しているほか、日中関係の悪化で通関も遅れている。また、通常は円高の進行で輸入価格が下がるものの、多くの企業が円安時に為替予約を行っているため、メリットを受けられていない。		
悪くなる	繊維工業（総務担当）	・今年前半は繊維製品が全体的に低調であったため、年後半には持ち直すと期待感が強かったが、猛暑により秋冬物の商品展開にも悪影響が出てくる。	
	化学工業（管理担当）	・米国景気の回復が遅れるほか、エコカー補助金の廃止、急速な円高、株安や原料相場高により、販売数量が大きく減少する。	
	金属製品製造業（営業担当）	・円高による空洞化や輸入品の増加により、中小製造業はますます苦境に追い込まれていく。	
	一般機械器具製造業（設計担当）	・対中関係の悪化といった不安要素も多く、株安が進むほか、経済政策にも期待できないため見通しは厳しい。	
	不動産業（営業担当）	・当地域からテナントの流出が続いている。ある大手企業が不採算事業から撤退することもあり、地元の下請企業にも撤退の動きが出始めている。	
	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・良くなる要因が見当たらない。	
	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・円高や、株安などの要因により、今後も悪い状態が続く。	
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・今月は郵便で年末繁忙期の臨時求人が大量に出たほか、11月には管内主要駅前に家電量販店がオープンするため、出店テナントからの大口求人がきている。ただし、新規求人数は前年比15%増と堅調に推移しているものの、一般求人が20%減で、パート求人が61%増と、依然としてパートが中心となっている。本格的な回復にはまだまだ時間が掛かる。
	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒雇用に関しては政府の具体的な支援策が発表されたため、やや良くなる。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・これまで製造業の派遣求人は順調に回復してきたが、やや落ち着いてきた感がある。事務職の派遣求人についても、底は打ったものの動きはまだ鈍く、当面は大きく改善しない。
		人材派遣会社（経営者）	・最近の円高により、企業は求人に関してかなり慎重な姿勢となりつつある。ただし、必要な人材を正社員で採用する企業も多いなど、底堅い動きはみられる。
		人材派遣会社（支店長）	・年末商戦に向けて企業からの派遣依頼は増えるが、全体的な受注は減少が予想されるなど、状況の好転する材料が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・新卒の求人倍率が前年よりも悪く、事業主が求人を再び控えている感があるものの、新たな支援制度の導入による影響も出てくる。
		職業安定所（職員）	・事業所からは、今は仕事があるものの、エコカー補助金やエコポイント制度の終了、円高などで先行きが非常に不安といった声が多い。今後は、最近続いていた求人の増加傾向に水が差さされる。
		職業安定所（職員）	・パート求人が依然として多く、フルタイム勤務でも時給制となっているケースがあるなど、景気の本格回復にはまだ時間が掛かる。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・為替水準をはじめとする経済環境の改善が進んでいないため、企業の採用動向は上向かない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・具体的な好材料が見当たらない。
		民間職業紹介機関（支社長）	・円高による製造業への悪影響が懸念されるなど、求人数が今後も順調に増えるには明るい材料が少ない。実際の商談でも、国内での採用よりも海外での人材調達に関する話題が増えている。
		やや悪くなる	
人材派遣会社（支店長）	・銀行の貸し渋りが始まっているとの声が聞かれるため、中小企業の経営に影響が出てくる。		
新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・政府からは具体的な雇用対策が何も打ち出されていないほか、中国問題も今後の経済動向に大きな影を落とす。		
新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・年末や期末に向け、企業は業績確保や会社の存続をかけて人事の効率化を進めるため、求人広告の動きは悪くなる。		
新聞社〔求人広告〕（担当者）	・まだまだ回復の兆しがみられず、先行きは更に悪くなる。特に、関西の地場産業からの動きがない。		
職業安定所（職員）	・エコカー補助金終了前の駆け込み需要により、販売が大幅に伸びたものの、その反動で国内販売に大きな影響が出る。尖閣諸島問題で中国との関係が悪化しているが、関係修復までの期間が長引けば、経済や雇用情勢にも大きな影響が出る。		
悪くなる	-	-	

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔紙類〕（経営者）	・観光客の購入単価の上昇もあるが、週末だけでなく平日もゆとりのある客層が対象になっているため、来客数も増加している。
		衣料品専門店（店長）	・秋物の動きが活発なことに加え、天気予報ではこの冬は寒さが厳しいとの見込みであるため、スーツやコート等の動きに期待が持てる。
		家電量販店（店長）	・来客数からみる景気の状態は決して良いとは言えない。ただ一時的な動きという見方も強いものの、今月は市内での新規店舗の開店により、市場には多少動きが出てきている。またエコポイント制度が残り半年となり、当業界においては駆け込み需要により、年末へ向けて多少の追い風となっている。
		乗用車販売店（業務担当）	・エコカー購入補助金の打ち切りで落ち込んだ市場が、次第に回復することが見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー購入補助金終了の影響はかなりあるが、新型ハイブリッドカーや、その他のラインナップも控えているので、持ち直す可能性もある。
		通信会社（総務担当）	・景気低迷のなか販売数が徐々にではあるが伸びてきている。
		通信会社（広報担当）	・今後、他社のスマートフォンに対抗し、スマートフォン市場シェアの拡大を目指すため、商品及びサービスを客に提供していく予定である。また高速の次世代通信サービスであるLTEも東京、名古屋、大阪からスタートしてくるから、客への露出も徐々に増えてくる。
		テーマパーク（業務担当）	・ウィンターイルミネーションなど冬季大型イベント開催による来園者数の増加を見込んでいる。
		テーマパーク（広報担当）	・気候が安定するにつれて客足は戻ってきているため、冬のイベントのPRに力を入れて落込みを回復させる。
		競艇場（職員）	・12月中旬から開催される全国発売のレースと年末レースで集客が見込める。
		その他サービス〔介護サービス〕（管理担当）	・業界的には需要は多くあるため、好調不調は社内戦略の問題である。
		設計事務所（経営者）	・リフォームや省エネに対する国の優遇施策が増えていることに対して民間が動くことに期待が持てる。
		商店街（代表者）	・周りの経営者も客も以前よりあまり楽しい話をしなくなってきており、販売がうまくいっていない様子が言葉尻から推察できる。
		商店街（理事）	・いまだデフレから脱却できていないなかで、円高等悪い条件が整った上に、不安ばかりを強調する報道もあり、消費者心理もそれに追従している。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・一般客向けの紳士婦人靴を取り扱っているが、「一般客は品物を選び、予算を減らし、足数も減らす」という厳しい状況が継続している。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・下旬から秋らしい天候になり、秋の葉物野菜類、果物類が出回ってきており、客の食欲も少しは増してくることが期待できる。
		百貨店（営業担当）	・現在の状況から今後に期待することは難しいが、今後一気に寒くなると売行きも変わる可能性がある。
		百貨店（販売促進担当）	・中国との関係が微妙にファッション商品の品ぞろえに影響を及ぼしている。カシミアを中心に中国製品は現状でも1か月以上の納期遅れとなっており、今後秋冬の主力であるセーター、コート、マフラー等の店頭展開にマイナス材料となっている。
		百貨店（購買担当）	・今年の冬は厳しいと言われており、アパレル業界も重衣料を始め前年同様の売上に期待が持てるが、気温変動などの環境問題も踏まえて景気のことを考えていかなければならない状況である。
		百貨店（電算担当）	・前年対比マイナス5%の売上となっており、残暑が厳しく秋物が動かず、衣料品に関しては寒くならないと数字が上がらない。客は必要な物しか買わず、財布のひもが固いため、購買意欲を高める明るい材料やそれを牽引する商品が必要である。
		百貨店（販売担当）	・今後景気全体として良くなる材料が見当たらないが、逆に悪くなる材料もない。ただ本格的に冬物商品が売れなければならない時期に今のような高気温では、衣料品を中心に売行きは厳しくなる。
		百貨店（営業企画担当）	・気候変動による影響が大きく、後は変動も予期するなかで計画立案も必要になってきている。
		スーパー（店長）	・客単価及び購入点数は前年割れしている状況が半年以上続いている。来客数もすぐに改善されることはなく、この状況が継続する。
スーパー（店長）	・円高や野菜高騰の傾向は、年内には変わらない様子であり、食品に対する客の節約の意識が強くなる。		
スーパー（店長）	・消費の伸び悩みにより、客単価が伸びない。		
スーパー（経理担当）	・来客数の改善がなかなかみられない。		
スーパー（開発担当）	・温かメニュー関連の食材が動き出しており、寒い冬になりそうなので前年の売上はクリアしそうである。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（管理担当）	・8月は猛暑の影響もあり、売上は前年比でほぼ100%、9月も現時点で売上は前年比で105%と伸びている。菓子部門、雑貨部門でやや遅れを取っているが、全体では来客数、客単価とも比例して伸びており、この伸びを維持する形で年内は推移する。
		スーパー（営業システム担当）	・猛暑の影響で、鮮魚関係にも影響が出ている。価格の問題もあるが、品質が低下すると購買意欲も落ちるため、売上の増加は見込めない。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・紳士物、婦人物、子供用と全体的に単価が下がっており、客は意外と安いと感じられる商品に関心があるため、高単価が多い冬には厳しい状況である。また夏のボーナスがカットされたとの声を聞くので、冬も購入に慎重な客が増える。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・円高や中国との関係悪化という厳しい状況のなかで、企業の見通しが悪くなり景気への悪影響が出てくると、当社の販売にも影響が出てくる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・残暑が長引いたせいか、秋冬衣料の販売期間が短くなり、バーゲンセールの前倒しが予想され、引き続き販売単価の低下が起こる。
		家電量販店（店長）	・エコポイント制度の延長でこの12月までの特需は見込めなくなった。売れたとしても需要の先取であるため状況は厳しい。
		家電量販店（店長）	・省エネ家電エコポイント制度が3月までの延長が決まり、対象商品特に地デジ対応薄型テレビについては12月をピークに需要増が見込まれるが、単価が30%ほど下落してきており、今後も海外メーカー参入等によりメーカー間の価格競争も激化すると予想されることから、この傾向はしばらく続く。
		乗用車販売店（サービス担当）	・終了したエコカー購入補助金の効果が大変大きかったため、このままでは売上がより悪くなる。
		乗用車販売店（副店長）	・10月以降各メーカーは新型車を発売したり、キャンペーンを行ったりと対策を考えており、その効果が期待されるが、エコカー購入補助金の駆け込み需要ほど盛り上がりがない。
		自動車備品販売店（経営企画担当）	・新車販売の効果を冬用タイヤの購入で捉えたいが、反応は少なく、実需を待つしかない。来客数も前年割れが続いており好転は望み難い。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・当地の人口減少や更なる大型店の出店を考えると、既存店の売上は増加とはならないため、現状ではコンパクトな経営にしていけない。
		一般レストラン（経営者）	・円高による輸出産業の低迷が懸念され、来客数の更なる減少が懸念される。
		スナック（経営者）	・中小企業が好転する兆しがみえてこないという客の会話をよく耳にする。
		都市型ホテル（従業員）	・9月以降の宴会予約状況は前年並みであり、レストランも横ばいの見込みである。
		タクシー運転手	・夜の客が減少した状況が続き、良くはならない。
		タクシー運転手	・身の周りでは設備投資の話も聞くが、当社においては1人当たりの売上高は対前年比でプラス10%、総売上は前年並みが継続する。
		通信会社（社員）	・新規の問い合わせに変動はない。
		通信会社（通信事業担当）	・来年の地上デジタル放送化に伴うテレビサービス関連の問い合わせは増えているが、通信サービス関連の話にまではなかなか結び付かない。
		通信会社（営業担当）	・ケーブルテレビ多チャンネルサービスやインターネットの新規契約数は一時に比べ安定してきているものの、解約数が引続き計画を大きく上回って推移しているため、全体の状況は変わらない。
		ゴルフ場（営業担当）	・気候が平年並みに戻れば客の動きは良くなるものの、売上は前年と比べると悪い。
		設計事務所（経営者）	・客の収入に伸びがなく、消費行動が慎重である。
		住宅販売会社（従業員）	・しばらく低価格が維持されていた原材料にも、価格維持の限界による値上げが徐々にみえ始め、利益の圧迫が出てくる。
		住宅販売会社（販売担当）	・相変わらず展示場イベントへの来場者が少なく、今後景気が良くなる要素が見当たらない。
		住宅販売会社（経理担当）	・土地価格が下がっており、景気の低迷感が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	一般小売店〔酒店〕 (経営者)	・たばこの特需で2～3か月先までたばこの売上は期待できず、なかなか元に戻らない。
		一般小売店〔印章〕 (営業担当)	・駅周辺は大手スーパーの閉店に伴い、人出が減少している。オーバーストアーに加え駅周辺の集客力の激減で状況は厳しくなる。
		百貨店(売場担当)	・9月秋物の出足が悪いことで取引先の追加発注がかからず、商品在庫確保が難しい状況になる。ヒット商品がなく、高額品も厳しいことから、価格訴求に巻き込まれる状況がまだまだ続く。
		百貨店(売場担当)	・景気の回復も必要だが、それ以上に地域としての地盤沈下や思うような品ぞろえができない地方百貨店の苦しみは継続する。
		スーパー(店長)	・来客数が伸び悩むなか、販売価格の低下傾向は強くなっており、今後売上はもとより収益面でも更なる苦戦が続く。
		スーパー(販売担当)	・子ども手当も売上にはつながらず、先行きに明るい話題がない。
		コンビニ(エリア担当)	・最近納入単価の引下げを求められることが多いが、売上数量は増加していない。クリスマス商戦もかなり値下げをしており、売上数量に伸びがなければ状況は厳しい。
		コンビニ(エリア担当)	・喫煙者は今後たばこの値上がり額程度他の商品の購入を控える。
		コンビニ(営業担当)	・たばこ増税により来客数が減少する。
		その他専門店〔布地〕 (経営者)	・天候の影響で季節的な商品が売れないこともあるが、円高等政治状況に明るい材料がない。
		その他専門店〔書籍〕 (経営者)	・資金繰りが悪化してきている。
		高級レストラン(スタッフ)	・今後の予約状況では、個人は順調に推移しているが、企業が非常に少なくなっている。
		その他飲食〔サービス エリア内レストラン〕 (支配人)	・経済に対して明るい情報がなく、飲食の値下げが続くとともに、買い控えもますます進む。
		観光型ホテル(支配人)	・11月以降の入込みが悪い。今月より忘年会営業、おせち料理営業をスタートしたものの出足が鈍いため、急遽11月にディナーショーを企画したが、前年割れは必至の状況である。
		都市型ホテル(総支配人)	・プライダルマーケット全体が前年に比べ縮小しており、前年に比べて売上が悪化する。
		都市型ホテル(スタッフ)	・円高で海外からの来客数が減少する。
		通信会社(企画担当)	・年末に向けて上向きになる好材料はなく、漸減傾向がそのまま続く。
		美容室(経営者)	・景気の影響が政治の影響かは分からないが、客が金を使うことにちゅうちょしており、購買意欲が低下している。
		美容室(経営者)	・2～3か月後に景気が良くなるような話が聞かれず、当面悪化する状況が続く。
			悪くなる
商店街(代表者)	・円高、若者の就職難、政治の動揺、諸外国との関係悪化等により、客は将来に対する不安を抱き、購入意欲が低下している。特に衣類に対しては食料品等に比べ優先度が低く、生活防衛的となっており、客の財布のひもが非常に固い。		
商店街(代表者)	・涼しくなっても来客数が伸びていない。		
商店街(代表者)	・円高、中国との関係の悪化等、先行きに対して全く明るい材料がないことから、当面消費者の財布のひもは固い状況が続く。		
スーパー(財務担当)	・株価の低迷及び円高等により、景気回復の兆しがみえず、低価格志向、節約志向は今後も続く。		
衣料品専門店(経営者)	・商店街の同業者の閉店が続いているが、その客が当店に流れてこない。		
乗用車販売店(統括)	・エコカー購入補助金による前倒し販売のため、10～3月の販売量は大変厳しい状況となる。		
乗用車販売店(店長)	・エコカー購入補助金打ち切り後は、客足もピタリと止まり、月の後半の販売は低迷したため、年内は今までの反動で売上も期待できそうにない。		
一般レストラン(店長)	・同業他社の宴会コースの減額が目立つ。当店もそこまでしないと集客に苦労するのは同じだが、とても厳しい状況がますます続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（支配人）	・第3四半期は1年で一番の繁忙期だが、一般宴会の伸びが悪く、忘年会も価格が低迷し、人数でカバーしなければならない。しかしその人数も現状では小ぶりであり、苦戦を強いられている。婚礼に至っても小規模のものが増えており、付帯収入も思ったほど伸びず、同様に苦戦している。宿泊が伸びなければレストランの需要もけん引できず、大変に苦戦を強いられそうな状況である。
		旅行代理店（経営者）	・中国問題、円高問題等企業が問題を多く抱えており、旅行どころではない。
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・今後2～3か月は自動車関連の受注は計画どおり順調に推移する。
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・7月に続き8月は「イカ釣り船」が好調で浜も活気付いた。「青物」も順調でありこれからに期待している。
		食料品製造業（総務担当）	・今後も販売数量は予定より増加することが見込まれる。売上は順調だが、人手不足の状況で過重労働にはならないが、残業や休日出勤での対応となっており、この状況がどのくらい続くか心配である。
		建設業（総務担当）	・起工式が頻繁にあり、現場担当者の稼働率が上昇する状況が出てきた反面、建築資材等の値上がりが予想され、利益率については低下する恐れがある。
		輸送業（統括）	・当面海外輸出が続く計画であるのでやや良くなる。
		会計事務所（職員）	・製造業ではわずかではあるが見積の依頼が増えてきている。今後も昨年度以上にこの傾向が続く。
	変わらない	食料品製造業（業務担当）	・しばらく低価格の流れは続く。
		木材木製品製造業（経理担当）	・円高問題や将来に対する不安感がある。
		化学工業（総務担当）	・円高の影響が懸念される。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・耐火物の新規の受注は見込まれず、当面現在の生産量が継続する見込みであり、新規の引合いもない状況である。
		鉄鋼業（総務担当）	・10月からの自動車メーカーの減産の影響や引き続き円高による輸出品への影響が懸念されるため、政府の補正予算や円高回避政策に期待する。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・全体的には特段の方向性はみられない。ただし液晶関連など分野によっては在庫調整が顕著になっているものもある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化がない。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・自社製品の売上に国内市場で回復の兆しがみえ始めてきたが、海外市場については依然として冷え込みが続く見通しであり、厳しい状態である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・業界や同業者間では様子見の感が強く、設備投資には消極的である。
		輸送業（運送担当）	・よほどの景気回復の起爆剤となるものでもなければ、当分の間地方での景気回復は見込めない。
		コピーサービス業（管理担当）	・この業界が将来良くなることは考えられず、他の市場性のある事業にウエイトをシフトして会社業績を改善していくしかない。
		やや悪くなる	金属製品製造業（総務担当）
	電気機械器具製造業（広報担当）		・受注が減少する。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）		・今月でエコカー購入補助金が終了するため、今後は国内向け自動車の生産台数が落ちる。
その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・全体から見るとやはり景気は低調であり、内需拡大を最優先にしなければ、日本全体への波及効果は望めない。		
通信業（営業企画担当）	・取引先の様子では製造業を中心として政府の景気対策により一次的な回復ができたが、一部政策の終了や円高の継続により、今年度中に設備投資を実施、来年度は抑制の動きが出ている。		
通信業（営業担当）	・恒常的な円高傾向にあり、海外依存企業含め国内生産の空洞化が解消されない、また中国との摩擦も懸念されるなど輸出産業への影響から国内景気も向上しない。雇用についても改善の兆しが全くみえず、結果的に消費も回復してこない。		
金融業（業界情報担当）	・中国など新興国向けは好調持続するが、急速な円高により欧米向けは採算悪化が懸念されるとともに、国内販売も減少確実で、回復基調に頭打ち感が出ている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	金融業（営業担当）	・中小企業の多くは売上減少が続くながギリギリの経営を行っている。小売、サービス業界の経営者の口からは、企業存続のため何かをしなければならぬが、マクロ的に先行き不透明ななか、人の移動はあるがなかなかお金を使わないとの意見が聞かれる。個人消費の回復について、明るい展望を語る経営者もなく、むしろ更なる景気の2番底を懸念する経営者も多いことから、景気は今後やや悪くなる方向へ進む。
		化学工業（経営者）	・減税効果による増収の反動に加え、円高の影響や対中国問題等も加わり、ある程度の業況悪化は予想されるものの、影響度合いを予想し難く、主要取引先の動向を静観せざるを得ない状態である。
		鉄鋼業（総務担当）	・下期以降の不透明感を受け、国内の需要が足元より改善に向かうことはない。自動車関連は補助金の打ち切りの反動があり、生産や操業が今より落ちる。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注が増えていない。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		人材派遣会社（支店長）	・自動車業界や鉄鋼関連で若干上向き傾向にある。
	変わらない	学校〔短期大学〕（学生支援担当）	・政府の経済政策の実施で雇用の拡大が見込める。ただし新卒者に対する補助制度が中小企業に浸透すれば雇用の促進につながるが、本学においてはその効果は現れていない。
		人材派遣会社（営業担当）	・ここ数か月の求人数の動きと、下期に向けての採用の動きがほとんど変わらない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・現時点では短期的な派遣需要はおう盛であるが、先行き需要が継続するか否かは非常に不透明であるため、景気が良くなるとの判断は難しい。人材派遣業界に関しては、労働者派遣法改正の動向によっても景気が左右されるため、その成行きを注視している。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・求人媒体を取り扱う業者などは、企業側の採用意欲は徐々に高まってきているため追い風になっているようであるが、企業側も若干名の採用では、インターネットなどによる有料の広告媒体を使うことさえしない企業も多い。今のご時勢であれば、ホームページや学校対応などで学生の応募はそれなりに集まるため、その中から採用できれば良いという考えがあるほか、採用できなければいけないというスタンスの企業も数多くある。
		職業安定所（職員）	・卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業などでは政策効果や猛暑の影響から一部持ち直しの動きもみられるが、先行きに対する不安感が根強いことから、臨時、パート求人が増加している。
		職業安定所（職員）	・円高が長期にわたって継続しており、今後輸出関連企業の生産調整や雇用調整が心配されていることや、中国関連の企業などの売上の落ち込みが心配されている。製造業、サービス業、販売業、旅館業などからの求人募集の落ち込みが心配である。
	悪くなる	職業安定所（職員）	・新規求人数は製造業や医療福祉を中心に全体的に回復傾向にある。ただし当所管内には輸出関係の製造業が多く、昨今の急激な円高による影響が懸念され、楽観視できない状況にある。
		人材派遣会社（支社長）	・円高やエコカー購入補助金の終了等、景気が回復する見込みが立っていない。また人材ビジネスを取り巻く環境も専門26業務適正化や秋の臨時国会での派遣法改正の動きがあり、厳しい状況が続いている。
求人情報誌製作会社（支社長）		・円高傾向がまだ続き、中国との関係にも不安要因があるため求人状況も良くならない。	
		民間職業紹介機関（職員）	・自動車関連が冷え込むと業界関係者は懸念しており、回復傾向にあった業界内で早くも、固定費削減へ向けた支出の圧縮を行う企業も出てきており、新規採用を見合わせるなど将来を予測した動きに再び舵を切り直している。

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計	良くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
動向 関連	やや良くなる	コンビニ（店長）	・コンビニ業界は、タバコ特需により需要の先食いをしてい る。品質が良ければ、少し高い物でも売れている。	
		衣料品専門店（経営 者）	・気温の低下により、売れる商品が変わってきている。ま た、客は、今までより早く購入決意している。	
		衣料品専門店（総務担 当）	・10月以降は気温の低下が予想されており、秋冬物衣料の売 上回復が見込める。しかし、依然として買上数量が伸びず、 節約志向も続いているため楽観はできない。	
		家電量販店（店長）	・12月末までに、エコポイント対象商品やテレビが牽引とな り、家電製品はかなり伸びる。	
		観光型旅館（経営者）	・10～11月の宿泊客の予約は例年より多い。長期的にはまだ 分からないが、秋口は良くなる。	
		タクシー運転手	・四国八十八箇所のお遍路さんの需要が増えてきている。	
		タクシー運転手	・11～12月は年の暮れなので忙しくなる。	
		通信会社（企画）	・地上デジタル放送化の追い風があり、景気は上昇する。	
		変わらない	商店街（代表者）	・地元消費者の財布のひもはまだまだ固い。NHK大河ドラマ の影響で相当数の観光客あったが、11月で終了のため、観光 客数が減少する懸念がある。
	商店街（代表者）		・良くなる材料が見当たらないが、悪くなる材料もない。	
	商店街（代表者）		・政府の景気に対するてこ入れなど、有効な経済対策がな い。	
	百貨店（販売促進担 当）		・客単価が下がっているため回復は望めない。	
	百貨店（売場担当）		・輸出入の多い地域は、為替で景気が左右されるが、製造業 の少ない当地は影響は少ない。相変わらず購買に元気がな く、前年割れの基調である。	
	百貨店（営業担当）		・9月から寒くなってきたので、10月以降、冬物が動き出し て以前よりは良くなってくると思う。	
	スーパー（店長）		・スーパーを取り巻く環境はさほど変わっていない。特に、 食品類は基本的に変わるものではない。	
	家電量販店（営業担 当）		・現在、テレビに販売が偏っており、他商品での台数確保が 難しくなっている。抑えるところは抑えるという購買意欲の 低下が見受けられる。	
	一般レストラン（経営 者）		・景気全般としては特に変わらないと思う。10月以降、競合 店の出店が続くため、限られた需要の中でパイの取り合いに なっている。	
	旅行代理店（支店長）		・円高が続けば旅行需要は伸びそうである。しかし、輸出産 業の景気全体に対する悪影響と、尖閣諸島問題による中国外 交のこじれが懸念され、先行きは不透明である。	
	通信会社（支店長）		・10月末の新商品販売による売上増加に期待している。しか し、県内の景気状況を見る限り、大幅な増加は見込めない。	
	通信会社（管理担当）		・社内の内部要因として好転する要素がない。	
	ゴルフ場（従業員）		・2～3か月先の予約状況、来場者・単価は、昨年より悪化 の見込みである。	
	美容室（経営者）		・景気回復の見通しが無い。節約傾向が続き、客単価も低い 状況が続くであろう。	
	やや悪くなる		商店街（代表者）	・内需はますます低下し、価格競争によるデフレスパイラル となる。生産年齢人口の大幅な減少と高齢化による負担義務 が重なる社会となってきた。
			百貨店（営業担当）	・前月に比べ、来客数が更に低下した。催事についても来客 動員がかからず、秋物ファッションおよびブランド商品の購 入意欲が低調であった。
			スーパー（店長）	・猛暑の影響で、10月以降、生鮮食品を中心に、大幅な値上 がりが見込まれている。例えば、肉類は牛・豚・鶏とも値上 がりしそうである。あまり値上がりしすぎると景気に悪影響 が懸念される。
			スーパー（店長）	・猛暑やたばこ需要というプラス要因がなくなり、厳しい状 況となるだろう。
		スーパー（企画担当）	・気候的な要因が大きいと、好況がこれからも続くとは考 えづらい。元に戻ると、現在より悪くなる。	
スーパー（統括担当）		・8月は、猛暑の影響で景気が良かったが、9月以降はやや 悪くなっていく。		
コンビニ（総務）		・9月はたばこ値上げ前の特需があったため客単価が増加し た。そのため、単月では前年大幅増になる見込みである。し かし、10月以降、たばこの売上減少とともに、来客数減少、 客単価減少が予想される。		
衣料品専門店（副店 長）		・2～3か月先はセール時期になるが、売上高の伸びは期待 できない。ただ、通常よりお金を出す客は多くなっている。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・新機種に切り替わる時期を迎えるため、必然的に価格が上がる。このため、購入を見送る事態が予想される。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度が終わり、今後、自動車業界は悪い状態がしばらく続くであろう。9月から中古車の動きが活発になっているため、メンテナンス部門と中古車部門へ力を入れ、苦境を乗り切れればと思っている。
		都市型ホテル（経営者）	・低価格への志向が強まるなかで、来客数も減少している。また、先行きの予約状況を見ても景気はやや悪くなると考える。
		観光名所（職員）	・急激な円高により、外国人観光客が少しずつ減少している。
		設計事務所（職員）	・公共事業の増加は今後も期待できず、会社および従業員の家計は極めて厳しくなる。地方の時代と言われて久しいが、実現するまで、地方の企業や住民の体力がもたない。
		住宅販売会社（従業員）	・民間企業の多くは上半期の業績が悪い。下期も明るい様子は見受けられない。
	悪くなる	一般小売店〔乾物〕（店員）	・円高、中国問題など、景気が良くなる気配が全くない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・酒類小売業界は、規制緩和により間口が広がり過ぎて良いことがない。本当に厳しい状態が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	・円高による企業の業績悪化など、先行き不安による買い控えが現れてきている。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度で相当な台数の先取りをした分、後から何も取る物が無いという結果になる。
		乗用車販売店（従業員）	・エコカー購入補助金制度により受注の前取りをしているため、今後、新車受注の大幅な減少が続くと思う。ガソリンに関する税金も高水準のままとなっている。
		乗用車販売店（営業担当）	・今後はどのように販売に結び付けていくか、販売会社の力が試される。
		乗用車販売店（役員）	・エコカー購入補助金制度の締め切りで、現在、車の受注が相当減少している。
		住関連専門店（経営者）	・有効な景気対策が出てこないため、将来に不安を感じる。
企業動向関連	良くなる	繊維工業（経営者）	・今夏は天候が暑かったため、夏物商品の販売が順調であった。秋以降も、魅力ある商品が提案できているため順調に推移する。
		不動産業（経営者）	・今年の夏は、猛暑のため、広告を出しても全然反応がなかった。最近では、この猛暑も終わりかけているため、少し良くなると感じている。
	やや良くなる	広告代理店（経営者）	・印刷業ではなく情報産業としてみた場合、仕事量は大きく変化しないだろう。しかし、業態の変革についてこれられない企業が淘汰されることは間違いない。
		農林水産業（総務担当）	・消費の増加が見込めない。
	変わらない	木材木製品製造業（経営者）	・建築業界は総じてあまり良くないが、特に悪いのがマンションとアパートである。一方、1戸建て分譲、プレハブが顕著に動いている。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外・国内ともに、受注量・単価は良くなっていない。
		建設業（経営者）	・公共事業の今後の発注予定をみても期待できない。
		通信業（部長）	・新規投資への契機となる政府の施策がなければ、企業体力の温存傾向は続く。ただ、先行きへの不透明感が大きくなれば少々の減税策にも反応は鈍いものとなろう。新規商品の提案にも効果の見極めが一層厳しく、慎重な姿勢が続く。
		広告代理店（経営者）	・エコカー購入補助金制度が終わり、唯一増加傾向であった車関係企業の広告は今後は厳しくなる。その他の企業広告は、依然として消費低迷のため広告費削減状態が続いている。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・販売量減少と販売価格下落という傾向が今後も続く。
鉄鋼業（総務・人事統括）		・原料価格が上昇傾向であり、仕入ルートの確保にも困難の度合いが増している。仕入価格の更なる上昇が予想される。	
電気機械器具製造業（経営者）		・円高の影響か、大きな設備計画の引き延ばしがある。	
電気機械器具製造業（経営者）		・急激な円高により、採算性が悪化してくる。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・最近、政府主導の経済対策が少なくなり、対応が後手後手になっている。周りでも景気が上向きになると言う声が聞こえてこない。
		公認会計士	・経営者の方々と話をすると、1つは円高に対する将来の不安が非常に大きい。また、倒産予備軍が増えてきているという状況を心配している。さらに、土地の価格が下落してきているということでマインドが非常に悪化している。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・当地区の地価は引き続き下落傾向であり、回復のめどが付かない。不動産への投資意欲も更に減退する。
		輸送業（支店長）	・同業他社の廃業、並びに同業他社との競争激化が見受けられる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・昨年と比べ、求人数が増えてきている。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が、先月より0.01ポイント上回った。
		職業安定所（職員）	・全業種に人材獲得に向けた動きが出始めた。
	変わらない	人材派遣会社（営業部長）	・労働者派遣法改正の動向によって、人材市場動向は左右される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の中途採用ニーズは回復傾向にある。新卒採用ニーズは前年に比べ、少し抑制気味である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県主導の大きなイベントが控えており、県外からの客が増えそうである。しかし、所詮、それは一過性のものである。県内の経済を押し上げるには、製造業に頑張ってもらわなければならないが、現在それは期待できない。
		民間職業紹介機関（所長）	・年末に向けて生産が追いつかない企業、ニッチ産業で頑張っている企業、次年度は従業員の増加を予定している企業もある。一方、資金調達を心配している企業も多い。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・円高の影響は、少しずつ企業の余力を奪っている。また、日中間の不安定な情勢が、輸出業者へ与える影響は少なくなる。従って、国内の雇用・経済的な影響は甚大なものとなりうる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数は減少していくものの、求職者数はさほど減少していない。また、内定者数はさほど伸びていない。
悪くなる	-	-	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	観光旅館組合（職員）	・乗客数が一番ピークとなる時期であり、例年通り良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・これから年末にかけ、例年通り商品が動く。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・店頭販売は横ばいであるが、通販が堅調に伸びる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・2、3か月後に予約が入っているわけではないが、例年、生花店は夏場は売上が落ち、冬、春に良くなる。2、3か月後は例年通り良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・季節が変わり、秋冬商材の動きが良くなる。
		衣料品専門店（総務担当）	・リーマンショックから2年が経ち、客の買い控え傾向に歯止めがかかる。酷暑が終わり、客の購買意欲も上がる。
		家電量販店（総務担当）	・来年以降、エコポイント対象商品が限定されるため、この年末商戦は駆け込み需要が大いに期待できる。
		自動車備品販売店（従業員）	・商品の地上デジタル放送への対応が進んでおり、地上デジタルチューナーやナビの買換え需要が高まる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・今月下旬には秋が近づき、若干の乗客数の増加が見受けられた。それに伴い新規客の増加傾向がみられ、今後に期待できる。年末にかけては例年コーヒーの動きが良くなるため、売上の増加が見込める。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・猛暑で売上が低迷した反動により、多少上向く。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・大型店舗の入替えがあるため、集客の増加が期待される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光ホテル（総務担当）	・シティホテルという業種で7～9月は厳しく、10～12月で売上を伸ばす傾向にある。予約状況をみても10～12月はプラスになる。
		タクシー運転手	・今年は来県する客が少なかったため、これからに期待できる。夜の街がにぎわえばタクシー利用も増える。
		ゴルフ場（従業員）	・11、12月と年末に向けて様々なプランを企画している。それに対する幹事担当の反応が良くなっており、営業を行うことによってコンペの集客ができています。少しずつ良い方向に向かっている。またプレー代については若干値引きする必要があり、単価を少し下げれば集客できるような状況となり、これから良くなる。
		ゴルフ場（支配人）	・天候は平年並みでやや高めの気温が予想されており、秋のスポーツ、行楽シーズンを向かえ、少なくとも例年並みの来客が見込まれる。
		美容室（経営者）	・3か月後の12月は1年の中で最も忙しい月であり、今年も同様に忙しくなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・デフレ傾向のなか、単価はますます落ち、客はもっと安くなるかもしれないという期待をもち、なかなか購入につながらない。収入も増えないため、我慢の一手という感じを受ける。これから厳しくなる可能性がある。
	変わらない	商店街（代表者）	・客の財布のひもが固く、スーパーの営業時間も延長され、スーパーの安売り、タイムサービスの商品を求める客が多く見受けられる。商店街に客が来ないのが現状である。
	変わらない	商店街（代表者）	・残暑が落ち着き、秋物衣料の動きが期待される。
	変わらない	商店街（代表者）	・地元の復興のために、プレミアム付き商品券の発行や現金券の発売等のサービスを行っているが、徐々にその効果が現れ、年末商戦は活気づく。口蹄疫が終息し、畜産関係にも競争がスタートする等、良い方向に向かっている。商業や観光の振興に明るい兆しがみられる。
	変わらない	一般小売店〔青果〕（店長）	・口蹄疫の終息宣言が出されたが、その後も沈滞ムードは変わらない。ホテルやその他関連企業について業況がなかなか元に戻らないとの報道もなされている。客の購買意欲に直接つながるようなプラス材料がないので、2、3か月後もこの厳しい状況が続く。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・地元のプロ野球の球団が優勝するという明るいニュースがあり、優勝セールがにぎわったが、消費全体を底上げするまでの効果はない。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・クレジットカード利用客のポイントを商品券で発行するキャンペーンは連日好調で、来客数、交換金額共に予想を上回る結果となっている。お得なキャンペーンや催事への客の敏感な反応が顕著に現れており、今後も同様の傾向が続く。現金を保有し、次月の友の会金券発行待ちの姿勢がみられる。今後も客の購買姿勢は変わらない。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・来客数が増加し、客単価が安定しているのに対し、来客者の買上率が低迷している。消費者の購買意欲の冷え込みは、株価低迷や円高等によりしばらく継続する。
	変わらない	百貨店（売場担当）	・最近の来客数の推移をみると、前年比97～101%の間を行ったり来たりという状況で大きな変化はない。催事等の仕掛けの有無で来客数は増えたり減ったりする。紳士衣料品の動きが良くなっており、前年並みで推移している。重量衣料が比較的良く動いており、49,800円、59,800円の価格帯のスーツが売れている状況が全体を下支えしている。婦人衣料は単価が高い商品が売れておらず、1品単価の低下傾向が続いている。食品については安定している。全体的にこの傾向はこれからも変わらない。
	変わらない	百貨店（営業企画担当）	・景気低迷や給与の減少、雇用問題により客の購買意欲が向上しない。価格を意識した大きな流れが続き、安心、安全、上質といった提案型の百貨店では大きな変化はなく、苦しい戦いが続く。
	変わらない	百貨店（業務担当）	・秋物の立ち上がりが遅くなってきたため、実売期が短くなっていく。短期間に集中すれば良いが、遅れた分を取り戻すことは容易ではない。
	変わらない	スーパー（経営者）	・全体的に物の不作や中国との問題等で消費を拡大するような要素が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・食品はこれまでの流れと変わらず前年比110%で推移しているが、衣料品は天候に左右され、寒くなれば衣料品の売上も良くなる。たばこの増税に伴い、食品の売上の減少が懸念される。
		スーパー（店長）	・急激に進んでいる円高の影響がこの秋にも出てくる恐れがある。秋以降、たばこの増税が客の心理的な負担となり、財布のひもが固くなる。景気が良くなる状況ではない。
		スーパー（店長）	・消費者の先行き不安感はこの先も続き、厳しい状態がしばらく続く。
		スーパー（総務担当）	・低価格の商品を購入する傾向が続き、目立ったヒット商品も期待できず、売上の伸びにつながる要素があまりない。
		スーパー（経理担当）	・少なくとも今のレベルは維持するが、企業側は淘汰が進み、新規出店が目白押しで競合が激しくなる。
		スーパー（売場担当）	・以前から景気が良くなると言われ続けているが、客の様子に変化を感じないため、今後も現状のままである。
		スーパー（業務担当）	・生鮮食料品を中心に天候不順で生産期にズレが生じている。これは今後もしばらく続くので、価格と供給量が安定せず、消費自体に変化は起こらない。消費者の感覚的な問題でもあるが、日常生活における不安は減らず、景気自体にも好影響がない環境のまま推移する。
		衣料品専門店（店員）	・異常気象は衣料品販売に大きく響く。客は節約志向であるため、季節の変化が順当でないと、購入をためらいがちになってしまう。今年の冬もあまり期待はできそうにない。
		衣料品専門店（取締役）	・3か月後は完全に冬になっているため、厚物衣料が動く。しかし、12月はセール時期に入るので大きな利幅が取れないまま商品売ることになる。円高や良い材料が何もないような報道もあり、今の状況を維持するのが精一杯である。
		乗用車販売店（販売担当）	・この6か月間はエコカー購入補助金制度が追い風となっており、販売量は前年比でかなり伸長したが、9月でエコカー購入補助金制度が打ち切りとなり、今後3か月先の販売量は、これまでのような需要量は見込めず、例年通りの販売量になる。
		乗用車販売店（管理担当）	・エコカー購入補助金制度終了により、今後、新車販売は厳しい状態が続くが、年明けからは少しずつ上向くと予想する。むしろ、中古車販売には追い風となる。新車一辺倒であった客の目が中古車のほうへ向く。
		乗用車販売店（総務担当）	・エコカー購入補助金制度が終了した現在と同様に2、3か月先も客の新車購買意欲は回復しない。年末の新型車発表までは中古車と整備等の受注を増やさなければならない。ただし、ディーラーにとって新車販売が最大の収益源であり、その落ち込みは経営に大きく響く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・10、11月は連休があり、客の遠出による消費に期待したい。また、燃料油の小売価格も手頃な価格で推移しており、カーケア商品である高額洗車等の車に対する付加価値商品の販売を徐々に増加している。趣味等に支出する消費マインド回復がうかがえるので期待できる。
		高級レストラン（専務）	・飲食店は10～12月が書き入れ時であるが、明日どうなるか、来月どうなるか全く予想がつかない経済状態である。
		スナック（経営者）	・日々の客の様子をみても上向き様子を感じない。今後も厳しい状況が続く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・先の予約状況は前年並みで、良くならない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後も販売最優先の方針は変わらないため、単価の上昇は見込めない。
		旅行代理店（業務担当）	・状態に変化を感じられない。前年実績と比較しても大きな伸びがない。
		タクシー運転手	・客の中には給料を下げるか、退社するかを迫られている人もいる。また、どこか良いバイト口がないかと尋ねる女性客が最近増えており、厳しい状況が続く。
		タクシー運転手	・円高により、企業は国内ではなく国外に目を向けている。国内の労働者が減少すると、タクシー業界の客が減少し、この先良くなることはない。
		通信会社（業務担当）	・10月は9月同様メーカー施策等のキャンペーンがあるが、商品やサービスに目新しさがなく、価格にも魅力がないので厳しい状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・10月以降のスポーツキャンプやゴルフイベントで集客を期待したいが、特に大型団体客の引き合いは半年先あるいは1年以上先となるため、直近の大幅増は見込めない。個人客への様々な仕込みを行い、上乘せを図りたい。
		美容室（店長）	・12月は他の月より来客数が多くなるが、今の状態ではあまり期待できない。
		音楽教室 設計事務所（所長）	・生徒の在籍数は大きく変わらないと見込んでいる。 ・相変わらず案件が少ないので、やはり3か月先も良くない。
		住宅販売会社（従業員）	・金利は相変わらず低いが、収入が減少しており、土地を買おう、家を買おうという欲求が出てこない。経済政策も全くないので動きは悪い。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔住宅情報誌〕（経営者）	・需要対象者が安定収入の公務員や大企業勤務の客に限られている。
	やや悪くなる	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・現状をみる限り、大幅な売上増加は期待できない。普段売れ筋の商品も回転率が悪く、円高の影響が事務所用の注文も少ない。数か月で元の状態にはならない。
		百貨店（企画）	・株安の影響によるコアターゲット客の配当減を想定した場合、高額品の売上不振が懸念される。また、輸出中心企業が多い地域であるため、円高の影響による雇用調整等の実施により、ますます購買意欲は減少する。
		スーパー（店長）	・今年の長期天気予報では寒くなる気配であるが、それ以上に収入の減少が続く、厳しい状況である。より品質の高い物を一段と価格を下げないと購買に結びつかない。コスト削減のしわ寄せが身近に出てくる気配がある。
		スーパー（総務担当）	・所得環境の悪化に加え、雇用環境も改善されないため、個人消費の伸びは期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこの増税が影響し、来客数の減少が見込まれ、厳しい状況が続く。客の所得の増加もなく、財布のひもはこれから固くなる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・たばこ以外の商品の動きは変わらないが、たばこの増税の影響は大きく、来客数は伸び悩む。
		コンビニ（販売促進担当）	・月を追うごとに、出荷高が落ちていなかで、大手のコンビニが県内で新規出店することもあり、同業他社へ弁当、惣菜を供給している当社は、デリカの約3割の大幅な落ち込みが予想される。パイの取り合いとなり、単価は変わらないが売上はダウンしていく。
		衣料品専門店（経営者）	・厳しい客の様子に加え、生産体制が総崩れになり非常に厳しい状況が続く。
		家電量販店（店員）	・猛暑が終わりエアコンの販売動向がなくなっている。テレビは低価格化が進んでおり、単価がかなり下がっている。また、エコポイント制度は、来年は星5つのものでしか対象にならないということもあり、動きが鈍くなる。円高の影響もあり、これから悪くなっていく。
		乗用車販売店（従業員）	・収入が減少するなかでエコカー購入補助金制度が終わり、円高が進んでいる間はメーカーからの補助もなくなり、ディーラー等の中小企業は厳しくなる。
		住関連専門店（経営者）	・秋口に毎年売上は回復するが、今年はそれが感じられない。同業者も一様に先行きに不安を持っている。
		住関連専門店（店長）	・今年は残暑が長引いたので、秋が短くなることが予想される。例年のように秋商材が売れない。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・相変わらずの円高が続いており、株価は低迷したままで景気は良くならない。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・今まで売上をリードしてきたさつま揚げの販売額が落ち込んでおり、ついに足を引っ張るようになってきている。新しい売れ筋商品の開拓をしないと売上の増加は見込めない。
		高級レストラン（支配人）	・景気は平行線の状態に加え、中国との諸問題や管内閣への不安感等あまり良くなる要因が見当たらない。
		都市型ホテル（副支配人）	・先の予約の見通しは非常に悪くなっている。特に旅行代理店を通じた旅行が前年比50%近く減っている。これからも厳しい状況が続く。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行が全体的に低調である。特に中国問題の影響で交流、視察を目的とした一部の団体、企業のキャンセルや延期の動きが出ている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・とにかく財布のひもが非常に固い。給料がかなり悪くなっているという話を聞く。経費を節約しており、タクシーチケット利用の客が少なくなっている。今後もこの状況が続く。
		通信会社（総務担当）	・地上デジタル放送への対応が未完の人もおり、今後受注につなげていきたい。しかし雇用状況は依然として悪く、同時に所得も低調に推移しており、今後も当面こうした状況が続く。また依然として円高推移で、景気はやや悪くなっていく。
		美容室（経営者）	・これから2、3か月先の年末に向かって例年、一番の需要期になるが、エコカー購入補助金制度も終わり、様々な景気対策が終わっている。野菜や物価の高騰もあり、今一つ世間の景気回復の気運が盛り上がっていない。美容業界もそれに横並びで景気は下がっていく傾向にある。
		理容室（経営者）	・最近、低料金の美容室が増え、そこへ男性客が流れていっているため、来客数が減っている。売上、業績の悪化に大きく影響をしている。一般の床屋も低料金に変えつつある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・在宅サービスという業種柄、秋から冬にかけて外出サービスの減少やサービスのキャンセルが増加し、来客数が伸びないことが懸念される。
	悪くなる	衣料品専門店（店長）	・秋物商戦は不発に終わったが、冬物投入にはまだ早い。売物不足で景気は悪くなる。
		衣料品専門店（店長）	・今年は展示会での売上が不調で、年間売上も前年を下回りそうである。景気の悪さは売上が示している。
		高級レストラン（経営者）	・ここ最近の様子をみる限り、忘年会前で客の動きが少ない。ふぐなど食材には恵まれている月ではあるが、10月は毎年苦戦しているのでかなり苦しい。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・32年間、店をやっているが、残念ながらここで決断の時がきているほど、厳しい状況が続いている。自身も高齢になったので、最後の思案の時である。
	企業動向関連	良くなる やや良くなる	-
出版・印刷・同関連産業（営業担当）			・官公庁など下期予算対応案件が控えており、年末にかけての受注の可能性が高い。
一般機械器具製造業（経営者）			・仕事量が十分確保できるわけではないが、最悪の状況からは脱出できそうである。ただし、景気回復ということではなく一時的な発注があったということで、依然厳しい状況には変わりがない。
精密機械器具製造業（従業員）			・来月から生産投入数が増える傾向にある。
建設業（社員）			・建設業者にとっての11、12月はピークの工事量が不可欠である。2、3か月後の官公庁からの発注は期待できないが、手持ち工事の繁盛期になっている。
変わらない		金融業（営業）	・円高の影響が懸念されるが、製造業の受注は回復傾向にある。中国向けの輸出が主体であり、3か月後は落ち込んでいない。急激な回復はないが緩やかに上向き、景気は落ち着く。製造業は国内向けの製品が元々少なく、消費の減退は受注減につながらない。
		農林水産業（従業者）	・景気が回復しないと牛の価格がなかなか元の価格に戻らない。12月の需要期を前に少しは上がるが、ほとんど変わらない。
		食料品製造業（経営者）	・口蹄疫は終結したとはいえ、依然その影響が残っており、取引先の来客数の減少が著しい。そのため売上の前年比も減少傾向が続いている。11月になればやや回復するのではないかと楽観的な見方もあるが、予断を許さない。
		家具製造業（従業員）	・年末に向けて需要期となる家具業界であるが、ここ数年の需要期の指数は100を少し越えた程度であり、相変わらず高級家具の売行きは最低水準のままで推移している。また、格安な中国等で生産した家具が大量に販売され、売行きが鈍化している。消費に結びつく全体的な収入の増加がなければ、これ以上の伸びは期待できない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・新聞紙上では大企業が業績を伸ばし、利益を上げているが、地方、特に零細企業においては消費の動きが悪く、低単価の状態でも推移している。当社の商品の動きも大変悪く、来年は休業も視野に入れなければならないと危惧している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		電気機械器具製造業（経営者）	・一般的に電子部品関連、特に半導体関連は良い状況で推移しているが、今まで以上に良くなることはなく平均した数値で推移する。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注量は良くなっているものの価格と納期の基準が不透明であり、先行きは判断しにくい。これから少しは良くなるが、特に中小企業は非常に厳しい状況が続く。仕事量は増え、景気回復の感はあるが単価の面で変化が起こらず、厳しくなる。	
		その他製造業（産業廃物処理業）	・景気回復の活発な動きは期待できないが、現在、定期修理中の製造ラインが稼働することもあり、一時的な受注量アップは期待できる。しかし月間通してみれば、現状と変わらない。	
		輸送業（従業員）	・これから年末にかけて、例年通り荷動きは良くなるが、今月の上半期の実績が良くないこともあり、荷主からは値下げの話がちらほら出ている。物が売れないため、荷主としては物流コストを削減せざるを得ない状況で、そのしわ寄せが倉庫を始めとする物流業者にきている。季節的要因を除くと景気は良くならない。	
		輸送業（総務担当）	・今のところあまり大きな変化はないが、少し寒くなってきたため、秋物衣料はこれから稼働する。しばらくはこのまま推移する。	
		通信業（職員）	・九州では情報通信関係の大型公共工事が多数発注されており、年末ごろまで続く。	
		金融業（営業職涉外係）	・円高、株安、雇用不安等の問題があるなか、政府の具体的な景気対策もみられず、景気は回復しない。	
		金融業（得意先担当）	・当面、今の状況はなかなか改善しない。金融機関側にとっても新たな資金需要、発掘があるわけではなく、他行、競合先の貸金の取り合いという状況が続いている。既存にある貸出金の奪い合いが中心となっており、本来ある資金需要に対応した貸出金が出ておらず、景気回復や取引先の回復は見受けられない。	
		金融業（営業担当）	・政府の抜本的経済対策なしには、取引先の中小企業には現状の低迷した状態が続く。	
		広告代理店（従業員）	・9月の受注量は大きく後退したが、10月の受注予約は好調である。もちろん上昇しているわけではないが、底で踏みとどまっている状態である。しばらくは踊場の状態が続く。求人や金融のチラシが増加している。この業種は景気を直接反映するので、今後景気回復の前兆なのかと期待している。	
		経営コンサルタント（代表取締役）	・今のところ悪化する兆候はみえないものの、景気が上向く兆しもみられない。また、将来に向けた積極的な設備投資や人材投資を行っている取引先がほとんどない。	
		やや悪くなる	繊維工業（営業担当）	・良くなる要素が全くない反面、悪くなる要素がたくさんある。生活に安心感が全くない。
			鉄鋼業（経営者）	・8月に入り主原料である鉄くず価格が上昇に転じ、製品価格に先高観が生じたために需要家は手持ち物件の材料手配に動いたが、建築や土木物件共に需要の絶対量が乏しい。一時的な材料手配の後は引き合いや成約は共に閑散としており、建設需要の回復の見通しが立たない。建設業に関わる企業の与信問題が、ますます危惧される。
			金属製品製造業（企画担当）	・円高、株安等の悪材料に加え、中国との関係悪化による輸出の減少等、懸念材料がますます増えており、先行き不透明感が強まっている。
一般機械器具製造業（経営者）	・ここにきて景気の様子見をしている取引先が増えており、引き合いが減少しつつある。			
建設業（従業員）	・厳しい受注状況に加え、競争激化に伴い利益確保が大変厳しくなっている。			
金融業（調査担当）	・取引先への円高調査では、円高が長期間続けば、物価にもデフレの影響がより深刻化し、景気の減速につながる恐れがあるとの回答が多い。そのため、今後2、3か月間、円高が続く場合、現時点よりも景気が悪くなる。			
広告代理店（従業員）	・売上が前年割れで推移しているので、少しずつ落ちていく。			
経営コンサルタント（代表取締役）	・現時点で地方への影響はそこまではないが、ここ最近の円高傾向は大企業にとってはかなり大打撃であり、地方経済においてもじわじわと影響が出てくる。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔物 品リース〕（従業員）	・地方における景況感はやっと幅広い分野で改善の動きがみ られ、設備投資の入替需要等が出始めた。しかしその矢先、 対中国問題を筆頭に対外経済環境の悪化が懸念される。また、 政治の混迷等近い将来のマイナス材料があまりにも多 く、先行きは厳しい。
	悪くなる	輸送用機械器具製造業 （営業担当） 経営コンサルタント	・生産量は減少するため、今後、悪くなる。  ・売れないのに競合他社が多く、競争が激化している。客の 様子をみると、飲食店ではなく、家庭で飲む人が増えている。 飲食店では在庫過多の状況で、今後も厳しい状況が続 く。
		その他サービス業〔設 計事務所〕（代表取締役）	・市町村からの業務の発注が多くなることは考えられず、建 設コンサルタントは業務の減少が今後も続く。緊急雇用対策 事業がなくなると、その影響は大きく、仕事量は激減する。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・中国や韓国等からの観光に期待し、依存傾向にある九州地 区では、社会情勢の影響を大きく受ける。九州新幹線全線開 業で一時的に良くなるが、中長期での見通しは厳しい。
		職業安定所（職員）	・ここ3か月間の新規求人は連続して前年比2けた増となっ ており、企業の従業員の解雇数も減少が続いている。一部製 造業では有期社員を採用しており、景気は改善の傾向にあ る。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業担当者の話では、状況は良くなっていない。一部の製 造業では注文が増えつつあるが、もう少し様子を見てみたい という声が多い。人手を増やすまでの決断が出来ない企業が多 い。
		人材派遣会社（社員）	・動きは出ているものの、売上の増加にまでは及ばない。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・博多駅ビルの再開発で見込まれる雇用創出の動きが10月か ら本格化する。
		新聞社〔求人広告〕	・求人数が好転するような材料がみえてこない。
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・経済対策の効果減少や円高が企業活動に影響し、派遣等へ の雇用にも波及する可能性がある。
		職業安定所（所長）	・求人倍率は右肩上がりになってきたが、新規求人に大きな 動きがみられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数をみると改善の兆しはあるものの、円高による 製造業への影響や卸売業、小売業は価格競争が厳しい状況に あり、先行きは依然不透明である。
		学校〔大学〕（就職担 当者）	・来年3月の卒業生を対象とした求人は極めて低調である。 人事担当者との話題は、平成24年3月卒に関する内容にシフ トしつつある。
	学校〔専門学校〕（就 職担当）	・どの業界からも好転する話を聞くことができない。人事担 当者が採用計画をりん申しても経営陣で待ったがかかると 企業が見受けられる。経営層に引き締め感が漂っている。	
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・円高の影響や政局の不安から雇用意欲が減退している。また、 政府の雇用対策が遅れており、現状よりやや悪くなる。
		人材派遣会社（社員）	・厚生労働省、各県労働局による政令業務適正化の影響もあ り、派遣先も派遣労働者を利用しづらくなっている。
		職業安定所（職員）	・求人数は緩やかながらも改善しているが、円高や経済対策 の一部終了を踏まえると雇用情勢の悪化も懸念される。また、 企業の先行き不安や不透明感が払しょくできない状況とな っていることや新規卒求人が依然として厳しい実態にある ことから等から、やや悪くなる。
職業安定所（職員）		・デフレや円高等の影響により、管内企業は受注量に先の見 込みが立たず、苦しい状況である。雇用調整助成金の申請も 減少していない。	
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・新卒は雇わない、転職も難しい、派遣も労働者派遣法の改 正により利用しづらい状況が続いている。雇用する側も成長 のための雇用はしていない。成長に合わせた雇用と中小企業 の求人とのミスマッチをどう解消するかを言及する時期であ る。	
	民間職業紹介機関（社 員）	・労働者派遣法の改正により、派遣需要の見込みがたたない 状況である。適正な運用をはかったうえで、派遣を活用とい う動きも出ているが、まだ一部の企業にとどまっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関(支店長)	・労働者派遣法改正を見越した客の需要が再び冷え込んでい る。9月末契約終了以後、派遣労働者を雇用しない企業が続 出している。繁忙期である下期にも期待できない。

11. 沖縄(地域別調査機関:(財)南西地域産業活性化センター)

(- :回答が存在しない、 :主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店(営業担当)	・前月から今月にかけては台風の接近や甲子園での地元代表 校の大活躍、催事と件の変更などでの前年比マイナスが目 立っているが、各部門の店頭売上については動向が上向いて おり、急激でこそないものの、緩やかな回復に期待したい。
		コンビニ(経営者)	・たばこ増税で、単価がアップすることが見込まれる。
		その他専門店[書籍] (店長)	・ここ3か月の来客数の動きを見ると、わずかではあるが伸 びている。年末に向けて更に伸びる。
		旅行代理店(代表取締役 役)	・秋は団体旅行シーズンで、県内行事が目白押しなので、こ こ数か月は景気が良くなる。
		通信会社(店長)	・11月以降新商品の発売があり、特に外国人に訴求力が強い スマートフォンの発売が多くあるので期待が持てる。
	変わらない	コンビニ(エリア担 当)	・たばこ特需の反動で、来客数も減少するため更に売上は悪 化する。たばこ以外の商品を売り込まない限り、収益構造も 悪化する。
		コンビニ(エリア担 当)	・10月はたばこ増税により買い控えが必ず起こる。ただし、 他商品の動きを見ると単価は相変わらず厳しいものの、大き な買上点数の減少は見られず、底を打った感がある。
		衣料品専門店(経営 者)	・この数か月で変わったことは無く、1点単価、客単価共に 前年と変わらなく推移している。買上客数が少ない状態が継 続している。
		衣料品専門店(経営 者)	・良くなる理由も無いし、悪くなる理由も見当たらない。正 直なところ、先が読めない。
		その他専門店[楽器] (経営者)	・前年から部署の縮小、配置換えを行い、商品の構成を変 えて在庫処分をしてきたが、新製品など新規事業等の努力をし ないと売上の回復は非常に厳しい。社員のリストラや給与体 制にもギリギリ感があり、良くなる環境はまだまだ無い。
		観光名所(職員)	・現在の日本経済は円高と厳しい状況にある。また、これか ら中国との経済関係では警戒心を持つことになり、取引の拡 大は厳しく、日本経済は閉塞感が出てくると考えられる。そ の影響で、県外観光入域客に頼る沖縄観光は厳しい状況にな ると予想する。
		ゴルフ場(経営者)	・良化する要素が見当たらない。この傾向でずっと続きそう な気配がする。
	住宅販売会社(総務・ 企画分野)	・客が価格・品質・サービスに対して、より慎重な判断をす る傾向がますます強くなると予想される。潜在的な需要はあ ると考えるので、トータル的には変わらないと見込む。	
やや悪くなる	スーパー(販売企画担 当)	・厳しい状況が続いているなかで、競合他社の新規出店や スーパーからディスカウント店への業態変更などの情報があ り、更に競争は激化すると予想される。	
	コンビニ(経営者)	・増税を機にたばこをやめる人が多くなり、たばこの売上が 減少する。	
	観光型ホテル(マーケ ティング担当)	・沖縄の観光シーズンである夏も終わり、徐々に予約受注状 況が鈍化してきている。10月末からは羽田空港新滑走路の開 設及び円高により、海外旅行マーケットが過熱すると考えら れる。また尖閣諸島の問題により中国からの観光客減が予測 されるなど、マイナス要因が大きい。	
悪くなる	その他飲食[居酒屋] (経営者)	・地域市場の変化で地元客数が減少している。また10~11月 は観光客も減少するので、店舗間の異常な低価格競争や、飲 食店の客引きのしつこさによる印象の悪化が表れる。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	通信業(営業担当)	・2~3か月前と違い、受注前に案件がキャンセルになった 等の話を聞いたことが無い。
	変わらない	建設業(経営者)	・引き合い件数及び、見学会への来場組数が横ばい状態であ る。
輸送業(営業担当)		・受注量や受注見込み案件が若干増えてきていることもあ り、受注量の点では若干だが期待している。ただし販売価格 については引き続き厳しい状況が続く。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（代表者）	・現在発注されている公共工事分の納入時期でもあり、特に大きな変化は無い。
		広告代理店（営業担当）	・2～3か月先の景気は変わらないと予測するが、ここ最近、沖縄県の基幹産業である観光産業を中心に投入された各種特別補正事業の効果次第によっては、外貨獲得への期待感が高まり、好景気へつながる可能性があるかもしれないとみている。
		会計事務所（所長）	・円高で輸入コストは下がる傾向にあっても、売上自体の伸びが厳しいことが予想され、当面景気回復は無いのではないかと。
	やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・2～3か月先の工事予定物件がみられない。
		コピーサービス業（営業担当）	・全体的に受注量が減少している感がある。また選挙があるものの、受注価格が大分下がっているのであまり期待はできない。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（総務担当）	・企業が、今まで派遣社員として採用していた人材を正社員として再採用し始めている。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・派遣依頼はある程度はあるが、人材確保が課題で依頼数が数字にそのままつながらないもどかしさがある。また観光産業の落ち込み、今後の苦戦も伝えられ、経済への影響が予想される。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・最低賃金が上がるといことは、今後販売する商品の値段も上がる可能性がある。そのため、一般消費者の購入意識も減少する。
		職業安定所（職員）	・資格と経験を求める求人側と求職者側とでミスマッチが生じており、この傾向は続く。若年者の育成・養成等が緊急の課題である。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（総務担当）	・尖閣諸島問題が観光業界に影響を与え、結果的に飲食関係も含め何かしら求人数の減少を招く要因になりかねない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・県内の求人数が減少傾向である。特に観光系や印刷・デザイン関連、IT関連の一部で新卒向けの求人が減少している。企業の余力が無いため、新卒より経験者を求める傾向が強くなっている。
悪くなる	-	-	